



■青年劇場「結婚という冒険」 作・演出 ジェームス三木

■劇団銅鑼「ナナちゃん宇宙人」 作・大橋喜一／演出・早川昭二



“湯の山ゼミ”につどうなかまたち



1985年8月25日・全体集会

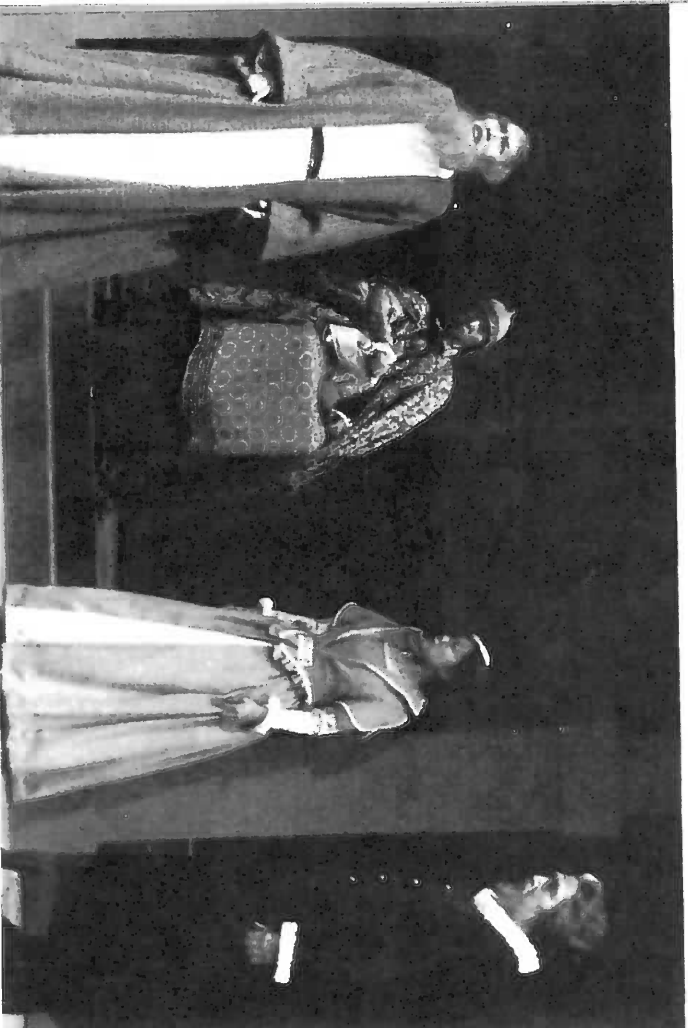
参加者の内訳(合計三三名)

- 東会議 (二八)
- 弘旗 1 文木 2 堤菜座 1
 - 仙吉小 2 塔雲 5 青年劇場 6
 - 銅鑼 2 東京芸術座 8 世仁下 1
 - 石るつ 7 京浜 15 静雲 4
 - やまなみ 4 からっかせ 7 岡崎 14
 - 名芸 19 流集 13 名古屋 15
 - 四日市 9 上野 8 すかお 12
 - はぐるま 21 夜明け 6
- 西会議 (九八)
- 関雲 3 潮流 1 未来 15 きづがわ 12
 - 大阪 16 2月 1 息吹 10 わだち 5
 - 京芸 1 四紀念 7 どころ 2 やぎ 4
 - 神戸職 4 月曜会 3 若香座 2
 - 草の実 2 こじか座 3 阿波つ子 2
 - 現代劇場 4 生活舞台 1
- 友好劇団 (三二)
- いぶき 12 津濱 3 火の鳥 2
 - アイチ・インタ・ナショナル 1 大阪府職 4
 - 大阪労連 2 京都府職 瞬 2
 - 国鉄鷹取 3 個人 2



■ 関西芸術座「姥ときめき」 作・田辺聖子 演出・道井直次

■ 劇団京芸「商人」 作・アーノルド・ウェスカ 訳・竹中昌宏 演出・藤沢 薫



■ 演劇集団和歌山
「情無用荒川太鼓」
作・森井 淳
演出・栗原 省



■ 劇団群馬中芸
「郵便屋のテクルさんと宛名のない手紙」
カレル・チャペックの原作より・中村欽一作
演出・ふじた・おぢや



■ テアトル・ハカタ
「鱒の海」
作・佐々木武観
演出・野尻敏彦





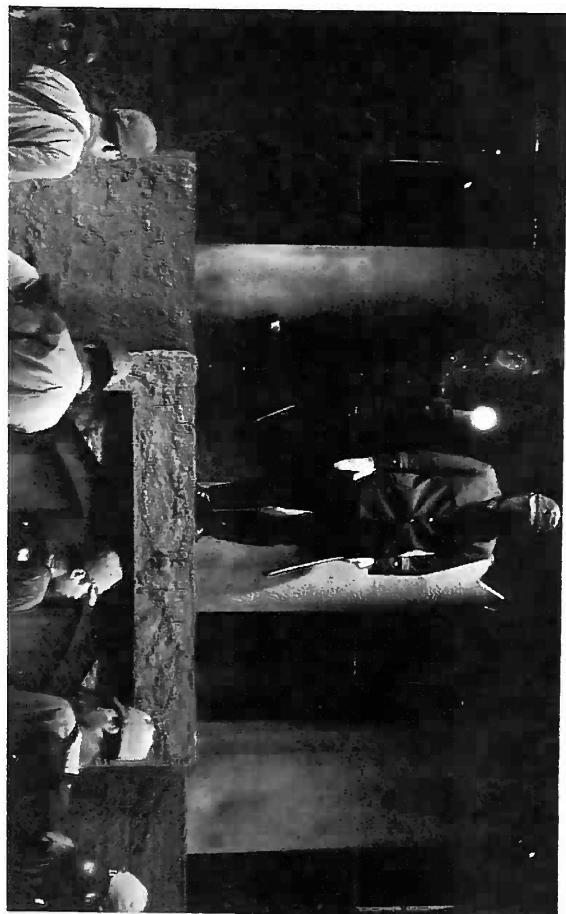
■ 仙台小劇場
 台本・こばやし・ひろし
 演出・石垣政裕
 「はだかの王さま」



■ 劇団いぶき・はぐるま合同公演
 「安寿と厨子王」
 作・ふじたおさや
 脚色・滝田 二じやし・ひろし



■ 大阪目連連合同公演
 「荒野の落日」
 作・土井大助
 演出・堀江ひろゆき



■ 大阪目連連合同公演
 「荒野の落日」



ゼミナール分科会のスナップを
 ひとつ。「私と劇団」のグループ。
 名古屋演集の樋口のり子さん提供。



■ 演劇集団土くれ
 「第三帝国の恐怖と貧困」
 の中より「スバイ」
 作・アレヒト
 演出・福田悦雄

なにか？
どのひ
てみれ
者が一
上演「
希望荘
交流会
た分科
誰にし
それ
めもの
紙でふ
は四〇
を越す
八〇〇
こんで
の諸行
いうま
かし、
う、そ
ずにお
しいけ
ぼくは
劇団四
困いぶ

念講演 私の映画づくり 山田洋次氏

第4回全日本リアリズム演劇会議

湯の山ゼミナール

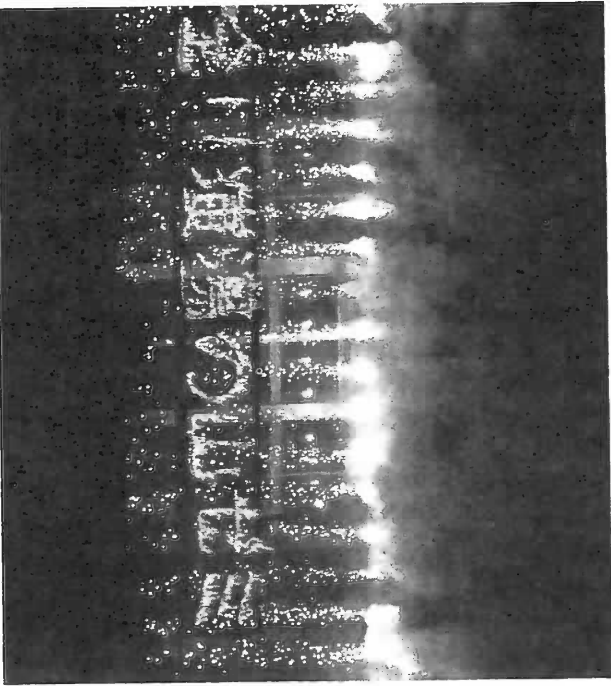
1985 8 24・25



垂れ看の湯の山ゼミのシンボルマークは御在所岳の「かもしか」水上貴史氏（すがお）の作品。
壇上は山田洋次監督。下は中年の男性もまじるギヤルの大行進。曲の名は知らない。



があっ
る癖け
ない。
とは
りなく
督はは
役とな
かで紹
とに紹
数少な
演劇を
ある。



1・全国ゼミナールの記録

「った「安寿と厨子王」の上演—

萩 坂 桃 彦

1 三重県三重郡孤野町
絵鹿山脈のゼミアウンテンと
つに御在所岳というがある。海抜
トル。その麓に、周囲の山に、
かれるようにして静もり、位置す
山温泉である。
近鉄特急の案内書によると、名
〇分、大阪から一四〇分と、通勤
「および」が載っている。正確に
三重県三重郡孤野町である。劇団
表、森賢郎氏の居住地がこでもあ
書いておく必要があるかもしれな
第四回・東西合同の全リ演ぜミ
一九八五年八月二四・二五日、こ
湯の山温泉の希望荘を宿舎として
別に開会集会、モナル上演、記念
これから車で二〇分程で行ける孤野
会福祉センターを使用したので、

の平均年齢も48、49、おもなキャストの
「寅さん」を撮り出しては十七年。スタツ
心たのこた話の幾つかを紹介しよう。
なぞして聞き耳を立てている。
を誘ったし、きょう初めての聴者は、熱いま
い深い語りくちは、いっそう再会のよろこび
ている。不器用なのでイライラする。見る
がいぞまに声をかけられた。「ハギさんじや
ないですか」と速射砲のように浴びせかけれ
たが、顔にはどこか見覚えがあるのだが思い
しやっている。
すると、この春、35作目に、独立プロでも
経験のある、もう一人の青年があらわれた。
という。「フジタニです、フジタニ、仙鶴
これは気がきく。こちらの気持をすばやく諷
刺いた」とかぶせてきたので、想い出した。

ああ、あの藤谷君だ。目から鼻へ抜けるよう
な、素はしっこかった藤谷君だ。

しかし、神谷重平さんの「歷程」の頃か、
或はもう少しあととか、横濱葡萄座で知り合っ
た、まだ学生っぽかった彼の姿が生ってまぎっ
た。そこでよくは思ったわけである。今の監督

の話、伴れて来ているこの藤谷君のことでは
ないだろうか、藤谷君も聞いている筈である、
若しそうだとすると、山田洋次という人物は
大へんなヒトだなアと感にたえたが、おそら
く山田さんのイライラされているのは、まさ
か当のフタ君ではあるまいと、自分に言い
きかせたりした。

映画企業の資質の話にもなつて、アメリカ
映画の話がされた。総理府という妙なとこ
ろから、舶来品をどの位お使いですかという
アンケートが来たが、映画では、キヤメラ、
録音、照明、編集用器具、全部アメリカ製だ。
アメリカ映画の飼料だつて年、三〇〇ドルは
費っている。それに貿易収支でもアメリカ映
画はお話にならぬ輸入超過で、しかもそれに
は関税がないから入場料の70パーセントはア
メリカにわたる。一五〇〇〇円の入場料なら

ふかく偵察している。ひとの真似の、アンナ
二うまいはいない。
これもそうした話だけ、風呂場のシン
がありましてね、照明合せの待ち時間に、屋
美さんはお湯をかきまわしてみせる、それが
肥びしやくを使つての木、おウイを汲み出す
じぶさ、こういう仕事をしている人は大抵、
在日朝鮮人の小父さんだ。黙つて、かき
まわして、こぼさないように汲み出す、どこ
か尊敬な姿、それを感心してみただんですね、
人間が一生懸命働いている姿をまねる、余り
働くことの好きでない筈の俳優がそれをやる
という関係がおもしろい。

「浅草の活躍ぶり」は、「演劇大学」で話さ
れたところと重なる部分もあるので、五九号
の「山田洋次さんの話」を読んでいただくこ
とにしよう。）
「だから、重美さんは七歳の頃から俳優の
勉強はして来たことになる。「重さん」をや
り出してからは生活を養えていった。自分を
たのしませるものを切りはなしていった。真
さんの孤独、山奥の仙人のような、無欲な
たち近づくためだ。
重美清と倍賞千恵子にはスバ抜けたプロを
感ずる。「重さん」は基本的にはこの二人で

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

彼は勉強にはむねが仲間を観察していた。白
い運動靴を穿いている先生を見ていた。興味

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

4 燃え上つた交流会

「ウイットネス」「キリング・フイルド」な
ど。これにはAクラスのスターが出ていて、
界だが、そこにはかくれている部分がある。
「花伝書」には、俳優は七歳から芸ごとには
げめとある、そのとおりだと思つ。
重美清は十八歳で川崎のストリップ劇場が
初舞台だが、その前は浅草で、まア言つてみ
れば不良少年。小学校の成績もビリから二番
目、一番ビリは知恵おくれの少年だった。ク
ラスの一番うしろに坐らされている。重美少
年は天井を見上げたり、窓の外を眺めたりし
ている。一時間の授業のうちにはくたびれて
くる時があつて、生徒たちがうしろを振りか
える、重美少年は、それに、ニコリ笑つて
見せる。みんなは、また元氣になつて勉強す
る。彼はそれがわかつている。勉強している
ときは役に立たない、ひと休みするとき役に
立つ。一番ビリのくせに、どこか安心してい
る重美少年。

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

持っている。倍賞千恵子は歌手志望だがSK
Dに入り、徹底的に訓練を受けた。
人の映画入りの頃、百人位の大部屋で、全部
彼より出来た。小津安二郎が着目したのは、
彼の誠実さ、ひたむきさであつたが、見出し
た小津がえらい。「東京物語」では四八歳で
七五歳の役、笑つて胸に皺が出来るといふの
で笑つてばかりいた。
大体小津組にはヘタな人ばかり。例外的な
は杉村春子だけ。三宅邦子は顔立ちが上品と
いふことで使われた。芝居をするといわれ、
いふことを使われた。芝居をするといわれ、
いづれも山田洋次監督の演技指導、もしく
かつたので正確ではないし、質問者の名前も
とにしよう。）

一寸した異変である。真暗な山道の岐れ道に

立って、懐中電燈を振りながら道案内をして
いる劇員の姿を見て、ぼくの胸は熱くなっ
た。ぼくとカミさんに乗せて走る車は、劇
団からつかぜの布施佑一邸氏であった。

希望荘に着くと、すでに夜空の星の下で、
大交流会場の舞合裏側は出来ている。メイ
ンステージには明るい照明を浴びてマイクが林
立している。

ところでオーニオン・イン・ア・モーションはステージ
の前の広場をへだてた、ステージに向ってほ
後の側、そこに何やら横長の木の枠が組まれ、
その根元からボーン、ボーンと山あいに響し
てうち上げられる花火の祝砲からであった。

誰かが絶叫する。「おお、全り演が燃える
手と怒濤の歓声である。
誰かが絶叫する。「おお、全り演が燃える
手と怒濤の歓声である。
誰かが絶叫する。「おお、全り演が燃える
手と怒濤の歓声である。

この、全り演史上初の「仕掛花火」による
歓待の裏話は、あとの加藤武夫氏の文章でも
委しいので、お急ぎの方は、そちらの頁へど
うぞである。

すぎない。
屋台の飲みものはすっかり売り切れたよう
であった。

5 分科会について

翌二五日、第二日の午前九時から正味四
時間ほどの分科会は科目が五本で十五教室に
もわけられた。その教室毎のチャーターなり
書記、もしくは参加者からの感想を収納する
のが至当であるが、膨大な量になるので諦め
ざるを得ない。今後の参考のために、ひと先
ず、チャーター名だけでも記録しておく。

① 新人教育 山本綴一郎（きづがわ）

西尾 臣示（劇団未来）
萩坂 桃彦（演劇会議）
河野 司（やまなみ）
堀江ひろゆき（大阪）
川村 武夫（劇団埼玉）
佐野 秀明（劇団名芝）
隈広 誠一（京浜）
吉木あゆみ（てじか座）

④ わたしと劇団

盛炭 正昭（東京芸術座）
奥田 康雄（神戸戯演）

花火が尽きるとベントの開幕。司会

は、これもピクasin、ベントの名古屋演集
の北原雅子さんと劇団大阪の清原正次さん。

参加集団の紹介である。紹介を受けた集団
は中央広場に躍り出る。これの妙妙なプレイ
の喚声でト肝を抜くのもあれば、たった一人
の参加で、走り抜けて行く疾くましいものもあ
る。「演劇大学」名儀のぼくら夫婦も、おし
どり道中で恥をさらす破目になった。

もう一つ恥をさらしたのは乾流落音の音頭
のとき。すっかり言葉も失って足がガタガタ。
こんなことでアがる筈がないのだが、実は、
ぼくの前に森賢郎実行委員長の挨拶があり、
彼は、アウテンの寅さんのいでたちであらわ
れ、瀧美清を真似た口上で、満場を湧きに湧
かせ、満座の人気をさらっていつてしまった
直後のためである。頭の中が真っ白になる虚
脱感である。何を喋ったかおぼえていない。

動き、マイナルは大合唱、「なくしたくな
い、この燃える熱いもの、生きてゆくのが
つらくなくても」とくり返す「青春」の歌
である。
もちろんぼくはこれらを逐一おぼえていた
わけではない。どよめきの中で、垣間見たに

② 劇団いぶきの出渡者を困んで

若崎 徹（劇団息吹）
遠山 紀元（名古屋演集）
山本 哲也（劇団やぎ）
船渡 治郎（はぐるま）

以上であるが、これはいかに無愛想なの
で、アンケートや速報の声の中心に、いくら
も捕っておくことにする。アットランダムな
で、京浜の方から△若い人は生きる基本が
できていない、権利意識もはいつていふ発言
にアットと思った。自分の生き方をしかり
見つめることの必要を再認識した。

「生れて初めて参加した私は耳が不自由で
見つけることの必要を再認識した。」
・「分科会かもう少し時間があればと思った」
・「川崎で労働者として頑張つて芝居つく
ている話、△暗い、重い、長いなど感覚的
な言葉に感わされず、事の本質をどこに見る
か、表現するかというところの大切さを感じた」
・「萩坂さんの挑発がグサツと来た。がんば
ります。」
・「△新人教育Vについて、大変勉強にな
りました。」

・「「わたしと劇団」に出たが、中たるみし
ている自分はずくて刺激された。地元に戻
てはスコイ活動をやっておられて刺激をうけ
た。」
・「「わたしと劇団」に出たが、中たるみし
ている自分はずくて刺激された。地元に戻
て新しい気持ちでがんばる。」
・「チャーターの山本哲也さん、お疲れさま。
理由は何を見て、疲れる。」
・「内容として得るものがあったが、話が盛
り上がったところで時間が来てしまった。
・「今後、何回かせんに参加して分科会にも
と発言するようにしたい。みんな個性豊
かな方はかりでとてもタメになった。」
・「時間が短かったのと、テーマへレバ
トリイと観客Vが大きすぎたこと、もう少し
出席には先ずはおどろき。生々しいレポート



細分化というか、いくつかの柱を立ててやっ
た方が、話の内容がしぼれたと思う。想像以
上に若い人が多く、はげまされた。

ついでなので、ほくが担当した「創作劇」の
模様をご参考までに紹介しておこう。

この分科会の設置を申し出たのは、東・
西で六、七人の「作者」たちが集ってくれ
ばオンの字で、隠し酒を持ちこんで乾杯して
別れてもいいと、冗談半分、気楽に考えてい
たが、蓋を開けてみてびっくりした。四十名
近い申し込みがあり、むしろ慌てたのはこ
ちで、何とか減ざれぬものかと、他の分科
会への変更を奨めたりしたが、それでも三十
名近く集まり、結局自己紹介だけで時間切れ
になってしまった。

しかし、これは失敗ではない。何を、い
かに書くかという「創作劇」の厄介な問題は、
三時間や四時間で目算をつけようというごと
く、要は書き手の心の問題である。書きたい
衝動がなければ話にならない。何よりも創作
は、不言実行が先決だ。こんなのが書けまし
たというのなら話になるが、あれが書きたい
これが書きたいと喋ってみたい、ましてや、

それで、あつた河合さん、きびしい状況にある高木
さん(註・安寿で、母かやの役)を引き込
んでの今公演は、間際まで上演不能になるの
ではないかという危機感で進めてきた稽古で
した。六月の全国大会以後、河合さん(三郎
の役)の代表として、以前「いぶき」の代表で
あつた福井さんに参加してもらえらるという事
だったが一向に稽古に出て来ない。依子さん
に確認すると、どうもだめらしい。それで再
度河合さんということと、なんとか後藤さん
(ナレターの役)にお願ひするという事で
ホッとする間もなく、今度は突然、下村君
(帝の役)がだめだと言う。カククリノ幸い
代役は彼の後輩の鈴木君に頼んであるとい
事で、先ず彼の特訓が始まった。
そんな時、またまた凶報、河合さんの興き
んが入院。とても「安寿」どころではないとい
いう。ああもう、だめだ!

これは舞台監督船渡貞昭君の誘懐であるが、
創造面でも「いぶき」の俳優さんには、前
やつたことをナゾるのではなく、更にさらに
とぞを種恨している。こういう船渡君の、
「いぶき」の人たちとの会話では言葉が使え

科会」に集つてもどうしてこんなに「創作劇分
科会」に集つたのであろう。

分析してみると、各集団の制作者や演出者
が何人もいる。勿論現役の書き手もいる。さ
らに劇団の中でウツボツとして若い書き
手志願の顔もある。古い書き手がどうして書
けなくなるのかを検証するために参加したと
いう貴重な発言も出た。

つまり、劇団の動きそのものが、運動とし
ても、イデェとしても、壁を突きぬけ、何か
新しい局面を得たいという欲求となつて、そ
れがいま、「創作劇」となつて浮んで来たとい
うことである。

これは劇に衣をきせせずに語る、どの一人ひ
加してきた忌憚のない発言は、いかにもはぐ
るま的である。裏返しのアツテションはこ
ばやしリアリズムだ。

しかし、それらすべてを紹介するのはさし
かして、その目的ではない。「安寿と厨子王」に
限つて、お一人ほどの手記を拾つて見るにと
どまる。
「今回は長い長い長いゼミはありませんでし
た。六月の全国大会(註・多分、ろう者の
意味では、この分科会とは、ほんのトツカカリ

ないことを一寸想像するだけで十分である。
よく頑張つたと思う。
「予想どおりホール着劇。客席は見やすい
が、照明など設備も少なく、馬淵くん(註・
照明の馬淵寿徳)はカクカときている。宮ちや
ん(宮崎尚子)トツちゃん(土田玲子)は
「焦熱地獄」とのこと。昔はレベル合せの時
持ち味がつまつまツツして異和感が余りなか
たが、群衆のどころなどで、声のきこえてく
るのがエーカナーなので少しよかった。△福
めるのです。皆耐えているのです」とい
ころなどは聴得力があり、印象に残っている」
・「改めて手話のすばらしさ、また芝居に手
話のせることなどとてもよく感情表現ができ
るということを感じました。」
・「こんなに知られた物語で感激することは
には「きれいだなあ」と思わず見とれた。
青年劇場の島田さんもおっしゃっていただけ
「はいつめた薄陰感、がたがたよい舞台たっ
た。はぐるまの奴婢たちもようやく舞台上に
なじんできた。考えてみれば超豪華メンバー
の奴婢たちだ。」
これは声の出演で、やり終えてホッとした
気持の坂田正子さんの文章ひと筋りである。
さて、上演に対しての、客席の同業者から
の反応はどうであつたろうか。その数は五〇
過ぎていたと思います。自体全体での表現は

6 ふたたび、「安寿と厨子王」

この拙文の途中でもふれたように、もう一
度、「安寿と厨子王」の上演の内側、そして
アンケートなどにもふれた反響について紹介
してみよう。

劇団はぐるまは団内機関紙「はにわ」で、
全公演の特集をしている。はぐるまは三
十一名をゼミに送りこんでいるけれど、それ
でも全劇団員の1/4であつて、残りの3/4に對し
てゼミの意義を必死に訴えている。
「運動の衰弱」ということばやしさんの観察
もあるが、一人一役で、それぞれの部署で参
加してきた忌憚のない発言は、いかにもはぐ
るま的である。裏返しのアツテションはこ
ばやしリアリズムだ。

しかし、それらすべてを紹介するのはさし
かして、その目的ではない。「安寿と厨子王」に
限つて、お一人ほどの手記を拾つて見るにと
どまる。
「今回は長い長い長いゼミはありませんでし
た。六月の全国大会(註・多分、ろう者の
意味では、この分科会とは、ほんのトツカカリ

○入収容のホールで約四〇〇人であつた。ア
ンケートの回収はその19パーセントである。
「感動した」「魅せられた」などの重複して
いる簡単なものは省略して、いくらか立入
て書かれたもののみを紹介する。
・「初めて見ました。劇のスタイルと手話の
持ち味がつまつまツツして異和感が余りなか
たが、群衆のどころなどで、声のきこえてく
るのがエーカナーなので少しよかった。△福
めるのです。皆耐えているのです」とい
ころなどは聴得力があり、印象に残っている」
・「改めて手話のすばらしさ、また芝居に手
話のせることなどとてもよく感情表現ができ
るということを感じました。」
・「こんなに知られた物語で感激することは
には「きれいだなあ」と思わず見とれた。
青年劇場の島田さんもおっしゃっていただけ
「はいつめた薄陰感、がたがたよい舞台たっ
た。はぐるまの奴婢たちもようやく舞台上に
なじんできた。考えてみれば超豪華メンバー
の奴婢たちだ。」
これは声の出演で、やり終えてホッとした
気持の坂田正子さんの文章ひと筋りである。
さて、上演に対しての、客席の同業者から
の反応はどうであつたろうか。その数は五〇
過ぎていたと思います。自体全体での表現は

ろう者の方がすていと思っています。」

そのほとんどに、注文やばげまじを添えながら、何かと困難な時期に、ともかく三百人のなかまを迎えて健闘した中部プロク、わけでも劇団すがお、四口市、上野市民劇場の皆さんには心から、有難う、御苦勞さまを言いたい。

また当日、不眠不休の御苦勞をねがった東西合同で編成した事務局への感謝は、どのフケットにも必ずといっていい程書き添えらる。以上で、まだ沢山のとりこぼしはあると思うが、どうか概要は伝えられたと思う。この言葉で閉じる。

「湯の山ゼミナール」をやり終えて

ゼミ・実行委員長 森賢郎 (劇団四口市)

して、町当局に会場費一切の面倒をみてもらうことであった。

蕪野町社会教育課文化係へ申し入れた所、「小学生ら、子どもにも観劇させてもらえるなら」と、子どもの入場を条件に協力が得られそうになった。

四月十九日(金)、劇団はぐるまの山口君より連絡が入り、子どもの入場は絶対やめて欲しい。中学生以上を観客対象にするように注文が出て、町社会教育課の意向と鉢合せの形となった。

はぐるま側として、ろう者の演技、手話による通訳、劇の内容からして小学生には難解な舞台で、客席を乱されてはの思いがある。蕪野町担当者は、従来の、この種の催しで子ども入場を禁じては観客動員に見通しは乏しい。

これら私の読みが狂った。まさか一般町民に向けてのモデル上演が、ゼミナール行事に加わることは全く考えていなかった。

会場を管理する蕪野町社会福祉協議会担当者らと協議したが、会場費助成については可能性あるけれど、子どもの入場制限はむづかし

いと結論。とりあえず、屋の一般公演を成功させるための後援団体をつくらねばと、私はひとつ、そこで考え出されたのが、屋に一般公演を

き出された。私は懐集の担当者すべてが出席していた。私は懐集の

この日は、中部プロクを構成する丸劇団と、深く後援している。

は強力に実行委員長を逃げておけば良かった本格的な取り組みの会議を持った。ここで私

泊先の希望荘、モデル上演会場の社会福祉センターを見て廻り、同じ蕪野町に住む拙宅で、

重那蕪野町が、全国ゼミの会場地決められ、

中部プロクの会議があり、ここで三重県三

十月二十一日(日)、名古屋の名演会館で

に考えていた。

上野なら、西会議からも便利だからと、気軽

を探してもらっている、と聞いた。私も伊賀

上野市民劇場に、伊賀上野方面に適当な会場

と、劇団すがおの加藤武君から、来生は全

国ゼミナールの年で、三重県にどの声が多く、

本年に入っで劇団四口市の運営委員長とし

ては、六月末より七月初めにかけてケイ古場

公演をしたいが、全り演の取り組みとの関係

を危惧していた。私は、平常通りの劇団活動

を続けながら全り演の方も取り組んでゆけば

良いと判断した。

これも私の読みが狂った。まさか一般町民

にわたってのモデル上演が、ゼミナール行事

にわたってのモデル上演が、ゼミナール行事

○ゼミ・ひろい話 できれば話①

事務局はOA化

事務局は最新のOA機器で武装、コピー印刷機(電子製本機付)、FIMインキホ

お盆のすぎた八月十八日(日)、劇団す

がオケイ古場で、実行委員会と作業。参加

申込書を何枚かコピーし、短冊状に切り、

これを分科会宿舍の部屋割にまともて調整

の上、一枚の集計表にのりづけして、清書

する作業。短冊がとばないように窓を閉め

扇風機も止め、丸子議長を中心に汗だくの

作業でした。参加者の変更、未確定、記入

もれなど泣かされました。散会はず後十時。

円、金曜七千円、土曜九千円、日本酒飲

み放題のよし。

忘年会は希望荘で

ゼミは希望荘にも大好評。そこで抜け目

のないPR。十二月の日曜日木曜まで六十

円、金曜七千円、土曜九千円、日本酒飲

み放題のよし。

事務局は最新のOA機器で武装、コピー

印刷機(電子製本機付)、FIMインキホ

お盆のすぎた八月十八日(日)、劇団す

がオケイ古場で、実行委員会と作業。参加

申込書を何枚かコピーし、短冊状に切り、

これを分科会宿舍の部屋割にまともて調整

の上、一枚の集計表にのりづけして、清書

する作業。短冊がとばないように窓を閉め

扇風機も止め、丸子議長を中心に汗だくの

作業でした。参加者の変更、未確定、記入

もれなど泣かされました。散会はず後十時。

円、金曜七千円、土曜九千円、日本酒飲

み放題のよし。

劇団四日市はケイ古場公演へ取り組み始め

ているし、私が、そうした動きをすることに
も批判が出た。本来、中部プロダクション会議がな
すべき事だ、私が動くべきとしゃべらないと言
う。

それはそうだが、全リ演でモナル上演を屋
に一般公演などをやった事がないし、私だけ
が菫野に住んでいる。(劇団すがおにも菫野

町民が一人いる)とにかく、どどし前向き
に進めてゆかねばということで、劇団のケイ
古場公演はご無沙汰して、モナル上演の一般
公演の根回しした動き出した。

六月一日(土)、岐阜市民文化センターで
全国ろう者大会があり、そのモナル上演で
「安寿と厨子王」を観劇した。暮あきからぐ
いぐいとくいてむ、その迫力ある舞台に感動
し、この舞台を菫野町民に観てもらうことに
自信を持った。

しかしその折、小林ひろし氏より、入場料
をとることで、運動として成功させるには無料
公演は絶対いけないと言われた。
また、頭が痛くなった。
子どもの入場はだめ、入場料はとる。菫野
町側は三十万円倒をみる限り、入場無料に

七月八日(月)、岐阜より小林ひろし氏、
土野より杉森美君、すがおの加藤君と私が、
この件で鶴崎博町長と会談。社会教育担当者
も加わり、町長の即断で、主催は菫野町社会
福祉協議会となり、「観る会」は名称上存在
し、共催という方向で落着いた。

七月九日(火)、グラントホテル向陽と御
濱に来てもらえた。
かくして、三〇人の一般入場者が昼の公
演に待って頂いた。

八月二十四日(土)、夜更けてというより
二十五日(日)の明け方、私は酒の力もあつ
たが、事務局内で大口論し、夜明けて自宅へ
帰り、開会近くなつて、名芸の栗木君より電
話で呼び戻され、閉会集会には参加したが、
何もそんなに怒らなくても済むことを、自ら
が怒り、自らがそれを悔い、誰め怨めない、
すべて私が悪い、自己ゲンゲに身悶えしてし
まった。恥かしい。

しかしこの種の催しは、これからは私のよ
うな六十歳のオジンを実行委員長とせず、もつ
と壮年の人たちが進めてゆくべきと思う。
省りみてほつとしている事は、急病人もな
と話がついている。

とつ、おいつ、恩恵の末、菫野町民には、
拙宅おて申込めば入場整理券を届ける。町民
に入る。
劇団すがお、上野市民劇場が、主としてゼ
ミナールの取り組みへ、劇団四日市は福祉セ
ンター公演の制作全般を取り組むよう、任務
分けして行動を開始した。

途中の経過を省略して、公演一週間前、劇
団はぐるまの山口君より電話があり、屋の部
会議室で、午後二時より八時まで、中部プロ
ダクションの観客を三〇人以上確保してほしい、三〇
人切るような動員では折角の屋の部公演の
意味がないと、しつかり突破をかけてもら
う。を進めたが、始めより後援協力を依頼してあつ
たので、「観る会」即ち実行委員会の中心
に入ることとは、県警障害者連絡協のみが諒承
即断してくれただけで、福祉関係の動員が
ぐんと伸び、当初より「子ども入場を認める
べき」と主張していた社会教育関係者にも喜
んでもらえらる程、町内の入場整理券がはけて
いった。

そして町民外は、県の障害者連絡協の支援
で、六十八人位、開場前より、暑い中、早目に
入場を待って頂いた。
かくして、三〇人の一般入場者が昼の公
演に来てもらえた。

手前勝手ながら大成功

ゼミ・事務局長 加藤武夫 (劇団すがお)

く、事故者もなく、多数の参加者が明るい交
場内すべて解放し、好きなように使用をど、
希望荘の積極的な配慮には、何と感謝してよ
いのやら。
沢山の人の、精いっぱい善意が、このゼ
ミを盛り上げたのだと思う。

いた。
「菫野町に居住する利点を、いかにこ
の際、活用するか、そのため小さな義理を
背負いてんだが、細心の心配りはやった。
湯の山ゼミナールの開花火火にして、あの
仮設舞台にして、劇団すがおのケイ古場は、
このゼミ成功へ向けて大車輪の働きをした。

八月二十四日(土)、夜更けてというより
二十五日(日)の明け方、私は酒の力もあつ
たが、事務局内で大口論し、夜明けて自宅へ
帰り、開会近くなつて、名芸の栗木君より電
話で呼び戻され、閉会集会には参加したが、
何もそんなに怒らなくても済むことを、自ら
が怒り、自らがそれを悔い、誰め怨めない、
すべて私が悪い、自己ゲンゲに身悶えしてし
まった。恥かしい。

しかしこの種の催しは、これからは私のよ
うな六十歳のオジンを実行委員長とせず、もつ
と壮年の人たちが進めてゆくべきと思う。
省りみてほつとしている事は、急病人もな
と話がついている。

拙宅おて申込めば入場整理券を届ける。町民
に入る。
劇団すがお、上野市民劇場が、主としてゼ
ミナールの取り組みへ、劇団四日市は福祉セ
ンター公演の制作全般を取り組むよう、任務
分けして行動を開始した。

途中の経過を省略して、公演一週間前、劇
団はぐるまの山口君より電話があり、屋の部
会議室で、午後二時より八時まで、中部プロ
ダクションの観客を三〇人以上確保してほしい、三〇
人切るような動員では折角の屋の部公演の
意味がないと、しつかり突破をかけてもら
う。を進めたが、始めより後援協力を依頼してあつ
たので、「観る会」即ち実行委員会の中心
に入ることとは、県警障害者連絡協のみが諒承
即断してくれただけで、福祉関係の動員が
ぐんと伸び、当初より「子ども入場を認める
べき」と主張していた社会教育関係者にも喜
んでもらえらる程、町内の入場整理券がはけて
いった。

八月二十四日(土)、夜更けてというより
二十五日(日)の明け方、私は酒の力もあつ
たが、事務局内で大口論し、夜明けて自宅へ
帰り、開会近くなつて、名芸の栗木君より電
話で呼び戻され、閉会集会には参加したが、
何もそんなに怒らなくても済むことを、自ら
が怒り、自らがそれを悔い、誰め怨めない、
すべて私が悪い、自己ゲンゲに身悶えしてし
まった。恥かしい。

しかしこの種の催しは、これからは私のよ
うな六十歳のオジンを実行委員長とせず、もつ
と壮年の人たちが進めてゆくべきと思う。
省りみてほつとしている事は、急病人もな
と話がついている。

八五年五月 東西合同運営委員会（京都）

に加藤が出席して打合せ。

八五年五月 実行委員会。三重の打合

せ。大綱決定。

八五年六月 実行委員会。「安寿と厨子

王」一般公演のため、現地の関係者

も出席。

八五年七月六日 西会議代表との会場下見

と打合せ。

七月六日 こばやし事務局長、蕪野

町長と委員、会場下見。劇団四日市

と打合せ。

七月九日 実行委員会。

八五年八月七日 三重県の打合せ。

十日 西会議代表と合同実行委

員会。

一七日 三重Gによる作業。

一八日 実行委員会。

最後の二週間は三重グループによる上

げ作業。この間、ゼニエスは劇団すがお

で、財政は上野市民劇場、蕪野町一般公演製

作は劇団四日市が担当して進めました。

「湯の山ゼミ」に当たっての実行委員会及び

事務局の課題としてより心配は

① 三〇〇名以上の参加を得る事とこれは

集会として成否の分岐点と同時に財政的

成否の分岐点でもあった。希望荘の宿泊

料が、二五〇名の場合、四九八〇円。

三〇〇人以上で四六五〇円、この差三

〇円、総額一〇万円安くなるため必死

でした。（結果的には宿泊参加者三〇三

名、せめて三五〇名にしたかった。）

② 福祉センターから希望荘への移動を三

〇分以内に完了させる事。空いている

マイカーと、希望荘のマイクローバス二台

を揃えて「全リ演送迎車」の看板を掲げ

てフロントに待機。道中の分岐点には、

Tシャツ姿の実行委員を配置、みごと、

三〇分移動完了。最後に到着したマイ

クローバスの乗客は二名でした。

③ 大交流会をもちあげるとりわけ仕掛

すがおの稽古場で、実行委員会の反省会を、

またその後の、打上げコンパで、幕を閉じま

した。反省会は、成功に気を良くして十分な

総括にはなりませんでしたが（何しろコンパ

の方が気になつて）、意見は次の様でした。

① 佐渡島の祭典と重なりながらも、三〇

〇名の参加者を得た事は評価してよい。

② 会場を借り切り、入浴自由、ボンチャ

ン騒ぎも〇区の希望荘の会場選択は良か

一日がかりで製作。

当日は、岡崎演劇集団が入手した仕掛

花火（ナイヤガラの滝）を上段に、その

下に手製仕掛花火をセット。

夕刻から繩に灯油を何度か必ませ、要

所箇所には市販の花火を固定し購入者

のミスで煙霧を買ったため効果なしス

タンバウ。

会場ライトの消灯と共に点火、みごと

大成功ノ木枠まで燃えてしまいました。

しかしながら、いずれも何とか克服し

ますは大成功と胸をなで下ろしたもので

す。

かわら版を通して

——心に残した「湯の山ゼミ」——

若葉正則

（劇団すがお）

といぶきの出演経費について一定額補償

をしましたが、最低の実費だけで、多

分に面劇団の好意を負うところが多か

つた。また、蕪野町当局の御好意で、あ

の福祉センターの会場費十数万近くは無料

でした。

つた。希望荘の職員の中にはシン

ドにお客さんやっただし、支配人

は「そんな楽しい会は毎年でも開いて下

さい。

③ 会費八五〇〇円は適当、内容からみて

も良かった。

④ 「わが街」わが劇団」のメインテ

を掲げない、これを生かすプログラム、

演出に欠けていた。全リ演運営委員会

との連携不足を痛感。

⑤ 大交流会の立食バーテ、飲物も食べ

物も之しく、工夫を要す。また、乾杯す

るまでに食べ、かつ飲みつされるテ

ブルが出た。お蔭で、希望荘の模擬店ほ

よく売れたようです。

⑥ 大交流会の終り方に一考を要す。あの

フイバーびりでは定刻に終わらないまでも

もう少しうまい終り方はないものか？

⑦ 分科会は時間が短く、討論が深まらな

かった。遠方の参加者の帰路を考慮して

の事ではありましたが、やはり全体を通

して話し合い、交流の時間が少かった

様です。

⑧ 財政面は収支、トントン。差引ゼロ決

算、健全財政でした。しかし、はぐるま

「湯の山ゼミ」がだんだん近づいてきたあ

る日、「地元で私が実行委員の役でとりくむ

なんてことは、私の生涯で、もうなからうな」

と云ったら、みんなから笑われながら、「森

さんの癖であるまいし、まだ何回もあるが

ね」と云われたものです。

そうした「中年の感傷」をぬきにしても、

全国から大勢の仲間が集ってくると思つて、

会場、心頭懇想いと緊張を感じながら、準備に参加

していった。

八月三日（金）昼には、希望荘の一部屋

を事務局として設置された。高速転印刷機、

団名表）他、二三人が名簿をめぐりながら

決つたことを報らせるところから、山田洋次さんの夕食はどうしたのか、のやりとり、その他のハムとの混信、「やー、これも楽じゃない。」と一。

そして福祉センターでの全体集會が終つて一斉に車で希望荘への移動は、途中から移動車からの中継で、三〇〇人の仲間が集つてく手書き、すばやく、版をつくり印刷、その間三〇分出来上つて、みんなに届ける。

午後十時(少しの遅れで)大交流会の始まり、事務局の部屋から、ひとつ部屋をへだてた三階下の広場から、花火の音、歓声が聞こえてくる。そして、どしゃどし熱気がはらんで、サウナ、うたがえ、踊りが深夜まで。一。かわら版発行はこの間もつづ。私もちよつと観てよつと思ひ外へ出ていったら、外は寒い。涼しさを越して、鳥肌が出るほどの風が吹いていた。集りは最高潮、少し腹かへつたので、燻ぞはを買つて、又部屋へ戻り、こ

「安寿と厨子王」 劇がつないだ理解の輪

全国リアリズム会議に、モデル公演として「安寿と厨子王」を出演させていただいたおかげで、皆様から好評をいただき、いい体験になると共に、幸福に思いました。「安寿と厨子王」は、今回で十四スチージになりまうが、モデル公演として選ばれたのは、夢にも思つてみませんでした。初めは私達のような者は、とても無理だと思ひ、戸惑つたのです。その翌日に、特別に岐阜ろう劇団いぶきをめぐり、一般の劇団の人達に観ていただくのは心がチヤンヌだ。だから演りました。」と励まされて私達は決心したのです。

昼夜回演しましたが、観客の反応が、やつぱり違つたように感じました。一回目の観客は、一般の人で、私達の気持が伝わつたのか、泣いてくれた人がいたけれど、二回目は、ほとんど反応がなかつたように感じました。それも、体験の一つで覚悟していたので、た

わすか三時間程の眠りで、早速朝刊第4号の発行。分科会の動き、そして最終号。閉會集會 三〇〇人も仲間が大広間に、私は始めて拝見した。束の間、ロビーで握手してみんな去つていった。

事務局の部屋も片づけられ、車に荷物が積まれた。誰もいなくなつた、昨夜の大交流会の広場に、さわやかな秋風が吹いていた。すべてが終つたという安堵感と、連日の睡眠不足で、荷物を積んだ婦りの車運転は、居眠りもしかねないほどの体で、稽古場へ向つた。あまり、日頃は飲むと得意でないが、「おつかれさま」で飲んだ、この時のビール一杯がとてもおいしく感じた。

直接参加が出来なかつたが、六回発行したかわら版を通して、私の心の中にいつまでも残る、湯の山ゼミ、にしておきたい。ゼミが終るともう秋、とは気持だけ、あけて九月になつても猛暑はつづいた。

河合依子 (劇団いぶき)

だ。ところがあの晩の交流会で、思ひがけない。一人でも多くの人に、理解してもらつた。めには、劇が必要だと思ひ、身障者の一人として、頑張らなくては思ひました。

いぶきのメンバーの半分は、別の分科會に参加しました。その人達からの話では手話劇には関心がなかつたが、やむを得ず、義理的に観たら、いつの間にか、ひき込まれた、と言う人があつたということです。劇の好きな仲間できえ、なぜろう者の劇を認めようとして、熱心に討論しました。ろう者の劇は初めという人が多く、私達の劇を観て、今までも、はぐるまのようないい劇団に思ひました。で、忘れられていた一番大事なもの、そこにあると教えられ、言葉をも粗末にしたり、中途半端な会からみれば、弱い立場であるので、はぐるまに協力していただいております。だからといって、甘えてはならないと思ひます。いぶきは、私達なりに創り上げたので、息長く

わすか三時間程の眠りで、早速朝刊第4号の発行。分科会の動き、そして最終号。閉會集會 三〇〇人も仲間が大広間に、私は始めて拝見した。束の間、ロビーで握手してみんな去つていった。

事務局の部屋も片づけられ、車に荷物が積まれた。誰もいなくなつた、昨夜の大交流会の広場に、さわやかな秋風が吹いていた。すべてが終つたという安堵感と、連日の睡眠不足で、荷物を積んだ婦りの車運転は、居眠りもしかねないほどの体で、稽古場へ向つた。あまり、日頃は飲むと得意でないが、「おつかれさま」で飲んだ、この時のビール一杯がとてもおいしく感じた。

直接参加が出来なかつたが、六回発行したかわら版を通して、私の心の中にいつまでも残る、湯の山ゼミ、にしておきたい。ゼミが終るともう秋、とは気持だけ、あけて九月になつても猛暑はつづいた。

○ゼミ・ひろい話、こはれ話②

大交流のステージはカラオケ用

大交流会のステージと提灯は、劇団すがおが、地域のカラオケ大会等、諸行事用にもっているもので、前日も地区のカラオケ大会に使用してました。大交流会のステージのあと、山台の二ヶ所程で板が折れていました。大事にいたらずに良かった。

無線の活躍

会場が二ヶ所に分かれるため、無線が活躍。事務局と福祉センターの玄関に固定局、移動局は送迎車に。開會集會の出欠状況は逐一、事務局に報告。事務局はそれによつて、部屋割り、分科會割りをしてカモシカ通信に。山田監督を出迎えにいったワゴンにも無線がとりつけてあり、山田監督の夕食はどうなっているのか、などの連絡會話がとび込んで来たため、同乗の森実行委員長が大あわて。運転手が機転でチャンネルをきりかえて、チョン。

このことやっつけていきたいと思います。皆さん、本当に心からお礼を申し上げます。これから、どうかそいつの心をいっまでも忘れず、あたたかく見守って下さい。

○ゼミ・ひろい話、とばれ話⑤

朝飯が足りない

ゼミの二日は二百酔いのお方もチラホ

う。たいていは朝食をパスする人が幾人か

でて、いくつか余るのが常。希望荘の準備

した朝食が三〇食。宿泊参加者三〇三名。

残った朝食はナント三分。四人分がゆう

れいか、誰かが二人分食べたか。この金

誰に講求すればいいのだ。

ゼミの夜明けの風呂場

ゼミも夜明けも近づいた午前四時頃、女

湯に、中年の男性と若者の二人連れが酔っ

たふりして入ってきたものの、ババハンぱ

かりに、ガツカリして早々に退散したとか。

ハハハハ。

Tシャツ作戦

第五分科会

「モデル上演劇団を囲んで」に参加して

古川 洋子

(劇団未来)

私は劇団活動に参加して早いもので、もう動きに声優が生でつけている事が判り、表と裏(声)の役者がどの様に役割りを進めたの

か、とても興味がありました。

また、手話表現(身体表現)が、美しく工

夫され、大変シャープで感動しましたが、わ

ずかにセリフ(言葉)と手話がずれる部分が

あり、多少気になりました。これは、手話と

私達の言葉の体系が、根本的に違っているので、難

しい問題だと思います。しかし、全体的には

大変豊かな、素晴らしい舞台に仕上がっており、

その創造過程も、大変な取り組みだったろう

事を伺わせます。手話劇と命名しなくとも、

キツケは何だろうと思いましたが、途中で、

一般的な芝居、の二つとして十分成立する

ように思います。

私自身の役づくりのために勉強させて頂て

うと、分科会はモデル上演劇団を囲んでの第

五分科会に変更して、参加しました。

そこで、舞臺そのもの話より、手話劇

団のこともよく知りたいという風な話

題が主になり、「いぶき」の人もニエスに

書いておられましたが、芝居そのもの話を

もつと聞きたかった私には、すこしもの足り

ませんでした。

その中で、「手話だけで十分表現出来てい

たところが、部分的にはセリフがじゃま

であった」「もつとセリフの省略が必要だ」

と言う意見もありましたが、私は逆に、役者

にそれだけの表現力があるなら、手話のセリ

フの方をもつと整理、省略することが出来る

のではないかと思います。

例えば、園子玉が怒り、嘆き、悲しむと

るなどは、あの様に「仁立立ち」にならなく

ても、もつと心の中にこめた演技でも

充分表現出来たのではないかと

です。

「いぶき」の方が、是非、「奇跡の人」を

上演したいと言っておられましたが、「奇跡

の人」を「安寿と園子玉」と同じように、異

比較山ゼミの様にTシャツを作って売ろ

う。しかし、デザインがグサイと売れない。

万が一心配で、実行委員だけが着ることに

スプレートをかけた。結構好評でした。

なつた。一番安あがり、白のTシャツ

(三六〇円)を買って、型紙の上から赤の

8

18

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1



第24回・西会議絵会の報告

梶 武 史

(西会議・事務局長)

のバル討論のような機会をつくるなど、持

続的に追求していかうと呼びかけた。
また、きづがわ・林田氏から、名村造船で
の不当解雇撤回斗争で、大阪高裁による勝利
判決が報告され、これまでの支援に対する謝
意とひき続く闘いへの決意が述べられた。

全り演加盟劇団のレパートリーの多様化に
ついて、かつて永平和雄氏から「びっくりす
るほど多様でバラバラでありながら何の矛盾
もなく処を得て安住している」と皮肉られ、
演劇会議誌60号でも大橋喜一氏が動くもの
演劇状況にふれて、「演劇エスルキーの大部
分は細分化され、方向性をもつてこないま

まに、都会的な文化現象として……政治的イ
デオロギーと無縁であることが芸術性の自由
な証しであるかのように散在している」と指
摘されている。
だが、西会議での各劇団の状況をみると、
むしろ、それぞれの地域や集団に依じた独自
性が強まってきていると考えると、各劇団の
報告にもそれは表われていた。

「小集団の実情に応じて移動小公演を継続
し、創造者と観客がつくり出す濃密な劇場空
況があるため、それぞれの集団や個人の努
力をつながすとともに、西会議としても昨年
間とおして、知的体験的コミュニケーションの形

態を模索した。
「神戸の労働者の歴史と現実を軌物に引き
つづけ、今年もまた、保育の現状をからめて
女性の自立の問題を創作上演するなど、地
域の勤労市民である観客を強く意識した創造
姿勢を貫いている」(四紀会)

「大衆劇の上演や百姓一揆を素材とする作
品で観客とのユニークな関係をつくり出して
いる」(和歌山)
これらは、上演形態もレパートリーも様々
だが、観客の欲求と結びつけて、地域のコミュ
ニティを形成しつづけていると見えるようだ。
大阪・山口の合同公演は、ともに現状を
つき破ろうとする欲求が推進力となって成功
した、と報告された。

大阪では、旧日本軍の細菌部隊を題材に告
発する作品であり、「この種の作品を敬遠す
る傾向は、作品選定の際にすでにシナケーム
ドを漂わせていたが、稽古が進むにつれて、
主題の積極性が創造性を誘発し、二千五百人

を兼ねている。
「創造理念についての論議が乏しくなつた
ことが創造的欲求を衰弱させている。リマリ
（こじか座）
「稽古場を新設し、小集団ながら活気づけ
ている」(息吹)

「北村想ら若い作家のものも作品によつて
スアについての突込んだ討論を」(きづがわ)
「稽古場を新設し、小集団ながら活気づけ
ている」(息吹)

「稽古場を新設し、小集団ながら活気づけ
ている」(息吹)

「稽古場を新設し、小集団ながら活気づけ
ている」(息吹)

「座席場、公演補助など自治体との関係がよく、高水準の観客数を維持している」(伊丹やき)

「若手が増え、集団の運営を若手中心に切替えてつある」(神戸磯濱)

そして新人教育や集団の活性化については、「若者の意見や願望の潜在部をも引き出し、集団のものとする努力」(伊丹やき)

「若手も古手も創造者としては一対一、集団として、それぞれに見合った創造課題をたずね提示しつけ、挑戦していくことが大切。歌や踊りの稽古では、中堅・若手が先進性を劇場の開演にみられる演劇の商業化、あるいは大資本による文化芸術運動の体制的再編成への危険なども話題とするにとどまらず、だ。がこれらは、やがて、われわれの存立基礎を揺るがせかねない問題として対応を迫まらねばならない」と再び土屋氏。この点、50名の劇団員で年間1作品を上演し、一ヶ月に4作品の連続上演では二千五百人の観客と接した。内容については、若者に親しみ易くするの活性化などの論議の底流は、創造者と顧客の一人一人をつなぐ演劇の大衆化の問題であり、この点での理論化と実践をめざそう」(猿渡)

「リアリズムは未来指向の思想と方法である。現実をみよえて、創造を豊かにするために努力しよう」(仲)

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

△活動方針

- ・プロック活動を強化し、交流を深めよう
- ・未結集未加盟劇団を結集しよう
- ・演劇会議の内容を充実し、拡大しよう
- ・西リ演史を深めよう
- ・戯曲研究会、演劇フェスティバル、演劇講座を成功させよう

△役員

議長 団 仲 武司 (関雲)

事務局長 梶 武史 (四紀会)

次長 熊本一 (大阪)

田中 実 (息吹)

運営委員 劇団

(京都) 京雲
(大阪) 関雲 未来 大阪 鳥吹
(兵庫) 四紀会 伊丹やき
(中国) 月曜会、草の実

「リアリズムの硬直化」でなく、リアリズムの面白さを再構築するための発想の飛躍こそ、集団を活性化させる条件の第一だろう。

「リアリズムの硬直化」でなく、リアリズムの面白さを再構築するための発想の飛躍こそ、集団を活性化させる条件の第一だろう。

「若手も古手も創造者としては一対一、集団として、それぞれに見合った創造課題をたずね提示しつけ、挑戦していくことが大切。歌や踊りの稽古では、中堅・若手が先進性を劇場の開演にみられる演劇の商業化、あるいは大資本による文化芸術運動の体制的再編成への危険なども話題とするにとどまらず、だ。がこれらは、やがて、われわれの存立基礎を揺るがせかねない問題として対応を迫まらねばならない」と再び土屋氏。この点、50名の劇団員で年間1作品を上演し、一ヶ月に4作品の連続上演では二千五百人の観客と接した。内容については、若者に親しみ易くするの活性化などの論議の底流は、創造者と顧客の一人一人をつなぐ演劇の大衆化の問題であり、この点での理論化と実践をめざそう」(猿渡)

「リアリズムは未来指向の思想と方法である。現実をみよえて、創造を豊かにするために努力しよう」(仲)

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

△活動方針

- ・プロック活動を強化し、交流を深めよう
- ・未結集未加盟劇団を結集しよう
- ・演劇会議の内容を充実し、拡大しよう
- ・西リ演史を深めよう
- ・戯曲研究会、演劇フェスティバル、演劇講座を成功させよう

△役員

議長 団 仲 武司 (関雲)

事務局長 梶 武史 (四紀会)

次長 熊本一 (大阪)

田中 実 (息吹)

運営委員 劇団

(京都) 京雲
(大阪) 関雲 未来 大阪 鳥吹
(兵庫) 四紀会 伊丹やき
(中国) 月曜会、草の実

「リアリズムの硬直化」でなく、リアリズムの面白さを再構築するための発想の飛躍こそ、集団を活性化させる条件の第一だろう。

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

△活動方針

- ・プロック活動を強化し、交流を深めよう
- ・未結集未加盟劇団を結集しよう
- ・演劇会議の内容を充実し、拡大しよう
- ・西リ演史を深めよう
- ・戯曲研究会、演劇フェスティバル、演劇講座を成功させよう

△役員

議長 団 仲 武司 (関雲)

事務局長 梶 武史 (四紀会)

次長 熊本一 (大阪)

田中 実 (息吹)

運営委員 劇団

(京都) 京雲
(大阪) 関雲 未来 大阪 鳥吹
(兵庫) 四紀会 伊丹やき
(中国) 月曜会、草の実

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

「今日政治的文化的状況に萎縮してスマトになりすぎているか。お互いの集団に踏み込んで、より強い連帯をつくり出す必要がある」(土屋)

△活動方針

- ・プロック活動を強化し、交流を深めよう
- ・未結集未加盟劇団を結集しよう
- ・演劇会議の内容を充実し、拡大しよう
- ・西リ演史を深めよう
- ・戯曲研究会、演劇フェスティバル、演劇講座を成功させよう

△役員

議長 団 仲 武司 (関雲)

事務局長 梶 武史 (四紀会)

次長 熊本一 (大阪)

田中 実 (息吹)

運営委員 劇団

(京都) 京雲
(大阪) 関雲 未来 大阪 鳥吹
(兵庫) 四紀会 伊丹やき
(中国) 月曜会、草の実

「リアリズムの硬直化」でなく、リアリズムの面白さを再構築するための発想の飛躍こそ、集団を活性化させる条件の第一だろう。

第23回・東会議総会の中から

城谷護

(東会議・事務局次長)

みちのくの仲間たち

は、山の高のせいだろう。静かで眺望もよく、思いつきり騒げるなんて、こんなすばらしい会場を用意してくれた養賢館さんを長とする実行委員会の仲間たちにまず感謝したい。

○全リ演(東会議)総会は、護長団に藤原浩平氏(支木)、石垣政裕氏(仙台小劇場)を選んで、八月二十三日(金)から二日間の討論を開始した。弘渚の武中正氏の言葉を借れば、「みちのくコンビ」の議長団である。みちのくといえば、弘渚はこの総会とセミに参加するために、劇団員はもとより、外部の四十余名の人たちから十萬円のカンパを集めたのだという。そして、総会とセミの報告集まで発行してわが劇団にまで送付してくれ

た。これにはまいった。

た。これにはまいった。

つもながらうれしいことだが、二年ぶりの加

盟で今回は特にそうだったといえるかもしれ

ない。拍手かっさいの中、いきさかてれな

ら座長の工藤慶悦氏が自己紹介をした。

展業座は、主産業の一つである林業が大不

況で、職場をやめても職がないという秋田の

二ツ井町という小さな町にある。京浜協同劇

団で十年間活動した工藤氏が故郷に帰ってつ

くった集団で、もう八年目になる。座員は九

名。「走れモリス」で旗あげしてから創作劇

「滅反神社」、そして昨年「おこんじょう

る」まで年一回の公演を軸に「あせ道劇

場」と称して地域の人々に支えられた公演活

動をしている。「名前のとおり、楽天的に展

望を切りひらいていきたい。」と決意を述べ

た工藤氏の目は輝いていた。すいせん団は

支木で、藤原浩平氏のすいせんの言葉は彼特

有の魅力あふれるものだった。

展業座の加盟により、全リ演東会議は四十

集団となったわけである。

緊張感に満ちた議長団あいさつ

議長団を代表して開会のあいさつに立った

後藤陽吉氏(青年劇場)は、「戦後四十年たっ

総会では冒頭から「全リ演は必要か」とい

う議論が続いたが、弘渚のこうししたとくか

は、単に遠くて金がかかりすぎるからという

ものではなく、全リ演総会に代表をきちんと

送り出して自らの指針を探ろうという原点を

行動で私達に示してくれたものといえよう。

はじめに弘渚のことに触れたのは、近年だ

んだん総会への参加集団が少なくなっており、

今年は二十三集団、三十九名と、昨年の三十

集団、四十名よりも少なかったからだ。東会議

に加盟する集団は四十集団程だから、出席率

はわずか六〇%ということになる。総会に先

だつ運営委員会が、「全リ演は必要か」を討

議の柱の一つにかかげたのも無理ならぬと

上だった。

みちのくの仲間のことをもう一つ触れなけ

ればならない。それは秋田県の展業座が加盟

したとだ。新しい集団が加盟することはい

る。芝居をやりたいという人はいっぱい

それとわれわれの芝居とをどう結びつけるの

か、新しいリアリズム演劇をどうつくるか、

劇場「はだかの王様」で「なんでもえだか

参拜問題は軽々しく見てはいけない。世界各

国で反ファシズムを誓っているときに日本が

逆行している。まさに、軍国主義の象徴的で

ない悩みをかかえている。

すがお、この一年で劇団員が一〇名から十

七名にふえ、地元の空襲を描いた創作劇「暑

い夏の夜空に」の上演で燃えた。

はぐるま 劇団員がとうとう八〇名になり、

いい時期に三〇周年を迎えた。記念の今年は一

年五本を上演し合わせて一六〇〇名の観客

を集めた。若い人はなかなか出演する機会が

少く、次の公演は企画も出演も全部二〇代で

やることがなかった。

夜明け 加盟して二年。加盟を契機に「親

と子の劇場」を始め、中津川の町で知らない

人はいないところまでいった。

やまなみ 一時期一〇〇〇名だった観客が

今は五、六〇〇名となり、創立三十周年のこ

かせた人形遣いのことを描いた「人形お七隆

譜」で一九五〇名を集めた。

名古屋演集 休団者が元組織的に弱まっ

ちの中に最近「自分たちの芝居をやりたい」

という声が出てきたという。

てみる。

ことは終戦四〇年である。その前の四〇

年で、日清戦争、第一次、第二次の世界大戦

で、戦争にあげられた四〇年であつた。だか

ら戦後の四〇年は大事になくてはならない。

今は消費の時代となっているが、二十一世

紀には消費すらできなくなる時代にならう。

経済対立が国際的に進行し、日本は世界の富

を独り占めしている。この「現実路線」を守

るという考えがわれわれを保守させる。

どうやって現実を掌握するか。姿えられない

とあきらめるのか。演劇以外の分野では新し

い可能性、現象がいっぱい出てきている。わ

れわれが、自分の納得のいくやり方、自分で

創造していくんだという考えを持つなら、そ

こには若い人たちとの新しい対話が成立しう

からつかせ 公債が終るとやめていく人が

多かつたが今はそれがなくなり、創作劇「風

の歴史」とりくんでいる。

で弁護士たちと組んでやり、久々に一〇〇〇

名を突破、勢っている。

土の会 創作「すもも……」で観客の反感

はよかつたが、矢野喬の次の作品ができるま

で一年休む。劇団員が五人となつたががんば

りたという。

青年劇場 東京公演を年二回から三回にふ

やそうと検討中。各種イベントへの参加協力

を数多くやってきたが、これを劇団活動にプ

ラスにしていきたい。

銅鑼 自由民権百年に合わせ、創作劇「虹

のゆくえ」を各地で成功させた。そのエネル

ギ一で大橋喜一の「ナちゃん」は宇宙人に

挑んでいる。

東京芸術座 学校公演の競争がげしくな

り、経営が苦しくなっている。社会主義リテ

リズムをかかかかかかかかかかかかかかか

れが引き継ぎきれない。

石るつ 三味線を中心とした「門付芸人、

外の集いに積極的に参加している。ゼミ

の参加も劇団員八名中、七名の参加で元氣だ。

今後創作劇を核にしていきたい。

京浜 地域の特異性か、新人をなかなか

やしきれない。「どん底」「持つ」といって

と「の公演では新しい舞台空間を創り出した

とと思う。

仙台小劇場 年五本もやつたが、スケジュ

ールに追われ、理念の問題がおそろそになり

がち。赤字公演に閉止めをかけた。

展業座 徹底した民主主義、サークル主義

を貫いている。教習生の観客というのは町の

人口の割には多い数だ。何とか創作劇をやり

たい。

弘演 「風が吹くとき」は上演後も各地で

要望があり、劇団のおほしと考えて

いる。平均二十五、六才の差さ。創作劇の準

備もすすんでいる。

支木 九〇坪の稽古場を月二〇万円で借り

た。残業が多くなって、ひどいときは稽古が

九時に始まって十時に終るといふときもある

が実働二〇人だがかんばっている。

東京芸術座 学校公演の競争がげしくな

り、経営が苦しくなっている。社会主義リテ

リズムをかかかかかかかかかかかかかかか

れが引き継ぎきれない。

石るつ 三味線を中心とした「門付芸人、

外の集いに積極的に参加している。ゼミ

の参加も劇団員八名中、七名の参加で元氣だ。

若者とレパートリー

一日目の討論は、「全リ演は必要か、の論

議から始まった。

「劇団にとって今までは全リ演から与えら

れるものだが、全リ演の理念が引き継が

れていない(仙台小)、「全リ演のことは

名前すら忘れられることがある(からつか

ぜ)など卒直な意見が出された。

私は、「危機はあるのに危機感がない。危

機だ、危機だと言いつつ危機感を固定化し、

各集団内への集中の弱さの一つののだと思

う」と述べた。

名士の佐野氏は「全リ演の存在意義はただ

一人全員が全リ演のことで知らなくていい。

人間関係を通じて全リ演を知っていくのだか

ら」と発言。土の会の佐藤氏は「私たちには

動論がない、待ちの姿勢だといわれるが、全

リ演に対して同じようなことかいてるかも

れない。組合に若い人が入らなければいい

だ。土の会も考え直さなくては」と続けた。

討論の冒頭は支木(市川氏)の発言で、電々

公社が民間化されたことによつてどんどん人

べらしきれていく実態が赤穂々に報告され、

基調報告や議案が指摘した現実を真つめた。

また、教師であるはぐるまの山口氏は、岐阜

の教師が体罰で生徒を死なせた事件のショッ

クを語り、「劇団活動だけに流されてきた」

自分に、「本当に生徒たちと対峙してきたの

を貫いている。教習生の観客というのは町の

人口の割には多い数だ。何とか創作劇をやり

たい。

弘演 「風が吹くとき」は上演後も各地で

要望があり、劇団のおほしと考えて

いる。平均二十五、六才の差さ。創作劇の準

備もすすんでいる。

支木 九〇坪の稽古場を月二〇万円で借り

た。残業が多くなって、ひどいときは稽古が

九時に始まって十時に終るといふときもある

が実働二〇人だがかんばっている。

東京芸術座 学校公演の競争がげしくな

り、経営が苦しくなっている。社会主義リテ

リズムをかかかかかかかかかかかかかかか

れが引き継ぎきれない。

石るつ 三味線を中心とした「門付芸人、

外の集いに積極的に参加している。ゼミ

の参加も劇団員八名中、七名の参加で元氣だ。

討論は、レパートリーのことへと移った。

展業座の工藤氏は、「レバは感覚のちがひ

ではないか。演劇が好きだから展業座が好き

とは限らない」と選択の自由、個性について

触れた。

若い人たちと古手とのレバの好みの違いに

ついては大きな話題となった。やまなみの河

野氏は劇団の若い人たちよく東京に芝居を

見に行くことをあげ、「おもしろか?」と

言うそのおもしろさの中身をよく聞くことが

大切だと強調した。

また、弘演の武中氏は、「若い人たちは北

村想やつかとうへの戯曲集をみんな持って

いるが、上演候補作品としてはあがってこな

い。やはり自分たちの創作をということにな

る。」と発言。仙台小劇場の石垣さんも「未

全リ演への加盟をよびかける。

(3)「演劇会議」誌の充実と拡大。拡大は一

五〇部をめざす。創作劇集の別冊発行も。

(4)専門劇団グループは、独立したグループ

とせず各地域ワークショップの中で活動し、必要に

応じて会合をもつように改める。

回諸行事の企画

一九八六年二月「東西合同フェスティバル

八月「東西演劇ゼミ(山静)

一九八七年二月「東芸演劇大学

補足された具体的方針

ところで、総会議案の中で具体的な方針が

補足することとなり、次の提案を行った。

(1)交流をさかんにしよう。議長団、編集長

の観劇、講師活動及び劇団間の交流を。深め、

(2)各ワークショップで未加盟劇団との交流を深め、

全リ演への加盟をよびかける。

(3)「演劇会議」誌の充実と拡大。拡大は一

五〇部をめざす。創作劇集の別冊発行も。

(4)専門劇団グループは、独立したグループ

とせず各地域ワークショップの中で活動し、必要に

応じて会合をもつように改める。

回諸行事の企画

一九八六年二月「東西合同フェスティバル

八月「東西演劇ゼミ(山静)

一九八七年二月「東芸演劇大学

八月日東会議フロッグ別ニ
一九八八年二月日東西合同フェスティバル

八月日東会議演劇ゼミ(北海道)
役員全員再任とする。

以上の補正提案については、かなり活発な議論が展開された。

「演劇会議」については、編集長の萩坂氏から、①誌代の回収 ②原稿をもっと寄せてほしい ③劇団通信を必ず寄せてほしい ④「演劇会議」誌を補う演劇新聞の発行 などが提起された。石るつ、堀野氏は、「新聞を出すことでより「演劇会議」そのもの充実を」と訴え、すがおの若菜氏は「活字を大きくし、記事の中に写真をもふやせ。劇団通信や劇評はよく読まれているが、公演の要務報告で終ると、苦勞話なども折り込んでほしい」などと注文をつけた。また、名古屋の久保氏は、「ここではやしさんが各地を回って書いた劇評が、この年ものがほしい」という意見を述べた。後藤陽吉議長は「土屋清さんはリッリスとは未来志向と書いたが、こういう志向をもちた演劇誌は今には外はない」と評価した。一方で、劇場活動のことなどもぜひのせるようにしたらどうかと提案した。同じ青年劇場の島田氏は「観客論がまだまだ弱いと思う。演

劇会議誌にのせて欲しい」と注文をつけた。交流の問題については、全国労演・新劇人会議、苦悶協、文団連などの連帯を島田氏が訴えた。また、仙舟小の鈴木氏は「専門劇の写真をも」(青年劇場、葛西氏)などの要望も出された。新しい役員は、東西それぞれの総会で選出された役員が承認された。役員は次のとおりである。

東会議
議長団 〇こばやしひろし、丸子礼二、後藤陽吉、中沢研郎
事務局次長 〇城谷護

西会議
議長団 〇仲武司、藤沢薫、猿渡公一、土屋清
事務局次長 〇堀武史

事務局次長 〇熊本一、田中実

合同総会は、最後に「国家機密法」(スパイ防止法)に反対、阻止しようとの声明を採択して終了した。

これに、合評会では、四紀会が発言が目立っていたが、後藤陽吉議長は「土屋清さんはリッリス」とい

て、この年ものがほしい」という意見を述べた。後藤陽吉議長は「土屋清さんはリッリスとは未来志向と書いたが、こ

うちで、私の内心思っていたことが、この五人の議長報告で共通確認されていることで、お

東会議ニュース(第六号)で、総会議案の、各議長報告を読んで、ある衝撃——とい

うか、私の内心思っていたことが、この五人の議長報告で共通確認されていることで、お

理してみます。はじめに五人の表題を並べてみよう。

(表題ナシ)
後藤陽吉 中沢研郎
〇こばやしひろし
丸子礼二

今日に思う
本音をさらけ出す

以下は五報告の内容についての、私なりの要約したもの。

東会議の議長報告に衝撃されて

大橋喜一

さらけにその後に「決して充分とは云えないまでも」として、演劇戦線での積極的な活動の例を報告している。(地元の「朗読の集い」はじめ「反核ニ・フェスティバル」など)

中沢研郎氏の報告。(演劇会議)の劇団報告に観点を置き、「一つの仕事にかけ切った劇団の姿があまりに少ない」と断じ、「自分たちの殻を破るために、自分の腕にかみつき、他人の鼻を食いちぎるようなさかさな

機状況の進展と、その文化の側面での危機的状況を送る。それは次のように、

「新劇は全体としてはその歴史の遺産として、その誕生の時から体制への批判と抵抗の立場を継承してきた。それが既に一部の

から、演劇という事業活動を進めていることをする。そして演劇をする個人も集団も、自分の存在を発見し、確認し、自分にどって演

劇とは何か(傍点は大橋)を発見することを強調している。

丸子礼二氏の報告。今日の現実をリアルに描くことでの創造の行きつまりを、苦悶、

美の突進をめざすリッリス演劇の立場としての問題として、過去に発表された、黒沢・と

ばやし・土屋・大橋の文章から追求している。

これにリアルな目をそらすことを強調している。

「私も、リアリズム、という理念そのものではなく、私達の劇団活動を通じての実行性があり方にむしる、リアリズム、から離れ去ってしまうような問題があるのでは」と述べ、「人間が人間らしく生きようとする要求から現実を見つめ、大衆・若者の側に立つて今日の日本の状況を考えた時——多くを描くべきテーマが見えるはずなのに、その意欲を失っていることを指摘している。

こばやし、ひろし氏の報告は、日本の現実を世界一の黒字国、債権国面でとらえて、この指摘は、演劇的にじつに意味が深いと思う。さらに保守党はもとより革新政党内でも政治の現実主義にはしり、ついに政治理念の喪失に至っていること。そうした現実からの脱出は、自立する創造を築くしかないと思える。それらは人間がもう一度、自然にあるべき姿を、つまり人間の原点にもどるということとを強調する。

「予盾を衝くもう一つの動きに力を与えないまでも」といつくつかの積極的な演劇活動の例をあけている。私は、この部分を讀んで胸を衝かれる思いがした。後藤氏がなにか、書きたくても、言いたくても、書けないう言葉が、この背後にあるように思えてならぬ。私にはそのものもつと鋭い一端であり、今後の新劇の状況を先取りした信頼を示すものでもあると思う。それは新劇内部におきていよう右傾化のおそれなるのみならず、中曽根政治体制への協力的な発展するものへの信頼でもある。そして、これは多分これから新劇がぶつかるところでも大きな課題でもあらう。

しかし、私は後藤氏の報告でもっとも心にひびいたのは、この後の文章で、しかも文章に書かれない行間の見えな部分である。後藤氏は前の文で新劇の危機をかたり具体的に指摘した。そしてリアリズム演劇が、政治的にも文化的にも、あらゆる問題において、「ひくくひびかない局面におかれている」と云われる。このあとに、「決して充分とは云えない

最後の坂本龍馬氏の報告。戦後四〇年の民○年安保での、新劇人会議の結成とすべての新劇人のそれへの参加であったと思う。これは政治的出来事である、芸術的な事件から、純粋政治的出来事のみは言えないが、私はこれら無意識にわれわれをそこに拘束してやまぬもの、その本音を聞き合ふ必要があるだろう。本音をさらけ出せ」と提言している。そして具体的な打開の途として「必死の創作劇の出さるべきことだ。もう一つは全力投球の舞台を作りあげることだ。」と述べる。

五報告のうち、後藤氏の報告は他の四氏と少し色彩がちがう。それは専門演劇人の立場にあるからで、四氏のように自己反省的な方向とは異なり、一つの劇団の突出した傾向への危惧と、一方不十分ながらも、今日の状況下の積極的な活動の例をあげていられる。私が感じた衝撃的なものも、じつはこの後藤報告から連想されたものである。これについて私見を少し述べさせてもらおう。

私は戦後の新劇運動での最大の出来事は六〇年安保以後、新劇の舞台の眼目であらう。六〇年安保以後、新劇にはじつに多くの小さな出来事が重なって発生し、二五年を経た。安保直後にいろいろおきた劇団のなかの分裂、アンチ演劇の発生。スコミによる「新劇は面白くない」のキャンペーン、労働委員会に対する企業の圧迫、新劇は古臭い、戦後新劇は戦前イデオロギーの残滓、などなどの批判。これらの多くは新劇の体質そのものもつと矛盾に起因すると思う。しかし私は、その背後に、戦後新劇を攻撃し、その資本主義的体制に反対する性格を、変革しようとする体制があり、それらが新劇のもの

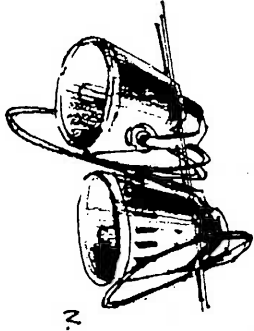
いまでも「一つは全力投球の舞台を作りあげることだ。もう一つは全力投球の舞台を作りあげることだ。」と述べる。

五報告のうち、後藤氏の報告は他の四氏と少し色彩がちがう。それは専門演劇人の立場にあるからで、四氏のように自己反省的な方向とは異なり、一つの劇団の突出した傾向への危惧と、一方不十分ながらも、今日の状況下の積極的な活動の例をあげていられる。私が感じた衝撃的なものも、じつはこの後藤報告から連想されたものである。これについて私見を少し述べさせてもらおう。

私は戦後の新劇運動での最大の出来事は六〇年安保以後、新劇の舞台の眼目であらう。六〇年安保以後、新劇にはじつに多くの小さな出来事が重なって発生し、二五年を経た。安保直後にいろいろおきた劇団のなかの分裂、アンチ演劇の発生。スコミによる「新劇は面白くない」のキャンペーン、労働委員会に対する企業の圧迫、新劇は古臭い、戦後新劇は戦前イデオロギーの残滓、などなどの批判。これらの多くは新劇の体質そのものもつと矛盾に起因すると思う。しかし私は、その背後に、戦後新劇を攻撃し、その資本主義的体制に反対する性格を、変革しようとする体制があり、それらが新劇のもの

私は長い間、戯曲が書けないで苦しんだ。いまはそうでない。書ける気がして、現に書いておられる。私はそれをシロウトにかえる、とか、キチガイになる、とかいう言葉で表現

だ探算性』というように感じている。たしかに探算性を無視して演劇は成り立たない。それが探算性はイコール経済である。だが、経済がその主座にすわった時から、演劇の本質は多少にかかわらず『商業演劇』となるのであるまいか。そして、みんな運動から発し、たはすの演劇が、『新劇』とよばれる、『車また、五氏の報告にも通じるものではあるまいか。長い間の私のモヤモヤを衝撃してくれた五氏に感謝し、またいっしょけんめいこれを書いておりました。(八五・一〇・二五)



では、それは世界経済の中で日本の労働者に述べらるが、中沢報告は、卒直に言うなら資本主義的繁栄の中での人間陳外とただかうな場で、われわれはネーを見失っている、ととらえている。こぼし報告も、問題をつかむ基礎に経済的繁栄をおき、その状況のなかでみんなが人間の原点をつかめなくなっている。と指摘。それらを集約するような形で裁坂の報告は、「自分の中にしめる芝居の本質をさげし出す。本音をさらけ出せ。」と、訴えている。しかもそれらは、「必死の創作劇と、全力投球の舞台」で創るしかない。

四氏の報告を貫いて流れているものは、たいてい明白に思える。それは客観的な条件としての「経済繁栄」とよばれる日本の状況のなかで、みんなが自分を見失っている——繁栄とよばれる現実のなかで、なんのために演劇運動をはじめたのかその原点がわからなくなり、自分で自分の本質をつかむことが出来なくなっている、といつこの指摘であり、強調であり、訴えであると思ふ。そして自覚する——これはいへんな困難をともなうのであるが——そのために自分の本音をさらけ出す。こぼし報告というが、裁坂氏の集約だと思ふ。

私はいま、自らの芝居の原点を、二つの点から述べるが、中沢報告は、卒直に言うなら資本主義的繁栄の中での人間陳外とただかうな場で、われわれはネーを失っている、ととらえている。こぼし報告も、問題をつかむ基礎に経済的繁栄をおき、その状況のなかでみんなが人間の原点をつかめなくなっている。と指摘。それらを集約するような形で裁坂の報告は、「自分の中にしめる芝居の本質をさげし出す。本音をさらけ出せ。」と、訴えている。しかもそれらは、「必死の創作劇と、全力投球の舞台」で創るしかない。

私はいま、自らの芝居の原点を、二つの点から述べるが、中沢報告は、卒直に言うなら資本主義的繁栄の中での人間陳外とただかうな場で、われわれはネーを失っている、ととらえている。こぼし報告も、問題をつかむ基礎に経済的繁栄をおき、その状況のなかでみんなが人間の原点をつかめなくなっている。と指摘。それらを集約するような形で裁坂の報告は、「自分の中にしめる芝居の本質をさげし出す。本音をさらけ出せ。」と、訴えている。しかもそれらは、「必死の創作劇と、全力投球の舞台」で創るしかない。

前略。早速ですが、総会及び合同ゼミ・実行委員会の皆さんへ

際しまして、劇団が皆さんの皆様はじめ、地元・東会議中部の仲間みなさんの大変な援助によって、無事終了したことを厚くお礼申し上げます。さて、みなさんも御疲れになつたうとおもいます。帰路、挨拶をしようと思ひながら慌しくバスに乗ったので大変失礼しました。

車中、西会議の仲間、今回のみなさんの献身的な準備と運営によって、すばらしい環境の中で集会が成功したことを話し合いました。

私たちにとって重要な課題を示唆していただきました。

お互に頑張っていきたいと思います。

いろいろと後遺症が残るのではと心配していますが、まずは一筆お礼まで、握手。

(8・27)

関西芸術座 仲 武司

劇団通信

ある夜間中学校の生感を描いた「落ちてはれ
の神様」、八月の子ども劇場には、おなじみ
井上ひさしの「十一ぴきのネコ」。十一月は
クッセルソングの「毒薬と老煙」を、九州の小島

に舞台を移して観覧します。

いづれにしても地域の中で精一杯の活動を
し続けています。

〔812〕福岡市博多区祭良屋町二一九

〇九二一七一一五〇九〇

楽しいゼミ、ありがとうございました。
「地域劇団東京演劇祭」の真只中、十月十三
日全国労演のための「大平洋ベルトライン」

の合同公演、暴走族の青春を描いた、中村フ
ノ書き下ろし「シズ」の稽古に入りまし
た。

昭和六十一年一月十五日おとしには、九
州の芸能を出来る限り、お招きしての御祝儀
公演。続いて一九三〇年代の再確認として、
豊田正子作「綴田教室」。

三月から五月にかけて、シヨジカル・シ
ズンとして、石山浩一郎の書きおろし「ドッ
グ」、深沢一夫作「菜の花嫁」、井上ひさ
し作「夏の夜の夢」、中村フノ「シズ

」と連続上演。
下半期には、七月、園山士筆の書き下ろし、
「ベルト」で旭川。

祭現代劇の部、に参加。
七月、タイニイアリスにて新作予定。十月

「別れが辻」を高知、徳島ほか。
五月、「ベルト」で、武蔵野芸術劇場文化

「ジョンジャン」にて、「ベルト」「別れが
辻」「ネームリング」の連続上演。四月に
交換に、「安美と厨子王」の観賞で感激し、
山田洋次さんのお話に大変関心を寄せるなど

また、八月の三重県湯の山での総会・ゼミ
参加者（山本、寺間、山田、和田、今井）五
名は、各々の全国の劇団の人との交流や情報

交換に、「安美と厨子王」の観賞で感激し、
山田洋次さんのお話に大変関心を寄せるなど
意味ある内容を劇団に持ち帰り、報告させて
いただきました。（86・10・14字間太郎）

伊丹市千僧字船原二〇一九
坂上義太郎方

〇七二七一八一六五五〇

演劇サークル「トラム」
御無沙汰しております。全り演の総会に出
席出来ず申し訳ありません。

この五月、山口県内の文団連加盟の四劇団
合同公演の護憲劇「今日、私はりんごの木を
植える」に出演し、他劇団の新しいいぶきに
ふれました。その後は六月に、第十八回山口

子ども劇場、今回はスタッフのみの参加でし
た。

現在、山口市民文化協会主催の公演に取り
かかっています。トラムにとって初めての創
作で、山口市に古くから踊り伝えられている

盆踊り「白河踊り」の由来と、幕末の時の権
力者を利用して、最後に抹殺された長州奇兵
隊の悲劇を「白河踊り考」にまとめました。

キャストが総勢二十三人という芝居で、十
人足らずのトラムだけでは出来ず、他の文化
団体との合同公演になり、「トラム」のOB

もひっぱり出し、初めての舞台に立つ人も多
く、いろいろ困難な面もありますが、十月二
十六日の公演めざして熱い連帯感も生まれて

来ており、頑張っています。（藤原民子）
〔73〕山口市東山二丁目九一〇

〇八三九二二一〇三九三

みです。
か、人間の心の人間的部分に依拠しての取組

代の若者にメッセージを届けられることが
とがどと送出来るか、現代の若者で、同じ理

考える昨年の秋に引継ぐ作品です。深めるこ
戦争という状況の中の生命の重み、愛を

最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい
う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄
せられ、反響の大きさに驚くほどでした。

劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と
最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい

う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄
せられ、反響の大きさに驚くほどでした。

劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と
最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい

う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄
せられ、反響の大きさに驚くほどでした。

劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と
最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい

う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄
せられ、反響の大きさに驚くほどでした。

劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と
最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい

う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄
せられ、反響の大きさに驚くほどでした。

劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と
最大規模の予算をかけたこの作品が、こうい

う形で報いられ、十五周年記念にふさわしい

「あ」という間に、二時間二十分の時間が過
ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ

相も要らず、暗夜行路の手探り奇行。
〔176〕東京都練馬区豊原中三丁目二二一
304

岡安方
〇三一九四八七七三三八

劇団・伊丹市民劇場・やき
講落。天高く馬肥ゆる候となりました。さ
各地では、芸術の秋だけなわで毎日のよう

に演劇の花盛りでしょう。
私達の劇団やきも、来たる11月30日（土）

6時半、12月1日（日）1時半の2回、伊丹
市民立文化会館大ホール。
香村菊雄・作 村川直・演出

「幕末昆陽宿物語」
（エピソードのある4幕）
を、伊丹市制四十五周年事業として、市より

一五〇万の補助金を受け上演致します。
また、八月の三重県湯の山での総会・ゼミ

参加者（山本、寺間、山田、和田、今井）五
名は、各々の全国の劇団の人との交流や情報

交換に、「安美と厨子王」の観賞で感激し、
山田洋次さんのお話に大変関心を寄せるなど

意味ある内容を劇団に持ち帰り、報告させて
いただきました。（86・10・14字間太郎）

伊丹市千僧字船原二〇一九
坂上義太郎方

〇五七三六五五一九三七

演劇集団和歌山
劇団創立十五周年記念、栗原香・演出の森

井淳・作「情無用荒川大鼓」は、御坊、岩出
和歌山公演（2ステージ）を好評のうちを終

え、10月26日の湯浅公演目ざして総力をあげ
て取り組んでいます。特に本拠地和歌山県民

文化会館公演は、われわれが予想していた以
上の舞台成果を得られ、「音楽、装畫、アッ

サンアルともによく感動した」「一揆そのも
のよりも、その状況の中で生きる人間性がよ

く描かれており、みていて涙がにじんだ」
「あ」という間に、二時間二十分の時間が過

ぎた。芝居で居眠りしなかつたのは初めてだ
等々、絶賛ともいへば批評が多く数多く寄

せられ、反響の大きさに驚くほどでした。
劇団では二年の準備期間、五月月の稽古と

秋です。劇団は今、フル活動です。

移動公演班「奇蹟の人」は、日曜、祭日もスケジュールがぎっしりつまり、全国、中、高校、子ども、おやど劇場高学年例会など、まさに東奔西走の毎日。

「おとうさんのつうしんば」も11月に入れば、こども、おやど劇場で10日余の旅公演。二つの移動公演班が、11月は北海道へ。大阪では、恒例「新劇フェスティバル」開催中で、在阪劇団の中で12劇団が参加、競演。関雲は、三好十郎・作「冒した者」を岩田直二演出で、11月1・2日、郵便貯金ホール

で参加。

劇団附属研究所・専攻科16名が、一年九ヶ月（本科を含め）の教育期間を経て、卒業公演「ウクトルル・ロビン」作、狩野亨訳、月14・15日、関雲スタジオにおいて上演。なお、現在、劇団では「演出部員」を募集しています。

545 大阪市阿倍野区文の里四一八六一〇六一六二一一二二二

劇団鳥吹

全り演のみなさんごんちには。

秋だけなわの演劇システムに、わたしたち派な装束にならばいいのですが……？ とにかく、十一月二十三日を目指して、必死に稽古するしありません。やるっきゃない！です。（風張）

劇団も、十一月一日、創立二十三周年を迎えます。そこで、十一月三日（日）、午後五時より、劇団稽古場にて、記念レセプションを開きます。

劇団やませ

さして私達劇団やませの、創立十五周年記念公演、碓谷伸夫・作、佐々木洋二・演出「赤い海」明治四十四年十一月一日、鮪騒動異聞。二幕一場の稽古も、ようやく軌道に乗って

ました。第一稿への話し合いの中から、疑問点、問題点を出し、本稿の完成を急ぎました。大きな書き直しはありませんが、より密度を濃くすべく、色々直して見ました。

なにして、十八人の劇団員で、十七人登場の内容ですから、元劇団員やいろんな方々の協力を得てがんばっています。また、碓置栗谷川洋さんからも御援助いただき、早速装置作りにとりかかりました。コソチの様な立

置細が決まりましたら、お知らせ致します。詳細が決まりましたら、お知らせ致します。

371 前橋市昭和町三二五二一

仙台小劇場

今年で四回目を数える「夏休み親と子の劇

場ですが、今年は「はだかの玉様」を八月十七、十八日の四アスタジオ上演しました。会場は市民会館小ホール。役者も四年目とあつてなれてきて、舞台上をあちこち跳び回ったり、客席を走り回ったりの活躍ぶりでした。

創造面では、なかなか好評でしたが、このところの観客の伸び悩みで、まだまだ地域の幅広い理解やPRを広げていかなければと、劇団員はがんばっています。

ただ今のスケジュールは、移動公演で「アフリカと小鬼」

を各地で好評、上演中です。

10月19日（土） 富ヶ丘公民館
11月2日（土） 鶴ヶ丘幼稚園
11月16日（土） 菅原幼稚園

「はだかの玉様」の配役の、スコッチとスカートの恋人の話し合いを進めています。現在、五作品出された中から二作品に絞られた状態ですがこの話し合いの中で、今までのレバ選の反省、だく結婚、一年前に仕事で形に転動となつた菱沼君は、けい古のために（？）仙台へ通い続けてくれました。二人共お幸せに。

(860) 仙台市五橋一五一一三 平和友好会館 2F

劇団からつかせ

第十五回公演を約一ヶ月後に控え、あわただしい日を過しています。

△今回は、劇団からつかせ、初の大がかりな創作劇ということで、今までは違ふ意味で新鮮さや意欲をもって活動しております。

また、現在、稽古場をもないジブシ生活で、一つの決められた集中点がないため、これから公演までの追い込みが、全体的な進行の遅れとあわせてどのような形となるかなど不安材料を抱え、公演に向けて進んでい

ます。

第八十五回公演 深沢大助・作「風の巻」

進めています。

●「ガラスの動物園」

作／T・ウリアムス 演出／片野耕治
11月22・23・24日 名古屋針小劇場
劇団員が多い中で、キャスト四人という

公演は、集団としても冒険ですが、スタッフにも注力している舞台を創りたいと願って

●また同時に、名古屋劇団協議会合同公演として、『十二夜』(W・シェクスピア作、浦はじめ演出)にも取り組んでいます。

公演日11月13・14日 場所市芸術センター
制作責任を名雲の谷辺が担当し、キャストとして栗木も連化(フェラズ)で出演します。

その後は、12月に研究生の卒業公演を、若手藤平の演出で行う予定です。その他12月3

日には、名古屋反核舞臺人の集いで、地元演劇人有志により、『味子と父たち』(栗木

作・木崎裕治演出)を上演し、来春はシェイクスピアシリーズ『国五物語』PART II

(演出／柘植洋)に取り組む計画です。状況が厳しい中ですが、お互い負けないようがんばりましょう！
468 名古屋市天白区天白町平針446
〇五二一八〇三二一九二)

尚、急ぎの連絡は左記へお願いします。

(457) 名古屋市南区妙田町3の40 栗木方

演劇サークル「妻の会」
〇五二一八二二一三六九二)

全り演の皆様、如何おすごですか。連日動、お疲れ様です。夏の真ん中を過ぎたと思っ

御健闘されていることと思います。毎度の劇団活動の状況を流石に頂戴、胸どどろろき、

頑張らねばという思い、励まされています。劇団は8月27・28日、『11人の少年』(北

村想・作、山根義昭・演出)を観客四五〇名

程に見てもらい、ほぼ成功裡に終えて、すぐ

に「ユタ」と不思議な仲間たちと「ソノコ

長ぐつを、スタッフ、キャストを入れ替え

てけい古に入っています。

「ユタ」10月12・13日23日、真駒内市

民セセンター。(三浦智恵原作、山根義昭演出)

「ソノコ」10月18・19日。(加藤多

一原作、本山御弥郎、多海本義男演出)

なお、いままでのけい古場・事務所が解体

の憂き目に会い、やむなく移転しました。

新けい古場は、元縫製工場の二階で、階下

には老夫婦が生活していて、昔には神輿を使

りまく状況ですね。軍事大園だなんて、世界

の人々にいわれない様になんとか打破したい

ものです。

吉岡利根雄

〇三一六五九一八七〇四)

劇団新劇場

全り演の皆様、けい古に普及に、連日の連

動、お疲れ様です。夏の真ん中を過ぎたと思っ

たら、もう街の樹々も黄ばみ、チラチラ散っ

ている札幌の街並です。

劇団は8月27・28日、『11人の少年』(北

村想・作、山根義昭・演出)を観客四五〇名

程に見てもらい、ほぼ成功裡に終えて、すぐ

に「ユタ」と不思議な仲間たちと「ソノコ

長ぐつを、スタッフ、キャストを入れ替え

てけい古に入っています。

「ユタ」10月12・13日23日、真駒内市

民セセンター。(三浦智恵原作、山根義昭演出)

「ソノコ」10月18・19日。(加藤多

一原作、本山御弥郎、多海本義男演出)

なお、いままでのけい古場・事務所が解体

の憂き目に会い、やむなく移転しました。

新けい古場は、元縫製工場の二階で、階下

には老夫婦が生活していて、昔には神輿を使

りまく状況ですね。軍事大園だなんて、世界

線で応援したり、いろいろやっています。

十二月の公演はまだまだ創作です。

『わいく・あんど・わいく』一幕

作・演出 境野修次

十二月七日(土)午後二時・七時の開演

江東区深川青年館ホール

― 零細な印刷会社に働くタイピストの女

たち(主婦ばかり)四人が中心の舞台です。

R)から来日されるスクリナー・アサンブ

ルの演出家フリュクさんたちもお招きして、

演技セミナーの交流もできるらしいのでた

のしみです。11月23・25日(6時30分)ノ24

日(2時のみ)。於阿佐谷小劇場。参加費は

東動演共通チケット一三〇〇円……ドリンク

付き、

◎阿佐谷ひろはらの『芝居くりの集まり、

で、10月13日第四回発表会。女子高校体育ク

ラフでのじめられ体験、障害をもつ女性と

た甘えのエピソード、ま昼のちよらん・シ

リスから『飼料調理人心得』牛丼、「女性

版の三本立てでした。

◎雑誌「足手(あしで)」第一号ができま

した。目前といっても粗大ゴミ級のタイフ、

で下さった方々との「共同作業、そのものが

をさがり足がかりに、演じながら討論しな

がら……現代を検証する試みで、『土演』と

から……現代を検証する試みで、『土演』と

をさがり足がかりに、演じながら討論しな

がら……現代を検証する試みで、『土演』と

〇二一八二四一三三八〇)

劇団たいこん座

◇秋の公演は九月十四日、鶴岡市中央公民館

ホールにて、小寺隆昭・作「かげの巻(二

巻)を上演しました。キャスト十六名という、

おが劇団にとっては大人数の出演で、新人も

多く、フライイガヤガヤ、にぎやかにつくり

あげました。おおむね好評のようで、観客も

三五八名と、やうと下座線に歯止めがかり

ました。

◇十月十日、中央公民館文化参加として、

さねとうおきら作「ゆきと塊へ」を上演し

ました観客二五〇名。

◇十月十九日、劇団創立十周年祝賀会を67名

の参加で、にぎやかに行いました。何回も

つぶれそうだった劇団が、十年もつづくな

ておどろきです。記念誌も二百部発行しまし

た。仙小の鈴木京子さん、佐藤克夫さんもか

けつけてくれました。

997 鶴岡市本町三十九一十一

〇三五二四一六八八)

演劇集団石ころ

現在、十二月の公演に向けて、ふんどう中

です。その間、地域の障害者の人たちの「の

びび作業所」主催のバザーに、太鼓三味

で下さった方々との「共同作業、そのものが

をさがり足がかりに、演じながら討論しな

がら……現代を検証する試みで、『土演』と

者から誘って生活者に届くようなナメな
 い物言い—手当たり次第いろいろ載せるつも
 り。第一号は沖繩特集その1のおもむきで、
 沖繩の青年たちの集まり「でいきらんぬー、
 が創作・上演した『アリエーとアリエーのマス
 カレード』（六場）沖繩・八重山の民話
 『アリエーパン』、加屋正一原作・最初の
 展覧集創作（一九七五年）『離り島風土記』
 （四幕）。B判90頁、送料コミで八〇〇円。
 郵便切手同封のうえお申込みのほど、よろし
 く。

●集団創作『鳥のこえ』を、沖
 縄問題研究会発行の小冊子『沖縄事情』に掲
 げ、口千鶴子のさし絵入りで連載しています。
 ◎その樋口は、この夏週間ではアリエ
 ンのサニール島カバセツガガンで電気・ガスな
 しもちろん自動車なしの生活を体験してきて、
 「足手」第二号にそのルポをのせるべく格闘
 中。
 戯曲創作は、小島政男が指紋抑捺・外国人
 記録制度について、大沢郁夫が『アリエトの
 会、機関紙『グレストゥス』戯曲特集にむけて
 戸籍ノ国籍ノアシヨナリズムノ天皇制につい
 て、林陽子が新石垣空港建築問題について、
 現実の大問題ヤロヤメロとの天の声に逆らっ

てそれぞれモチーフをかかえて苦闘中。
 ◎第三回展覧企画の催しは、秩父事件に魅
 せられたカマラン・渡辺生さんがひとり
 こつこつ歩きまわって8ミリ1時間ほどにま
 とめたフィルム『山壁の叫び』を、12月上旬
 に上映の予定です。

演劇集団土の会
 (166) 東京都杉並区阿佐谷南一三三三
 (林陽子)
 ○三一九三二七三九
 「安寿と厨子王」は、ハンライキヤツを
 克服する努力のなかに、感性と理性とを統一
 するけんめいな美しさがにじんでいて、感動
 的でした。また、山洋次さんのおはなしは、
 いわばアリエトの世界のことなものでしたが、
 かえし言わんとしていのように思えました。
 さて、演劇集団土の会は—「演劇集団」
 としては機能していませんので、「土の会」
 なのですが、「東京劇くもの演劇祭」
 にかかわって、アリエトの「第三帝国の恐怖
 と貧困」を勉強しているざいちゃうです。つ
 まり、劇団展望のよびかけとインシアで、
 「けい場の『第三帝国』という企画をいっ
 しょに準備しているところ。サフ・タイトル
 ら若き女性が二人参加しました。楽しい会を

●「安寿と厨子王」は、ハンライキヤツを
 克服する努力のなかに、感性と理性とを統一
 するけんめいな美しさがにじんでいて、感動
 的でした。また、山洋次さんのおはなしは、
 いわばアリエトの世界のことなものでしたが、
 かえし言わんとしていのように思えました。
 さて、演劇集団土の会は—「演劇集団」
 としては機能していませんので、「土の会」
 なのですが、「東京劇くもの演劇祭」
 にかかわって、アリエトの「第三帝国の恐怖
 と貧困」を勉強しているざいちゃうです。つ
 まり、劇団展望のよびかけとインシアで、
 「けい場の『第三帝国』という企画をいっ
 しょに準備しているところ。サフ・タイトル
 ら若き女性が二人参加しました。楽しい会を

が「立休みていんぐ・わたしたちのいまど
 プレイト」。十一月二十三から二十五日は、
 激しい「みていんぐ」になりそう、半分
 不安、半分楽しみです。
 (佐藤)
 (17) 東京都練馬区大泉学園町七十五
 三〇 よしだ方
 ○三一九四一六二〇七
 演劇集団おけら
 前もって暫らく通信を怠っていたこと、誌
 代の未納に対しても深くお詫言ひ申し上げます。
 「おけら」では今年に入ってから、八月に
 チェホフ作『結婚申込』を公演しました。
 これは芝居を見たくてがないような人が多
 い所へ移動しての画期的なものでした。感謝
 もまあまあでした。
 今年、これからの予定としては、十二月六
 日(金)、アバール作『戦争のピクニック』
 の公演をすることになっています。
 最後に、末納誌代に関しては早急にお支払
 しいたいと思っています。ではお元気で。

秋のシースには都内及び近郊の小・中学
 生に四本のレバをもって、それぞれ巡演、各
 校とも評判がいいので、身体的疲労もふきと
 ばす思いで一回張り切っています。
 既に前六〇号でもご案内の通り、立川雄三
 脚色の「六号室」の準備も着々進んでいます。
 子どものための芝居だけではなく、全リ演
 のみなさんにもよろこんでもらえる大のた
 めの芝居、待っていて下さい。(丸山詠二)
 (160) 東京都新宿区新宿一〇一五
 新御苑ビル
 ○三二三四一九三五〇
 劇団上野市民劇場
 みなさん、こんにちは
 夏の湯の山ゼミから、はや一カ月。積極的
 な活動として平和に生きるために根本的に必
 要とされる「愛」について、考えてみたいと
 思っています。また、戦争について更に学習し、
 そして、黒澤さんの世界の「愛」を表現した
 人とは思っています。公演は次の通りです。
 日時 十一月三十日(日)PM二時・六時三十分
 十二月一日(月)PM二時三十分
 場所 上野映画劇場
 さて、話は前後しますが、六月三十日、七
 月二十二日に行われた、夏休みおやて劇場
 ショウ、

●「はだかの王さま」は、通算三〇〇名の方
 にみていただき、予想をはるかに上回る久々
 の快挙でした。その後、二カ所の小学校で
 の移動公演をすませ、昭和六十二年一月一九
 日に三重県文化会館で、三月二十日・二十一
 日には鈴鹿市と龜山市での公演が、現在のと
 ころ予定されています。
 また、秋の定期公演は、今年度が戦後四十
 年めにあたること、そして、国際青年年でも
 あることをふまえて、今、戦争をしらない私
 たち若者世代が、戦争をおこさせないために
 何をしなければならぬか、と考えた末、
 黒澤参吉氏の『ふかい壁』を、福北赤濱
 出で上演することになりました。

●「はだかの王さま」は、通算三〇〇名の方
 にみていただき、予想をはるかに上回る久々
 の快挙でした。その後、二カ所の小学校で
 の移動公演をすませ、昭和六十二年一月一九
 日に三重県文化会館で、三月二十日・二十一
 日には鈴鹿市と龜山市での公演が、現在のと
 ころ予定されています。
 また、秋の定期公演は、今年度が戦後四十
 年めにあたること、そして、国際青年年でも
 あることをふまえて、今、戦争をしらない私
 たち若者世代が、戦争をおこさせないために
 何をしなければならぬか、と考えた末、
 黒澤参吉氏の『ふかい壁』を、福北赤濱
 出で上演することになりました。

518 三重県上野市丸之内 共同ビル3F

519 豊島区池袋四一七五四

517 豊島区池袋四一七五四

516 豊島区池袋四一七五四

劇団錦織

515 三重県上野市丸之内 共同ビル3F

「ナチャンは宇宙人」を早川昭二演出で上
ホールにおきまして、大橋豊一さんの力作
の公演当日は、十一月に同作品を上演される
劇団未来の方や、劇団やまなみからは、河野
さんをはじめ多数の方々に御観頂戴しました。
この誌上をおかりしまして、お礼申し上げます。

この作品は、核問題というテーマを、純粋
な15才の少女の視点からとらえ、その少女が
「ナチャン」が、宇宙人からもらった超能力を使っ
て社会的有名名人を歴訪するという、ユニーク
な切り口で描いてあります。
劇団では、この核問題というテーマを、ユ
ニークな切り口でもって、若い世代に投げか
けるべく、来年度の中学・高校巡演作品とし
て決定し、現任、再び古い古の準備にとりかか
っています。

その他には、1月12日、18日に小劇場公演
を予定、現在、メンバーの最終選定を行っ
ているところです。
(大南孝史記)

と足安新演目の読みの頑張りや劇団歴の若い
劇団員のひたむきさで、それを許容し楽しんで
下さった観客の励ましのおかげだと思っ
ています。
ただ、上演許可をどうと出版社へ申込ん
だらニューヨークへ交渉しろと言われて、誰
もが英語に自信がなく、とってないです。
最近平井事務所が窓口と聞き、後になっただけ
と連絡をとろうと思っ
ています。

鹿角優一
514 小樽市銭函二二一六一
513 小樽市銭函二二一六一

劇団四日市

512 小樽市銭函二二一六一

早いものですな、一年というのは...。もう
今年も残すところ、あとわずか、あの八月の
暑い最中の「湯の山ゼミナール」の話題がと
んと絶えたい古場の中、今は来年二月の学
校公演移動の「奇蹟の人」のけい古の真、最
中です。
アニーとレノン扮する後者のどび散る汗で
狭い古い古場はムンムンしています。
また、外部団体との相互協力も大切に考え
「もし国家機密法が通たら...劇がある日
今、私たちは芝居の好きな仲間10人、ガッ

511 豊島区池袋四一七五四

510 四日市北浜町九一〇

チリとスラム組んで、86年12年に猛進中
です。
510 四日市北浜町九一〇

劇団どろ
509 五九二一五二一九四二六

公演成功の為に忙しい中、協力にかけつけ
て下さった、四紀会、職演連、七、A C T、
など多くの劇団の仲間達が来て、どのケ
イコ場も又静けさを取り戻しましたが、この
公演をキッカケに、元団員の復帰や、新人の
入団など、嬉しいニュースもあつた。今は
大仕事をやり遂げた安堵感と虚脱感にとらわ
れていますが、ぼろぼろ二十年の垢を洗い流
した新生どろの活動をスタートしなければと
考えています。
公演成功の為に忙しい中、協力にかけつけ
て下さった、四紀会、職演連、七、A C T、
など多くの劇団の仲間達が来て、どのケ
イコ場も又静けさを取り戻しましたが、この
公演をキッカケに、元団員の復帰や、新人の
入団など、嬉しいニュースもあつた。今は
大仕事をやり遂げた安堵感と虚脱感にとらわ
れていますが、ぼろぼろ二十年の垢を洗い流
した新生どろの活動をスタートしなければと
考えています。

山室一貴の「一人居」ヒロシマのモヒカン旗
公演と、来年三月、ケイコ場での公演に回
けて始動します。
(合田)

508 神戸市兵庫区大開通七一四一七

507 小樽市銭函二二一六一

谷垣ビル4F
506 七八二五七六六四八八

劇団京芸

505 八、京都府文化芸術劇場「陽気な地獄破

り」(木下順一・作、田島征彦・美術、佐々
木しゅう・演出)は、三日間五ステージとも
超満員となり、近年で最高の入場数(約二、
二〇〇名)を記録しました。現在、近畿の中
学校中心に移動公演の真最中ですが、来年か
らは京都、大津、豊中などの全国おやて劇場
でも上演します。
公演成功の為に忙しい中、協力にかけつけ
て下さった、四紀会、職演連、七、A C T、
など多くの劇団の仲間達が来て、どのケ
イコ場も又静けさを取り戻しましたが、この
公演をキッカケに、元団員の復帰や、新人の
入団など、嬉しいニュースもあつた。今は
大仕事をやり遂げた安堵感と虚脱感にとらわ
れていますが、ぼろぼろ二十年の垢を洗い流
した新生どろの活動をスタートしなければと
考えています。

504 広島市南区宇品御幸二丁目
503 十二十七四〇六 岩井里子方
形でしか舞台に立てなかつたからです。
でも、後味の良い、暖かい舞台に上つた
と私は思いました。その要因は、台本の良さ
前略。「演劇会議」にはいつも動まされて

502 八、京都府文化芸術劇場「陽気な地獄破

り」(木下順一・作、田島征彦・美術、佐々
木しゅう・演出)は、三日間五ステージとも
超満員となり、近年で最高の入場数(約二、
二〇〇名)を記録しました。現在、近畿の中
学校中心に移動公演の真最中ですが、来年か
らは京都、大津、豊中などの全国おやて劇場
でも上演します。

公演成功の為に忙しい中、協力にかけつけ
て下さった、四紀会、職演連、七、A C T、
など多くの劇団の仲間達が来て、どのケ
イコ場も又静けさを取り戻しましたが、この
公演をキッカケに、元団員の復帰や、新人の
入団など、嬉しいニュースもあつた。今は
大仕事をやり遂げた安堵感と虚脱感にとらわ
れていますが、ぼろぼろ二十年の垢を洗い流
した新生どろの活動をスタートしなければと
考えています。

山室一貴の「一人居」ヒロシマのモヒカン旗
公演と、来年三月、ケイコ場での公演に回
けて始動します。
(合田)

501 神戸市兵庫区大開通七一四一七

500 小樽市銭函二二一六一

ナイバル参加作品「三人の花嫁」(寺島予キ子作、熊本一・演出)に劇団員総力をあげ取り組んでおります。

この作品は、満蒙開拓団に「大陸の花嫁」として嫁いでいった三人の女の人々を描いたものです。満蒙開拓の歴史を知れば知るほど、その興の深さに驚くばかりです。

先日、作者の寺島予キ子さんに、けい古場に来ていただき、この作品にかける思いを語り合いました。

「十年前の作品であるのに、現在の私たちの心につきささる何かがある」と、改めて感じずにはいられません。

「あつた、改めましてはいられますんでした。」

あとわずかの稽古期間ですが、よりずばらしい舞台を創りたいと思っております。

(52) 大阪府南区谷町七丁目三九一〇三〇六一七六八一九五七)

劇団名古屋
「場」の山ゼミ、では各劇団の皆様、ご苦労までした。我々の劇団からも多数参加し、モテル上演の観劇、講演、分科会、そして夜の大交流会も、日頃劇団内のみでくすぶっていた何かを燃焼させられたようです。その興奮のさめぬうちに、感想を募り、文集をつくりました。

劇団すがお
〇一六二九一三三八六

(120) 東京都足立区東和5-12-7-103
石塚雄方

みなさん、今日は……
「場」の山ゼミ、に参加下さった三二三名のみなさん、ご苦労までした。おかげさまで色々のこと経験させてもらいました。

連日の猛暑のなかで、八月二四日が迫ってくるにしたがって、ほとんど寝る時間もとれず、準備にとりくんできていました。

一日間かかって、参加されたみなさんの感動と「ハイパー」振りで、暑い夏の想い出として今でも心の中にくつきり残っています。

あわからの劇団は、10月5日(金)高校文藝祭で「アソノ日記」の再演、プログラム関係上、なんと一時間にも縮めての公演でした。

毎年秋が深くなると、岐阜県境まで伸びている広い員弁(いなべ)郡下の学校公演、昨年は郡の教育祭のため一年休みでしたが、久しぶりに今年は小学校を巡ることになりました。

さねとうあきら作、加藤武夫演出
「ゆきと鬼心べ」(2幕6場)

12月5日(木)、6(金)川崎・幸文化センター

今劇団では、前回上演した「ヒロシマについての涙について」で得たものをふまえて、

「サ・パイロット」に取り組んでいます。核

についてを被害者的意識のみで考えがちな現

在(「致し方ない」と考える一部政治家もいる)か

加害者の意識をも見なおすべきではないかと

考え、少しでも長崎の音が聞かれるよう、少

しでも長崎の音が伝えられるよう、劇団員一

同努力しています。

名古屋劇団協議会の合同公演の「十二夜」

もあり、調整が難しいのですが、全力でがんばります。

この本が届く頃には「サ・パイロット」の

公演も終え、84年末に上演した「アソノの日

記」の再演にむけて劇団員一同さらに燃えて

いるはずですよ。

85年度、名古屋市青少年のための

芸術劇場

「アソノ日記」

原作 アンネ・フランク
脚色 ハケット夫妻
演出 久保田 明

日時 86年3月21日(祝) 2時30分
22日(土) 2時・6時30分

(456) 名古屋市熱田区新屋頭二二二一九

留作「かけの砦」の六年ぶり再演を予定して

います。

1月21日、22日(横濱・青少年センター

夜6時開演の四アスリートです。「どん底」

「持つ」ということに続く「人間シリーズ、

第三弾というわけですが、山本忠利の制作で

久しぶりに百人のすいせん、五十の後援団体、

実行委員会を軸に地域をあげての上演運動に

が始められます。今年こそは、公演行状記、で

していただくかと思っています。記者の桜井

郁子さんに来ていただいて学習会をひらいた

り、仙台小劇場に資料を提供してもらった

たいへん協力していただきました。

中沢研郎が、「子午線の祀り」に群読およ

び右亮晴信の役で客演、十月の旅公演に出

ています。

次の公演に予定している「はだし」の「

を月曜会の土屋清氏に改編してもらおうと

願ひし、ごなだ来た因国してもらい話し合いま

した。ヒロシマにならなる、京浜らしい、雄

唱劇、にしたいと思ひます。

「演劇会議」誌の拡大を関東ブロックの中

でもとびかかっています。今年の総会でも明

かにされたように、時代がはくらの奮起を求

めているようです。お互いにかんはりまし

う。

(211) 川崎市幸区古市場二一〇九

〇四四一五一二一四九五二

(城谷 護)

45

劇団静芸

通信速くはって申し訳ありません。

静芸では、11月23・24日と稽古場を改造し

(今までのごたごたしたものを整理し)劇団

の新しい作家小橋ひさしの創作劇「海堂さん

ちの音楽スタジオ」を、若い人達を中心にな

り、静芸小劇場公演として上演いたします。

劇団に若々しい力が生まれてくることを期待

しながら、今、歌あり踊りありの此の作品を

成功させるために必死の稽古です。

(420 静岡市昭府町一八九一

○五四二一七三(一〇六〇四)

青年劇場

場の中の総会・ゼミナルで会いました

皆さん、お元気ですか。お疲れ様でした。深

夜まで続いた大交流会。参加者一同、思っ

分業していただきました。中部ブロック

の皆さん、ありがとうございます。

仕事の都合で分科会へは参加できません

でしたが、今総会で私の感じたいのは、理念の問

題、どのように次代に伝えていくか、今、深

刻な時期に来ているチアアということでした。

そして「全り演は何故必要か」の議論の中に

理由問題がすえられているのか、いささか疑

問をもちました。それは、世の中全体が右傾

化して行く中で、二八二名の方々に頼りいただき、おかげ様で

演を打って来ました。公演中二日に雨が降

りました。

目玉はやっぱり、「安寿と厨子王」の手柄劇

だと思えます。本当によかった。私も公演直

前のゼミ参加だったので、やる気まんまんで

神戸に帰ることができました。五年後には、

又参加したいなあ、でも二十七歳になつて参

加できるかななんてぼんやり、考えながら

これを書いている次第です。(呑みどり)

(650 神戸市中央区元町一十九一

元町テラザ六二

○七八三九二(一四二二)

劇団未来

入場料 大人三〇〇円学生一〇〇円

映画では、オードリー・ヘップバーンとジ

ヤリー・マックレーンが……、労演では、

有馬稲子と南田洋子が……。劇団四紀会では

上田珠代と石川淑子が。お楽しみに!

「湯の山ゼミ」の感想を一寸ひと言。

劇団に入つて三年、初めて全り演ゼミに参

加しました。去年は西会議議ゼミを地元神戸で

やったので、なんとなく雰囲気はわかつてた

つもりなのですが、やっぱりちかう!

地元を離れ、電車にゆられ、というのがあつ

てこそ、人間を開放的な気分させてくれて、

おもいきり楽しむことができたんだなあ

と

阪の折、稽古場へお立ち寄りをお願い、一部の稽

思いました。

古を見ていただいた後、交流の場を持たせて

いただきました。戯曲「ナチャちゃん」は大変

な難産の結果、この世に誕生したと、劇団

の「ナチャちゃん」が長女で、今回の未来

三女、四女の誕生を期待しているとおし

いまして。また、二つ一つの役への思いも語

ていただく中で、作者の戯曲に対する熱い思

いが私たちに伝わってくるようなひと時とし

た。私達は未熟ですが、劇団の創造的飛躍を

かけて努力してゆきたいと思ひました。

一方、今回の会場は10月2日、新しくオト

アソビした近鉄小劇場(大阪上六)を使用する

ことになっております。この新しい小屋を私

たちの観客でどこまで埋めることができるか、

小屋の機能がいかに有効に使用できなすかも、

大きな課題となっております。(斎藤周介)

第25回公演

「ナチャちゃんは宇宙人」

大橋一・作 森本景文・演出

11月15日(金)16日(土)3スクリップ

会場 近鉄小劇場(大阪上六)

(550 大阪府西区江之子島一七七一

新うづぼビル4F

○六一四四七一(三〇一)

化していく中で展望を失いがちになることに

くのでしょう。文化庁の主催による「地域劇

団東京演劇祭」の企画など、本来全り演が取

り組むべきことを先どりされているように思

われるし、ひょっとしてこんな形でジワジワ

上周りを包囲されていくのではないかと、危

機感を抱いています。このことはいちがい

言えない問題ですし、今後 様々な角度から

検討していく必要を感じます。又行事の名の

もとに文化予算が削られていること、文化の

民活性化等、決して無関心ではないけれど

沢山あるし、大いに論議すべきではないでしょ

うか。

仕事は、私が出たら、私の総会に出席し

たが、今総会で私の感じたいのは、理念の問

題、どのように次代に伝えていくか、今、深

刻な時期に来ているチアアということでした。

そして「全り演は何故必要か」の議論の中に

理由問題がすえられているのか、いささか疑

問をもちました。それは、世の中全体が右傾

化して行く中で、二八二名の方々に頼りいただき、おかげ様で

演を打って来ました。公演中二日に雨が降

りました。

目玉はやっぱり、「安寿と厨子王」の手柄劇

だと思えます。本当によかった。私も公演直

前のゼミ参加だったので、やる気まんまんで

神戸に帰ることができました。五年後には、

又参加したいなあ、でも二十七歳になつて参

加できるかななんてぼんやり、考えながら

これを書いている次第です。(呑みどり)

(650 神戸市中央区元町一十九一

元町テラザ六二

○七八三九二(一四二二)

劇団未来

入場料 大人三〇〇円学生一〇〇円

映画では、オードリー・ヘップバーンとジ

ヤリー・マックレーンが……。労演では、

有馬稲子と南田洋子が……。劇団四紀会では

上田珠代と石川淑子が。お楽しみに!

「湯の山ゼミ」の感想を一寸ひと言。

劇団に入つて三年、初めて全り演ゼミに参

加しました。去年は西会議議ゼミを地元神戸で

やったので、なんとなく雰囲気はわかつてた

つもりなのですが、やっぱりちかう!

地元を離れ、電車にゆられ、というのがあつ

てこそ、人間を開放的な気分させてくれて、

おもいきり楽しむことができたんだなあ

と

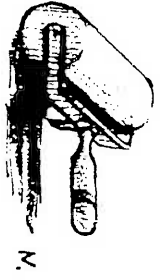
阪の折、稽古場へお立ち寄りをお願い、一部の稽

夏のゼミでは、担当プロットの皆様をはじめ、ご苦労様でした。

直後に山梨も新聞を賑わしてしまいましたが、どうぞ心配なく、ゼミでお買い上げいただいた品は安全です。(甲州ワインお買い上げのみなさまへ)

只今、11月26・27日の劇団30周年記念公演№2、「かけおち83」(作・つかこうへい、演出・米長兄真)公演へかけて苦闘中です。

(おきやまさゆり)
406 山梨県東八代郡石和町六三九〇五五三六(三四八三)



関西における戦前プロレタリア演劇の研究〔四八〕

大岡 欽 治

(一九三三年)の檢舉の嵐によって、ほぼコトにいた人おいての参加してもらった。諸団体の解体の方向が打ち出されてきたし、成立させることとなった。プロット大阪支部の背後の日本共産党の弾圧も強化されてい。その状況で、特高なども多少安心して、手を抜いているように思えた。今迄のような尾行も減ってきているし、劇団員も事務所には近寄りたくないという有様になっているので、プロット支部解散準備のことも、そのあとの対策については当局は全く知らないようだった。ついでには当局は全く知らないようだった。学生劇団から街頭劇団へと進んで来て同伴者劇団といわれていた新人劇場・新響劇団な劇団となり、同月には京都の古い新劇団エラソヴァイタル小劇場(この時には主宰者だった野淵昶は映画監督になっており、また京都 realistically 進展していることも知らなかった。そのプロット支部は崩壊していった)との提携も出来たが、新劇団創立に当って、それに参加することも考えられなかったし、新劇団が出来たことを見逃しはかなかった。ただ一つの見方は全国的なコトブ関係の昨年

(一九三三年)の檢舉の嵐によって、ほぼコトにいた人おいての参加してもらった。諸団体の解体の方向が打ち出されてきたし、成立させることとなった。プロット大阪支部の背後の日本共産党の弾圧も強化されてい。その状況で、特高なども多少安心して、手を抜いているように思えた。今迄のような尾行も減ってきているし、劇団員も事務所には近寄りたくないという有様になっているので、プロット支部解散準備のことも、そのあとの対策については当局は全く知らないようだった。ついでには当局は全く知らないようだった。学生劇団から街頭劇団へと進んで来て同伴者劇団といわれていた新人劇場・新響劇団な劇団となり、同月には京都の古い新劇団エラソヴァイタル小劇場(この時には主宰者だった野淵昶は映画監督になっており、また京都 realistically 進展していることも知らなかった。そのプロット支部は崩壊していった)との提携も出来たが、新劇団創立に当って、それに参加することも考えられなかったし、新劇団が出来たことを見逃しはかなかった。ただ一つの見方は全国的なコトブ関係の昨年

新刊・紹介 「千田是也演劇評論集」第三卷

この評論集は、①劇団・演劇運動、観客論 ②演出・演技ノート ③作家・作品論

(4)随想 といった主題の区分で編まれていて、第三卷は一九五五年から五九年までの五年間における著述である。

た、書き下ろしの「解説的回想」である。戦後、新劇ブームといわれるほどに合頭してきた、一九五〇年代後半の演劇界の状況が、豊富な資料を駆使して実に克明に描かれていて、

もちろん、そこには、それをどう見るか見たかの著者の考えがあって、それには多少の異を唱えるむきもあるかもしれない。この時期の波動をめぐって地域劇団や学生劇団が輩出したわけである。

この期間で故人となった、久保栄、青山杉作、土方与志への追悼文も読めるが、それらは、これらの人びとの業績と人柄をくつきりとつづし出し、味わいのあるプロファイル論としても独立していて興味深い。千田先生一家の家長だった伊藤為吉翁の死去にあたっての、いろいろな話も、千田さんの肉声をきくように、妙な言い方にはあるが、実にたのしい。

は仕方がない。(未来社・四八〇〇円)

場「今里劇場」で、南鮮地方水害救援の公演を企画したが、これは警察から公演不許可に

なっていました。

この事件を機として、第二次新劇団合同の

方針を考えるようになった。

これは、東京のプロット解散を軸とする左

翼劇場と新築地劇団の対立から、大同団結の

進展による新協劇団の創立という時期に照應

させて表をつくってみる。

東京 大 阪
一九三四年(昭和九年)
二月プロット「新方針」
提起
東京左翼劇場・中央
劇場と改称

三月 大阪プロット支部
解散宣言
新劇団自由舞台設立
立・第一回発表会
京都公演

四月 五月 中央劇場「斬られの
仙丈上演
新築地劇団独立宣言
自由舞台「リリオ

七月 プロット解散発表
機「発表
自由舞台「父帰る」
東成診療所
(十五日)
八月 村山知義「新劇団大
同団結論」発表
九月 大同団結による「新
自由舞台、今里公
演禁止
十月 新協劇団第一回公演
「夜明け前」上演
十月 日本新劇倶楽部創立
「小山内薫を徳ぶ
会」全大阪新劇団
による

この表を見て判ることだが、東京より先に
大阪では、四月に新劇団合同を意図したが、不
充分のまま、新劇団自由舞台を出現した。

東京では、プロット解散、新劇復興という
方針が出たのは五月以後で、大阪の出現は一
月前、東京から直接の交渉はなかったので、

試行錯誤の行動であった。
しかし、この時点で雑誌「テアトロ」の
出現は、全国の演劇に大きな影響を与えられ
た。大阪は勿論、京都、或はやがて北陸金沢
では北陸新協劇団の誕生などが見られた。

自由舞台では、充分ではなかったが、プロッ
ト以後の新劇運動の第一歩を独自に進めてき
たが、これからは、東京での劇団の方向に学
び、再び劇団間の連絡が出来るようになった。
そして、ここに大阪における新劇復興として
自由舞台は、第二次の新劇団合同を目標とす
る方針を基調においての行動を開始することと
なった。関西における新劇運動の拠点とし
ての存在を確保することに努めることになっ
た。

(一)新しい状況を創り出すために
(二)新劇団の統一を指向する劇団の結或の準備

この二つの点を実行に移すことになった。

(一) 新劇団組織の理論的展開

この面については、ほぼ東京と同時に雑誌
に、大阪独自の思考により、プロット以後の
新劇団結成についての論文を発表した。
東京の「テアトロ」大阪の「関西文学」そ
の他に場を与えられて、恐らく大阪としては
初めての演劇論争が展開されることになった。
「テアトロ」は前記の如く、この年五月に

東京の新劇関係者の協力によって発行され、

戦時中一時発行禁止、戦後再刊、今年十月の

現在までに五二二号が刊行されており、我国

での新劇雑誌として最長の記録をもつ貴重な

資料である。その五十年に亘る歴史の最初の

時に、大阪の新劇史の上で最重要な新劇団大

阪協同劇団創立のための貴重な資料が掲載さ

れたのである。
その執筆者は全員、元プロット員であるこ

とも記録されるべきだろう。

次に、執筆者と論文名を記しておく。

「テアトロ」(一九三四年五月創刊)
三号(七月号)関西の新劇(佐野文彦)
四号(八月号)大阪の新劇のために(渡辺三

五号(九月号)特集・大阪新劇団の大同団結
論の問題
進歩的な演劇の統一のために
(大岡欽治)／基礎工作の再
建から(多田俊平)／大阪に
於ける大同団結の問題(佐野

文彦)
六号(十一月号)再び大阪の新劇のために(渡
辺三郎)／関西新劇前進のた

めに(小林敏夫)／大阪新劇

大同団結についての私見
(大岡欽治)

(一九三五年・第二卷)
八号(一月号)関西演劇の黎明期(佐野文彦)
十号(六月号)劇団自由舞台(吉野喬)大

岡欽治)／関西新劇団点描
(小林敏夫)

十三号(七月号)大阪新劇運動最近の動向
(多田俊平)

十七号(十一月号)資料・大阪協同劇団結成

雑誌「関西文学」は一九三四年(昭和九年)
五月創刊・旧日本プロレタリア文学同盟大阪
支部員を中心とした文芸雑誌・コップの関係

で私とも親しく、新しい大阪の新劇について
の論文を掲載してくれた。

【関西文学】(一九三四年五月創刊)
大阪新劇団景里新劇人劇
場・自由舞台・無名座(高

木滋)／大岡欽治)／演劇の
貧困の克服について(小林
敏夫)

劇団自由舞台と新人劇場の
公演(高木滋)

(二) 新劇団合同のための具体的演劇活動

大阪の新劇団の統一を指向する大阪の新劇運

動は、東京で行われている新劇大同団結の

ための具体的活動の理論に異論はなかった。
しかし、東京では、左翼劇場の改称した中
央劇場と新築地劇団という二つのプロットの

代表的劇団との間に充分な諒解がなされず、
劇団と新築地劇団の一部の脱退者を含めて合

同した新協劇団という新劇の職業的専門劇団が出来、一部は新協に加盟した者を除いて、築地小劇場の傳統の上に立つ新築地劇団の二つのプロット系を中心とする劇団の活動が中心となってきた。プロット系以外には、築地系の系列の築地座(やがて文字座となる)が存在するといふ新劇地図が出来上った。

しかも新協劇団の創立第一回公演は、文壇の巨匠島崎藤村の代表的長篇小説「夜明け前」の上演の好評もあって、劇団内でも方向の再検討をなすべくであるとの意見も出てきた。

当時、劇団文芸部が、部エコー第一号(一九三四・一〇・一六発行)で発表した上演検討の戯曲表は次のようである。

小山内薫	小山内薫	盗人	前田河廣一郎	岸田国土	武者小路実篤
山本有三	屋上園 葉桜 紙風船	青年と強盗	開口次郎	屋上園 葉桜 紙風船	或る日の一休
秋田雨雀	おらんと命を弄ぶ男	たり	鈴木泉三郎	おらんと命を弄ぶ男	第一回研究脚本決定(十月)
手投弾 アスパラガス	金子洋文	ラシヤメンの父	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
海彦山彦 嬰兒殺し	金子洋文	おらんと命を弄ぶ男	鈴木泉三郎	おらんと命を弄ぶ男	
保母を救へ	高田保	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
三月三十日 白い腕	池谷信三郎	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
エチル・ガリン 根替	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
赤壇 馬鹿殿評決 大臣	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
候箱	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
早鐘	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
首を切るのは誰だ	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
荷車	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	
プロ床 泥棒 冬のおわり	長谷川知是閑	おらんと命を弄ぶ男	有島武郎	おらんと命を弄ぶ男	

大阪の理想も、プロット系劇団、同伴者劇団、今迄通りの新劇とに大別出来るのだが、時勢はプロット系劇団の解散というショックな事態に続いて、プロット系+新派系(参)

国の新劇団はこの優れた創作劇に注目した。新劇団大同結の最初の勝利を物語った。地方においては群小のグループの小劇場が旧劇的レパートリーの上演で運動が進められていたが、都市に於ては、それらの小劇団の合同によつて従来の舞台を發展させる可能姓があると思われるのだが、合同は仲々困難でもある。

大阪の理想も、プロット系劇団、同伴者劇団、今迄通りの新劇とに大別出来るのだが、時勢はプロット系劇団の解散というショックな事態に続いて、プロット系+新派系(参)

次に自由舞台は、地の新劇団の公演に手を貸して裏から協力することだつた。

これは、大阪商大系の新人劇場、関西大学系の新響劇団が、共同公演として、「関西新劇前進のために」をスローガンをつけて公演することになつた。

また前プロにある二つの宣言の内の一つを掲げてみる。

『「新劇の夕」開催に就いて』

我々は何時もより正しいより良き演劇を目指して皆様と一緒に研究しあひ一歩でも前進を期待して進んでいます。而して皆様の生活をにびにびに適合した新劇を演ずると同時に何時でも皆様と手を取り合つて進んで行く様最上の物を創造せんが為努力しています。

今夕「新劇の夕」と名付けて新人・新響両劇場が共同公演を持つ所は実に此のより良

き演劇を創造せんとする我々の大きな念願に立脚した物であります。

我々両劇場がこの公演を持つに当り、突然関西一圓を襲つた大嵐風が大きな支障を持ち来つたと同じ様、今後新劇の發展の途上には人為的自然的な凡ゆる障害が横たわつています。

然し我々新劇を熱愛する情熱は如何なる鉄の障壁も焼きつくす事と信じます。東京に於ける大同団等々は我々の血みどろな斗争であり、この中から生れ出る物をそ明日を約束された發展的演劇の遂行者であります。

この意味に於て「新劇の夕」を通じて必ず明日への發展性ある物が生れ出る様皆様と一緒に研究批判して、この一夕を有意義に過し得ることを確信しております。

昭和九年十月

新 人 劇 場
新 響 劇 場

「新劇の夕」開催に就いて

出たものは

新人劇場 小山内薫作「塵境」 演出岩田直

新 人 劇 場
新 響 劇 場

二(現関西芸術座)

新響劇場 山本有三作「生命の冠」 演出大瀬徳雄 (現東宝映画社長田中友好)

公演は一応の成果を挙げたという気持をもつと同時に、自由舞台に対する態度も、前より警戒が薄くなつたようである。

△追加と訂正△

前号本誌の四八頁最下段から四九頁にわたる「1934(昭和9年)大阪新劇団 公演表の内に

四九頁中段の

△新人劇場の項の内に一公演を次の如く追加いたします。

(二)「街の家にて」I・チリコフ作 八住利雄 訳 衣川房二 演出

「鮮」 阪中正夫作 牧村史郎演出 (第六回公演)

7月21日 大阪・日筒ビルホール

従つて、次の(二)「塵境」は(三)「塵境」と訂正します。

アンサンブルの良さが 評価された舞台

大阪自立演劇連絡会議合同公演

「荒野の落日」を終えて

□取りくみ経過を中心に — 近野正男

□この長く・暗く・重たい芝居を

次のスチアプに — 堀江ひろゆき

□感想・「平和の世代が感じた七三」

木下修

□感想・「やっことまで…」茶谷利津子

森本景文

□後記

がギリギリ終わったというきわどいクライマックス。前日の朝からの仕込みだったが、大きな舞台だけに裏方の苦労は大変だった。

ともかくこうして一九八五年六月十四日の夜に幕を開けた大阪自立演劇連絡会議の五年ぶり五回目の合同公演「荒野の落日」は、翌十五日の昼・夜の合せて三ナイジとも、少し立見が出るほどの満席の盛況になった。

休憩を入れて二時間四十分にもなる舞台で、しかも重いテーマのある内容なので「しんどく」て帰る人が出るかと心配したが、ほとんどどの人が最後まで熱心に観てくれた。

最後のナイジには、俳優座の永井智雄さんが東京からかけつけて来て、客席から「この舞台は、二年前の俳優座の公演よりも、迫力があって素晴らしい」と大きな声でおいきつされた。

アンケートの結果や合評会を通じてのお客様の感想は、いろいろ細かい点での注文はあつたが、全体的には「アンサンブルの妨害もなきさぞうだが、あまり前売の入金状況がよくないので、どれだけのお客さんが来てくれるかと不安の初日だけに「おお、これは出足がいいぞ」と、少し気が楽になった。

開場予定の六時を繰りあげてお客さんに入ってもらつたが、舞台の方は、最後の明り合せ「テアトロ」の1985年8月号で、大川

達雄氏は「……何よりも歴史の空白を埋め、

反戦の主張を伝えたいとする意思が明確で、

作品への共感・共鳴が技術を高め、アンサン

ブルを強めた」と評されている。また内部

の総括でも、今日の情勢に合致した社会性の

あるテーマに正面から取り組み、その姿勢が

自立演劇を支える観客 仰ぐ仲間を感動をもつ

て受けとめられたのではないか。このことは

リアリズムを志向する劇団にとっての、とり

くむべき原点を再確認できたと思うという意

見が出ていた。

停滞といわれる自立演劇・リアリズム演劇

の状況のなかで、こうした取り組みが行えた

こと、とりわけ、七劇団、総勢百名近い人々

が、一つの劇団のようにまとまって一つの舞

台に結集し得たことは、全国的にみても異例

のことではないかと思われる。

全り演の仲間のためにも、自分達の後おと

の資料とするためにも、この取り組みの全容

について記録し、発表すべきだという「演劇

会議」の編集子の方からの意見もあり、企画の

スタートからは一年半の取り組みを振り返っ

てる。

て主要な点をまとめておくことにしたもので

自立演劇と合同公演

合同公演の総括に入る前に、大阪自立演劇

連絡会議（略称自立演）について、若キコメ

ントしておきたい。

自立演への現在の加盟劇団は、「劇団息吹」

「劇団大阪」「劇団きつがわ」「劇団十年実」

「大阪府職員演劇研究会」「劇団未来」「演

劇集団わだち」「どんちまの空」の8劇団

である。今回の合同公演には「どんちまの

空」を除いた7劇団が参加している。また全

り演にはら劇団が加盟している。

大阪の自立劇団の横の連絡組織としての自

演連の歴史は古いが（一九六三年設立）、一

つの企画で行動をとりだしたのは21年前の第

一回目の合同公演の頃からだと思われる。特

に十年前の第三回目の合同公演の頃から、

毎年一月に一泊交流集會を持ち、機関紙の発

行、「ニ合同公演、劇場建設運動、「大阪春

の演劇まつり」の主催団体としての企画・運

営の中心になるなど、活動の中も広がってき

ている。

組織としては「働きながら、働く者の立場

に立って、演劇活動をする劇団の集まり」と

ない。ただ新たに加盟するには既加盟劇団の

推せんが必要とされる。年會費・一劇団・一

万三千円で運営している。

過去の合同公演としては

①一九六四年「季節風」

作・中谷稔（府劇研）

演出・森本景文（劇団未来）

②一九六九年「怒りのウイッチ」

作・長谷川伸二（全道通へちま）

演出・寺下保（劇団未来）

③一九七五年「ばんどり騒乱記」

作・岩倉政治

演出・熊本一（劇団大阪）

④一九八〇年「コミュニティの日々」

作・グレイト

演出・小松 徹

「ああ、青春高校野球」

作・瀬戸洋（劇団十年実）

演出・又川邦義（演劇集団わだち）

の二班体制。

ほぼ五年毎に取り組み、今回の「荒野の落

日」（原作・森村誠一、台本・土井大助、演

出・堀江ひろゆき）劇団大阪）は五回目とい

うこととなる。

以下、取り組みの経過を追いながら主な事項をひらいてみる。

△作品▽ もともと自演連の合同公演は、大原芳演の五周年、十周年…という五年毎の記念事業として、いつもの東京のアロ劇団の公演だけでなく、地元劇団、とりわけ働くもとの演劇を特別例会としてとりあげようではなかというところから企画されたものだった。結果はいろいろんな事情で、ほとんどど労演の例会にはならなかった。そのためには、自分達の身近な問題を素材にした創作劇でというがねらっていた。

第一回、第二回は成功し、第三回は予定していた作者が途中で筆を折ってしまったので、既成の作品になった。第四回は二本の作品のうち一本が創作。五回目の今回も是非「大阪の劇作家の創作で…」という願いで一年半前の八四年正月あけから、在阪の八人の作家に個別に打診を開始した。各作家とも関心を示したが、それぞれに事情があり、結局書いてみようという東川宗彦、落日が、戦後四十年を迎えた現在、反核・背景のなかでタイムリイな作品であること、

ほ一年前の八四年の六月。しかし、その阿氏氏と奥村己氏の返事をいただいたのが、は情があり、結局書いてみようという東川宗彦、落日が、戦後四十年を迎えた現在、反核・背景のなかでタイムリイな作品であること、

△制作▽ 当初、売上げ目標三〇〇〇枚、総予算五四〇万円。大人前売一八〇〇円、当日券二二〇〇円。結果は、売上げ枚数二八〇〇枚、入場者数二四四七。収入(ペン広告料を含めて)約五三万五円。途中段階であまりチケットの売上げがび

も、東川氏はシナプス段階で降りられ、奥村氏は近松門左門の半生を描いた、杉本苑子の小説「理火」を舞台化した「近松・青と朱の時」という作品の、第一稿の三分の二くらいまで完成したが、上演できるかどうかの判断ができる段階まで行く前にタイムリイの判断が来てしまい、実現できずに終わった。やむなく各劇団から既成の作品の推せんを提出してもらい、候補に上った七本の作品の中から「荒野の落日」を選んだのが、日程からみて、もうこれ以上作品決定を運らせられないというギリギリの八四年の十月末であった。

参考までに他の候補作品を列記すると
。「郡上の立百姓」(こはやしひろし作)
。「白い闇の中の道」(ふじたあきや作)
。「雨」(井上ひさし作)
。「ライゼルク工場」(内田昌夫作)
。「蟹工船」(小林多喜二作、大垣藤脚色)
。「風よ玄海灘を越えて」(柴崎卓三作)
このうち、「郡上」と「風よ玄海灘」は最後まで候補として残ったが、結局「荒野の落日」が、戦後四十年を迎えた現在、反核・背景のなかでタイムリイな作品であること、

加藤光一の各氏、それぞれの分野で大阪の第一線で活躍している人々に参加してもらった。

二、この長く・暗く・重たい芝居を次へのスナツプに――
演出 堀江ひろゆき (劇団大阪)
中心メンバーの後退等、自演連の低帯を打破する為に云々消極的台詞をどう好転させるかと言う意味から、加害者としての自分を見つめ直す取り組みは、結果として、説教臭さを無くした舞台造りになり、連帯を生かした自演連らしいものとなって結実した。

二月十一日の一泊交流会に作者の土井大助氏を迎えてから、テリアル稽古は七三部隊の作品を選んで、まず、他の作品と比べて、最近書かれた本であり、俳優以外と吸収し、元軍人、元七三部隊員、下里正樹も上演していない点、また三十一場からな構成は、合同公演と云う大世帯の取組みにふさわしく、連帯感を舞台に生かせる点、そこからこの作品の持つ、明確なテーマ「戦争を告発する、被害でない加害の記録」に魅力を感じた点であった。

逆に不安面は、「悪魔の飽食」と云う原作の鮮烈な印象があるだけに、どこまで原作と

自演連として、全体のエネルギーを結集し得る内容であること、多場面、多人数の登場人物で、各集団が全員参加できるスケールであること(女性の役が少なことは難点であったが…)などが評価されて決定された。

△演出▽ 作品が内定した八四年十二月に、劇団大阪の堀江ひろゆき氏に、自演連幹事会として演出を依頼した。作品決定の場に演出が参画していないという問題はあったが、合同公演を成功させるという立場から心よく応援された。

△スナツプ▽ 装置に、若手装置家の内山勉氏を東京から参加してもらった。大がかりな装置プランで、二幕・三十場という大舞台をうまくつなげて公演成功の立役者の一人となった。他に外部からは、音楽に多田泉、照明に新田三郎、効果に青地珠久、歌唱指導に加藤光一の各氏、それぞれの分野で大阪の第一線で活躍している人々に参加してもらった。

戦争を知らない世代の戦争表現

と回転しました。

多と称せられた人々を実験材料に使つた十三里氏の話は、今回の上演に当つての一つの方向を打ち出すとに大いに役立つと言へる。

日常生活を送っているという臨場感ではないだらうか。

軍事教練は回を重ね、隊長役の役者の号令の下、一糸乱れぬ集団行動に汗を流し、自分の身体を痛めつける中で、何とも云へぬ連帯感を持つていったし、それが目的でもあったわけだが、稽古の中で十三部隊の崩壊に際しての石井隊長の「日本は敗けた」言葉で、演技ではなく、本當の涙が出るに至つては、やはり日本人なんだと痛感した次第である。

こういう連帯感をそのサンプリングを造る上での基調であつた歌だが、同時に、かつての「同期の桜」や「億萬火の玉」のように没個性となつて行く中でフランスの台頭を許したのも、ある意味ではこの「連帯感」である。日本型の統制社会においては、上の考案次第でどんな方向に行くか、実に危険なものをもっているわけで、そのミニチュア版が今の職場であるとも云へる。

現代社会は腐敗した金権政治の下で、総てが金次第の世紀末的現象をもたらして、教育の荒廢、文化の衰退をよきなくさしている。財界主導の政治は、経済における海外侵略を繰

り返して、国内では大金業による大衆からの利益の収奪戦が繰り広げられている。その労働現場では、高密度、長時間労働がすみ、ノローゼ、労働災害、過労死、若くして倒れていく労働者などが増加している。

ある保険会社で、一年間に二代後半から三〇代の四名の若もの自殺者が出た。その時のある経営者は、「仕事は戦場である。戦争にあれば死者も出る。勝つか負けるかの中

では当り前と言へる」とつそぶいたと言ふ。これはまさに四十年前の出来事が、現在の職場の中に君臨しているという事ではないだろうか。

労働現場における自分自身の姿と、かつて戦場に赴いた父母とを重ねあわせ、「七二一年における出来事は自分のことである」といふ臨場感を持つて舞台に立てたのではないか。

一つ劇場の様に思へた合同公演

五年毎に行われて来た合同公演も十年を経、第五回を迎えた。思い起せば、各公演毎に、その時の状況を反映して特色があつた。一九六五年「季卸風」、七〇年「懇

り「クインテ」は劇団未来を中心に創作劇を唯一、初めの段階から全力投球した「俯瞰劇は何か最も成果を得たのではないかと思へる。研」が最も成果を得たのではないかと思へる

が、自らの劇団活動に戻つた時、どう映されていくのか興味のある所である。

過去には合同公演が、五年毎の「日常活動八〇年には「コミン」の日々」をお青の総決算」と位置づけられて来たことが、今後の時代と共に様変わりし、合同公演への取組み方も委つていくように思へてならない。

しかし、取組み当初のもたつきが後半になると一丸とされるエネルギィは、大阪自派進歩の伝統的な楽天性とも受けとれ、あまり深刻に考える必要がないかも知れないが、一劇団では大掛りな取組みが持てにくくなつてきて

いる事は事実で、それだけに今後も大型作品を少なくとも五年に一回位は取りこんでいくという意味で、合同公演の役割を大切にしたいものである。

ともあれ、今回これだけの反響を呼ぶことが出来たのも、四十代のベテラン劇、三十代の中堅層、二十代の若者層がバランスよく活躍し得た事と、「荒野の落日」という作品が

取組みであつた。

最終段階では、参加劇団の総力をあけての大成功にたつたわけだが、これを得たものは、各劇団の取組みの整重によつて様々であらう。

すれば、それは現代の矛盾に端らした職場で、日常生活を送っているという臨場感ではないだらうか。

軍事教練は回を重ね、隊長役の役者の号令の下、一糸乱れぬ集団行動に汗を流し、自分の身体を痛めつける中で、何とも云へぬ連帯感を持つていったし、それが目的でもあったわけだが、稽古の中で十三部隊の崩壊に際しての石井隊長の「日本は敗けた」言葉で、演技ではなく、本當の涙が出るに至つては、やはり日本人なんだと痛感した次第である。

こういう連帯感をそのサンプリングを造る上での基調であつた歌だが、同時に、かつての「同期の桜」や「億萬火の玉」のように没個性となつて行く中でフランスの台頭を許したのも、ある意味ではこの「連帯感」である。日本型の統制社会においては、上の考案次第でどんな方向に行くか、実に危険なものをもっているわけで、そのミニチュア版が今の職場であるとも云へる。

現代社会は腐敗した金権政治の下で、総てが金次第の世紀末的現象をもたらして、教育の荒廢、文化の衰退をよきなくさしている。財界主導の政治は、経済における海外侵略を繰

り返して、国内では大金業による大衆からの利益の収奪戦が繰り広げられている。その労働現場では、高密度、長時間労働がすみ、ノローゼ、労働災害、過労死、若くして倒れていく労働者などが増加している。

これはまさに四十年前の出来事が、現在の職場の中に君臨しているという事ではないだろうか。

労働現場における自分自身の姿と、かつて戦場に赴いた父母とを重ねあわせ、「七二一年における出来事は自分のことである」といふ臨場感を持つて舞台に立てたのではないか。

一つ劇場の様に思へた合同公演

五年毎に行われて来た合同公演も十年を経、第五回を迎えた。思い起せば、各公演毎に、その時の状況を反映して特色があつた。一九六五年「季卸風」、七〇年「懇

り「クインテ」は劇団未来を中心に創作劇を唯一、初めの段階から全力投球した「俯瞰劇は何か最も成果を得たのではないかと思へる。研」が最も成果を得たのではないかと思へる

が、自らの劇団活動に戻つた時、どう映されていくのか興味のある所である。

過去には合同公演が、五年毎の「日常活動八〇年には「コミン」の日々」をお青の総決算」と位置づけられて来たことが、今後の時代と共に様変わりし、合同公演への取組み方も委つていくように思へてならない。

しかし、取組み当初のもたつきが後半になると一丸とされるエネルギィは、大阪自派進歩の伝統的な楽天性とも受けとれ、あまり深刻に考える必要がないかも知れないが、一劇団では大掛りな取組みが持てにくくなつてきて

いる事は事実で、それだけに今後も大型作品を少なくとも五年に一回位は取りこんでいくという意味で、合同公演の役割を大切にしたいものである。

ともあれ、今回これだけの反響を呼ぶことが出来たのも、四十代のベテラン劇、三十代の中堅層、二十代の若者層がバランスよく活躍し得た事と、「荒野の落日」という作品が

取組みであつた。

最終段階では、参加劇団の総力をあけての大成功にたつたわけだが、これを得たものは、各劇団の取組みの整重によつて様々であらう。

唯一、初めの段階から全力投球した「俯瞰劇は何か最も成果を得たのではないかと思へる。研」が最も成果を得たのではないかと思へる

ていくのではなからうかと考えている。

三、感想・「平和の世代が 感じた七三一部隊」

木下
修
(演劇集団わだち)

連とそれを取巻く肉親達の血の涙を感じずにはいられたかった。

私が演じた役は、七三一部隊凍傷実験班雇

員である。零下三〇度の寒風下に水に濡らし

た手を何分間さらすと凍傷はどうなるか、反

応が鈍くなるなど丸太棒で殴り、その反応をみ

る。全機能がなくならぬと切り落してしま

る。実験が進むとその犠牲者はタルフの様に手足

を無くしてしまふ。そうなれば焼却場行きで

ある。

戦後四十年、平和の危機が切迫する現在、

ともかく戦争を知らない世代として平和な時

代を生きて来た私にとって、七三一部隊との

出逢いはまさに衝撃そのものであった。

戦争と云う集団狂気が人間をどうも変えて

しまうものか。自分の肉親に剣先を突きつけ

ることがあなたには出来るだろうか。

ロシア人の母子は肉親の感情の一片も贈ら

れないまま、毒ガス実験場の中で命果てて逝

た。様々な人生を背負った人達が肉親達の深

い悲しみの中で三千人、七三一部隊の軍事医

学の研究のもとと云う口実で殺されてい

たのである。

人並みに家庭を持ち、子供も出来、人間の

出逢い、結びつきの大切さを知り、殺

された人達の平和の時代を思い浮べ、犠牲者

グナチウウラウタ。持病の十二指腸潰瘍が、

夜な夜なうすく。我ながら情けなかつた。

しかし稽古を重ねる内に、新しい顔の人達

とも親くなってゆく。単純なもので、その

頃から憂鬱な心は次第に晴れてゆき、や

役者という自覚も持ち始めた。

演出のタメにも「あそもうやったんか」と

以前よりずっと素直に納得していく。みんなか

ら「児童劇やな」と言われながらも、なん

とか頑張ろうという想いがふくらむ。結果は

ハチどうだったのか、他の役者さんよりず

と時間をさいてもらい、稽古して、や

まで来たけれど……。

しかしやはり、最終ステージでは涙があふ

れ、いっぱい、いっぱい思いがつのつた。芝

居の出来、不出来。この合同公演で「荒野の

落日」を上演した意義、等々。重要な事であ

る。

だが私にとっては、この公演で、素晴らしい

仲間を得、その仲間達と一つのものを生んだ……

という喜びの方が、何より大きい。いま文、

新たに芝居の新鮮さを感じる。

私は八年目にしてやっことここにたどりつ

た。また、いつか自信が喪失して揺れるだろ

う。だけれど、今は、やっことここで……。

まだまだ……これから。

五、後記

以上の「大阪自演連合同公演のまとめ」が

上演してから六月月後に活字になるとい

いさか時期を逸した不手際な状態になっ

て、七劇団が六月月もの間、ひとつの舞台を

創りあげるために協同作業した赤棟々な記録

は貴重であると思われので、おえて編集長

に頼んで掲載してもらった。ご了解願いたい。

は「いぶき」のひとたちの芝居づくりに対

する情熱にふれて、私たちの無くしてい

た。ものと呼び起こされた四時間、あ

間に過ぎました。本当に充実した

間だ。

●「安寿と厨子王」。手話が日常性の段階

を越え、美しい舞台表現になった。感動的

だった。琵琶の曲、うた、かたりは生で、

琵琶の音階でやって欲しかった。拍手、

●会場よし、安い、さわげた。企画の成功、

特に「いぶき」の上演は大成功、



西会議・編集委員 森本景文

①「ゼミ・感想のアナクト」から

●生れて初めて参加しました。私は耳が不

自由ですが、健聴者との交流は一番不安と

思ったより、一番たのしかったです。一番残念

なことは、手話通訳がはじかつた。もう一

つは分科会ときの二時間十分、休憩を入

れて欲しかったです。理由は、目をみてくれ

る。ろう者と健聴者との交流、おおくあつ

まりしたいな。

●モジュール上演、山田洋次監督の講演と最初

から盛り上がり、思わず特別分科会参加を申

し込みをしてしまいました。その分科会で

は「いぶき」のひとたちの芝居づくりに対

する情熱にふれて、私たちの無くしてい

た。間に過ぎました。本当に充実した

間だ。

●「安寿と厨子王」。手話が日常性の段階

を越え、美しい舞台表現になった。感動的

だった。琵琶の曲、うた、かたりは生で、

琵琶の音階でやって欲しかった。拍手、

●会場よし、安い、さわげた。企画の成功、

特に「いぶき」の上演は大成功、

四、感想・「やっことここで」

を、この芝居は与えてくれた様な気がする。

再び犯してしまし、ゾッとする恐しさ

四〇年前の「今だから伝えるまぢがい」を

抜いてしまつたのだろうか。

がやられた場合にも、仕事だけは忠実にやり

実には間に合わない。もうすでに、歌の練習

やっこと普通に打ける様になつても、開始時

間には間に合わない。

出られない日が続く。

しかし現実には臆く、仕事の都合で稽古に

キドキノ有頂点に喜んでた。

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

「息吹」では男の子の役やせいでいせいで娘役し

かやっことこのない私は、正真正銘の「女」

役が出来ると、もうそれだけでウクウク、ド

茶谷利津子
(劇団息吹)

○大きな人間と小さな

人間のお話

岡安伸治

このお話は昔々のそのまた昔のお話です。あるところに、それは大きな人間とちっちゃな人間がおりました。大きな大きな人間はふたまたますると日本の国を北海道から沖繩の方までいってしまつほどでありました。いつでもインドの山にもたれては、中国の方へ足をなげたして、することもなく樺で日本海をべちゃん、べちゃんと呼んでいた。雲の上へつきゅりと出ている大きな目玉をみて、そんな大きな人間を創つてしまった神様はえらく自分の失敗になさげない日々をすごしていたのでございます。そんなある日、神様の耳に地上のどこでやら小さな小さな声で「神様、神様」と呼ぶ声したので、雲の下をのぞいてみると、山の大きな一本杉の根元のところに小さな小さな人間が、いっしょうけんめいその大きな杉の木のでっぺんに回かつて、お祈りをして居るのです。「私は、小さくて小さくて、こんな米つぶにもた

りない、クンボ様のたねよりかゝる人間で、声を聞かぬで……」と神様はひたひたにどうか、どんなことでも話せる友達を下さい。手をおいて、たぬいきをつきました。これはあまり小さいで神様その昔、自分で創つしよにがんばりぬいて、りっぱに生きていきます。お願いです。こんなちっちゃな私のためにお話したいのです。どうか神様。おち、こけの白い花ひららほんの少しだけぬらしました。でも、その小さなしずくの音は神様の心は、それは大きくひびきわたりました。「これはこまごま。だいたい今までのと、願いでとどうととええ、カエルは鳴き声が気に入らないからええと、カラスは黒でなく黄金色にしてくれとか、セシは土の中に十年もいるのはがまんできなとか、クモは足のかすをアカチほどくれとか、ムカデは足のかすをへらして自由に空を飛べるとええとと。一年ごとと恐をしては片思いでまっかになるモジシは、春にも恐をさせるとか、かっではかりをいう。しかし、この小さな人間のいうことはそれとは違つ、なんとなく心ひかれるものがある。」神様も自分の失敗のこともあるので、なんとなくその願いを聞かなければならぬのではないかと思つたのです。そこで、雲の上にはんやり

顔を出している大きな人間を、その小さな人間とひき合わせてみようと思つた。大きな人間に声をかけようとして近づくと、その大きな人間はインソニチヤクヤドカリみたいな、すつと雲の中へ顔をひっこめてしまつた。気がつけて近づかないとおくびよう者の大きな人間は、あわてて逃げて海へ足を突かし、この間も神様のおくびにおどろいていきなりかけ出して、太平洋の海の底の火山帯をふんすけたものですから火山がなんか所もふん火して、島がいくつもでき上がつてしまつたほどです。さてさて、どうしたら大きな人間と小さな人間をひき合せてたよいのやら、小さくて大きな人間にはみえないので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつていたので昔よりずつと大きな声になつて……」と神様、ありがとう……とさけよ。とか、なきたくなるほどかほしいと「弱虫じゃないぞ。」といつたりするのです。でも、昔のことにして決して大きな声ではいけません。そつとさきさきくのです。そして、ふしきなこととに心から楽しときやうれしいときは、小さな人間の声は聞かえないのです。きつとそれは、いっしょに笑つていからなのでしよ。 (10・24)

「情無用荒川太鼓」(演集和歌山)を観て

谷野幸雄

(和歌山演劇鑑賞会副委員長)

九月二六・二七日晚公演の二七日に、かごと、動員した観客の数は、おそろしくまなりの立見者を出した満席の観客の一人として、「荒川太鼓」を観た。おそろしく前の日も大入道員の喝采を浴びたことだろうと思つた。まず、真先に何言わず、快哉を叫び、心が絶讃の拍手を贈りたい。

今度の栗原演出の芝居は、作者が鋭意調査し情熱を傾けた作品と、劇団の役者の持ち味と力を、遺憾なく融合させて、美事な舞台に仕上げたものであった。実にエホックメキメキな芝居であつたと喜びたい。

私は、創立以来殆んどかきす、演劇集団和歌山の芝居を観て来た。いまでもかなり良かつた部類のものや、正直言つて頂けないものも観て来た。しかし、今度は最も充実したものであつたし、心をなされるものであつた。

この芝居は県内の各地で、既に公演されて来た。その観客すべてに、強い感動を与えた。

れ紀ノ川の河原を、十三万の農民が埋めつくす。こんな情況なのである。

先ず舞台は、降ろされている幕の前のスクリーンに、宮村氏(本芝居の装置家)面く紀ノ川沿い風景と、本舞台の村落と鎮守八坂神社などの水彩スケッチ画が、ナレーションによつて映写される。これかまた淡々としていながら、実に効果的に、劇にいざなうことなる。

幕が上ると、荒川新村の与市(助野利治)と三太(植田幸男)が打ち壊した出かけるのを相談し、実行に移る。場は變つて、医者石州(鎌田昌信)と、本百姓の青年長太郎(矢の宮)は、紀ノ川筋の村々の主な組頭や本百姓たちと話し合い、強訴へと結論を導いて行く。

一方、地主荒川伝九郎(植西一義)に密告することによつて、耕作田地を増やして来た茂平(楠本幸男)は、全戸八軒の分断に力を注ぎながら、一方、妻オイト(広野のり子)に、けしかりられても、悪になりきれず苦惱する。荒川新村の長老(別院清)は、強訴に加わるのを反対する茂平、事の重大さを心にわかつていない作男与市を、とことまと

め上げていく。成功したかに見えた強訴から帰つて喜び合つてる村民に、山崎奉行所同心が追つてくる。山崎は、「たわけ者、百姓共と田を増やすことにとめて来た茂平をも、徹底したにしまれ役にはせず、苦惱し、揺れ動かせている。

長太郎と、与市の妹はるとの恋も、よく演じられていた。特にはるは、純心可憐な恋人をよく演じていた。また、茂平と妻オイトの芝居も、茂平が本百姓として、生活を安定させようとすれば、村民に、中でも与市にきらまれることをしなくてはならない、それを妻に加よつて引き立った。本にマッチしたものをと、意欲的に取り組まれたことにより、芸術性を高め、効果的であつた。八坂神社の社の出入りも、見ていて気がよかつた。

農民の持てるエホルギと苦しみと、音楽、音楽擁りとられても、虐げられても、虐げられても、弱い百姓が仲よく一致団結して、難儀を乗り越え解決して行くこと。恐徒しながらも、時期致すれば、恐れながらも、目覚めて、この芝居には、とり立て英雄となる中心人物はいない。本百姓長太郎、新村の組頭五平、作男与市、医者石州と、誰れをとつて見ても大切な人物である。しかし、中心に据えて、全幕を通じて押し出す人物をつくつていなかつたのが遺憾で、よかつたように思う。

良心の苦責、心さきからくる気の狂いなどに

ついては、記憶からうすれてきている。ただ相歌山城へと強訴に押し向う農民が、群衆となつて登場する場が多かつた気がする。ところが群衆の場が弱く、従つて主題も甘く、切先が鈍になつてしまつた。全体に作者の意気込みほどには、印象に残りにくい作品だつた。

この第一作の上演後、間もなくすぐ作者は、「荒川太鼓」の構想を練り、劇団の責任者別院氏や、栗原氏たちの意見を採り入れられたりして、昨年の上演を企画されたらしい。しかし、この一揆に大変詳しい和太教授のアドバイスをうけたたり、文献や、現地の調査を重ねて稿を練り、立ち稽古に入つてから、終稿に仕上げている。今回の公演に到つた。

「情無用荒川太鼓」のあらすじは、次の通りである。

文政六年(一八三三年)六月七日から十一日(陽曆七月末から八月初旬)にかけての四・五日の話である。空梅雨だつたらしく、夏日日照りが続き、水量の多きで有名な紀ノ川も、水が涸れて糸の様な流れとなる。紀ノ川の農民には、年貢の取り立ての厳しさに加えて、水騒動や、飢饉のおそれから物騒騒然となり、打ちこわしが各所に起る中に、水洒

力点を落いて、栗原演出は買かれている。

そしてその中に、若い男女の話、本百姓と

作男の家柄の差による結婚反対。ならず者で

あるが、芯の心根は健康的であること。裏切

りの悪に、徹しさせなく反省し、和解して、

許容して行くことにより、観客にはつき

かだった。

一揆と云う、為政者にとって、最も実行さ

せてはならない、法度犯しに対する、藩制の

あの嚴重な構え。またその責任者たちに対す

る処断は、見どころであった。責任者は、各

村の百姓の有力者や組頭である。それらを処

刑して大量に殺したいが、殺したのでは、米

の取り立ても減り、更に苦しくなる。この辺

の矛盾を、山崎同心が体格もがっちりし、声

もはって、なかなか好かった。

また今度の公演で、与市を演じた助野は、

酔っぱらいながらも、まじめな所は、しっか

りとらまえて、きびしさを必要とする演技

の中に、ほっとあわれさど、おかしさがあり

観客を笑わせたりして好演であった。特に人

柱として犠牲になる前に、祭り太鼓を打つ最

中に、とらえられ中断された太鼓をうたせて

もらい、力強く打ち、盛り上げた。従答とし

て犠牲にならず、逃げを試みて撃ち殺される

結末もよかった。

また、和歌山城、和歌山市周辺の当時の地

図や、荒川新村周辺の地図を用いて、石州医

者のや、五平に、当時の状況を説明させたこと

なども、なかなか効果があり、よくわかった。

演劇集団和歌山は、やはり和歌山弁による

創作物を、創作し続けてくれればと、一観客

として期待する。

最後に演出者の独白として、芝居の当日頂

いたペンフレットに、「これがこの劇団を演

出する最後の作品になるだろう」と云われて

いる。それが気にかかっている。重い病のやっ

とと性癡に向かわれている途中での、激しい仕

事で、健康を害されたのか、最後といわない

でほしいものだ。(文中役者名は敬称略)

「王と時間どろぼう」(劇団仲間)

ことあるごとく、時間、時間と追いまくら

れている人間の、それがもとも人間らしさ

を失っているという観祭は、そこまでなら誰

でもできる。しかし、それは時間どろぼうと

いうのがいて、人間に節約させ、稼ぎぬかせ

た時間を盗み、その「時間の花」を乾燥させ

て葉巻にして煙を吸うことで生きているとい

う飾るべき実態までには考えも及ばない。

これは、ミリアエル・エンテという、すば

らしい作者の発明である。

ところが、この時間どろぼうの灰色の怪盗

団にとって最も強敵なのは子どもで、彼らは

極めて無邪気に、自分の時間をほしほのままに

している存在なのだ。しかし、これも何とか

なる。そんなに遊んでいたら成績が落ちるよ

とか、そんな時間があつたら勉強しなさい、

劇評 ■ 観劇雑感 萩坂桃彦

「ゼミ・感想アンケート」から ②

●夜空に打ちあげた花火、ナイヤガラ漢布

のなかに燃え尽きる全り演の文字、かつて

みなかっただ程の工夫をこらした屋外大交流

会。総会での理念討論の希薄さも、これで

解消。疲れを知らない、熱気のもった、

分科会の、顔、顔の明るさ。全り演の歴史

は手渡して引き継がれていくようにだ。

●「仕掛花火」他準備万端整っており、大

交流会、やはりよいものですな。飲み過

ぎ、寝不足のなかではあるが、エネルギー

いっぱい吸収し、一層若返りました。「安

寿」、取り組みとしては大変感動したが、

作品の出来は、今ひとつ。あて声の問題、

機械的な美をもっと昇華させたいもの……

厨子玉の演技、リアリテの喪失の問題。

手話のあたりかきかけの美、一層拡大したい。

黒子(あて声役)を登場させたらどうか。

黒の紗幕の裏にでも入れて。

●あのフレイバーは何なのか?古手は

前途に横たわる壁の厚さに、ともかく今宵

だけは先のことを忘れようとしたのか。若

手は悩むことなくすんなりとか。中堅は、

まだ残っている若さを確認したか?たのか。

さら塾へ行く時間がすよという風に随とめ

ば、彼らは次々と陥ちてゆく。そうさせる人

間の大人たち、親たちは、見事にこの灰色の

怪盗団の手先になつてしまつていのだ。

ただこの物語りの主人公の少女のモモだけ

は、どうにも格別手に負えない。モモのもつ

ている時間のゆたかさ、美しさ、おどけなさ

は、なんとしても盗めない。

どろぼうたちは一計を案じ、モモの周りか

ら攻めることにして、その遊びなま、大人

たちも子どもたちも次々と攻略して、モモを

孤立させ、結局、モモが時間の使いようのな

またこの思想は、時間をうばわれた人間た

ちの滑稽さが、理髪店や食堂や街頭での描写

で、鋭い諷刺となつてあらわれている。それ

は紛れもなく、われわれの日々送つている、

現実の姿そのものである。

モモ（この日は栗山千秋）のあたごの
流れた演技、カシオペア（この日は後藤由美）
の色模様のスカイフ。
がある。それにソニアの上に、女ものの、
別れるものもあり、別れたものが、また他の
相手を探したりする結婚というもの、人生
における、一つの壮大な冒険とは言えないだ
ろうか——と、ジエームス三木氏（作並びに
演出）がカトリックで語ったとおりだが、
この劇の骨子である。いわば、結婚の検証劇
である。
ドバタに近いすれちがいや、トンチンカ
ンの山積みで息もつかせず見せてゆくの
で、どこへつれてゆかれるのかと落ちつかないか
たが、れん子を応援するアンクラ劇団のメン
バリーが、働きながら劇団活動をして懸命に生
きている、心やさしき戦士たちであったり、
計太郎老人が、その、かれから尊敬され慕
われている人物であるとか、この、
みじも虚偽の入りこんでやらぬれん子と計
太郎の恋愛に較べて、十三年間続いたという
誠と珠子の結婚生活は、ほんとうにそれぞれ
が、そこに生きたという証しがあったらうか、
という結末にいたっては、これは紛れもない
教訓劇である。
NHKの朝のテレビ小説「濁つくし」の、
漁師の息子と醤油屋の娘の不滅の恋愛、ロミ
オとジュリエット版は、ホンキかしらと思っ
た位、視聴者にむかって“愛”の説教でせめた
十年、五十年と続くのもあれば、瞬時にして
幕があくと、応接間でキツチンを並列して
みせたテラウツクスは舞台（ごちの生活水
準で云っている）、あの程度をテラウツクス
とはいわれないかもしれないが）しばらく、そ
のまま。舞空虛。
何が始まるか位の好奇心はそえられる。
やがてキツチンに主婦があらわれ、朝食の
支度である。はずんでいる。
ところが、応接間に来てみて、アレイ、と
思う。テリアルの上ヒールの飲みちらかし
てくる。ばかばかしいと思いつながら、ツイ
てしまうのは、巧妙なサスペンスでつない
でみせる作者（もちろん、ジエームス三木）
の作術のウツサのためである。
「結婚という冒険」は、確かにウエルメイ
ドである。
しからばこれを選者なコメンテーターやホー
ドリアンで演じたらどうなるであろうか、
と仮定してみたく、おそらくそれは別
種の作品に仕上げられることはまちが
いない。
端折つていえば、青年劇場の俳優の質によ
て生かされる、作者もそれに託している部分
があると思える。
前作「愛きずにはいられない」の役の女教
師の役も上りまじりであった。こんどの珠子
もやはり上りまじりである。かの女の気位、
か女の意気と負けず嫌い、そして赤ん坊の
ような素直さで見せる女性の「もろさ」がどち
らの作品の女主人公にとっても欠かせない要
素になっている。それを夫役の中野千秋がた
すけている。ふだりのシリウスな演技が上真
の喜劇となる。
計太郎老人に森三平大、れん子の佐藤尚子
とのコントラストもおもしろいが、さすがに

「結婚という冒険」(青年劇場)

(7・28 都市センターホール)

六十歳と二十二歳ではいろいろと論議が
入る。年がいもない老人の漁色か、若い娘の
老人の資産めあてか、どうせロクなことで
ないときめてかかるが、計太郎とれん子は極
めて正常であり、今はフラット・ラフで
やがて結婚をめざす、まっとうな間柄である、
と宣言する。
ヒマラヤに登ったり、北極探検をしたり、
太平洋横断したりも冒険にはちがいないが、
見も知らない男女が一緒にいたり、それが、四
十年、五十年と続くのもあれば、瞬時にして
幕があくと、応接間でキツチンを並列して
みせたテラウツクスは舞台（ごちの生活水
準で云っている）、あの程度をテラウツクス
とはいわれないかもしれないが）しばらく、そ
のまま。舞空虛。
何が始まるか位の好奇心はそえられる。
やがてキツチンに主婦があらわれ、朝食の
支度である。はずんでいる。
ところが、応接間に来てみて、アレイ、と
思う。テリアルの上ヒールの飲みちらかし

二人の間に発生えた「真実の愛」の根拠は示
しきれず、そこだけが宙に浮いたお笑い
劇になっている。
珠子の母親の小竹伊津子、鹿児島から上京
して来た、れん子の両親の朝倉久雄と藤井
美恵子が厚味を添える。
アンクラ劇団、アンクラドラマとかい
だが、一座のめんめんは、堂々と遊びの領分
で人を喰っている。折柄、「濁つくし」放映
中とあって、響元「八兆」の竹田徳十役の
葛西和雄が一座の座員の一人に扮して見得を
切って拍手を浴びていた。
これは観たのではなく、観せられたんだな、
と納得して席を立った。
(9・14 砂防芸術ホール)
「ナナちゃん」は宇宙人」(劇団銅鑼)

主人公がナナちゃんという十五歳の少女で
あることは同じであるが、原戯曲では、わざ
わざ、これは児童劇ではないと断つてあるの
に対し、銅鑼の台本は、どうみても児童劇
の思いついた組む替えの理由はあて判った。
銅鑼は、中・高校の移動公演用として採択し
たのである。
事情がわかってみると銅鑼のつくりかえ
(台本・演出早川昭一)は中々見事と言え
る。それは主として第一部の、宇宙人からのメッ
センジャーとして超能力児ナナちゃんが誕生し
するいきさつの部分であるが、これを、SF
マニアのナナちゃんの大助(高校三年)を一
中心とした少年少女たち、高校三年のナナちゃん、
その妹の中学三年のチヨちゃん、大助
の親友四郎クンのグループが宇宙人から贈ら
れた物体の謎解き、推理遊びの努力の結果と
してナナちゃんを誕生するという仕組みに変
えているところである。

二部の、例の署名名人歴訪に先だつて、第一部のソックリさを描くのが直接の目的ではな
いで、野球で著名なナナシマ・ヒデオへの訪問
で見せる。
これだけでは何の話か解りにくいと思つが、
この作品は、「核幻想メルヘン」とサウタイ
トルがつき、核戦争の危機に對して、十五歳
の少女が、工場街のむきくらしのパートの
屋上で、宇宙人から搜かた超能力をかりて
基本命題を提示するというがテーマである。
命題をつきつける相手は署名人である。
既に書いたナナシマ・ヒデオは原戯曲では
第一部歴訪の三番目に出てくる。
先ず、オネエさん（玉ねぎオネエさんと呼
ばれるタレント・白柳悦子）、ついで作家
（核問題にとりくむ大井源二郎）、ナナシマ、
そして飛長（財界の長老松北孝之助）、最後
に首相（長曾根恭弘）となっている。銅鑼台は
本はその中から作家大井源二郎を外し、その
他のインタビューは大橋戯曲のとおりであ
る。
第二部の歴訪には、それぞれ実在のモデル
を理想させるという興味もあつて、俳優の作
業としても工夫を要するが、また作者である
大橋氏の賢から言つて余りドッキングは書か
ぬという生煮えも出てくる。つまり、その人
物に生かすという理想にとりつかれて、それが
感ずるといふ幻想にとりつかれて、それが
可憐な少女ナナの、必死の核廃絶への訴え
と、それを受けて立つ日本の、善悪闘、財界、
政界のトップのオナナたちの咬み合わせは、
どこに意味があるのか。
それは、「核についてアナタはどう思いま
すか」という程度のアンケート訪問の域にと
どまるのではなく、少女ナナをかりた、作者
の、苦渋にみちた、重い怒りである苦悩のた
らば、観客に、それとして、つよい印象を与える
ために、やはり、第一部での、ナナの誕生
は、銅鑼の案出では、良くなかつたどぼくは
思う。対象を中・高校生におくとか、芝居は
こびの面白味とか、役者がそでたのしめる
部分とかをはすしての話しであるが、作意か
らは離れた、と思つ。
もともと原戯曲の始まりの場面は、劇作と
いふ仕事で貧窮の生活の近松三吉が、児童劇
にとりかかつていっているうちに、核戦争で人類が
滅ぶるといふ幻想にとりつかれて、それが
めという生煮えも出てくる。つまり、その人

触れずじまつた。

(9・14 労音会館)

「鯛の海」(アトル・ハカク)

今回の「地域劇団東京演劇祭」の出演劇団

紹介のチラシによると物語は次のようになつ

ている。

「いつもな、鯛漁、晨昏の筈この町も、

今年も活気がない。今日も海を眺め、鯛の群

を待ちわびる網元重治郎と若い漁師達。しか

しつゝ不安の中で重治郎は病に臥し、一方

若い漁師は保証を求め、彼のもとへ直訴に向

う。昭和初期、五島列島を舞台に繰り広げら

れる、海の男達の一大ロマン。」

まア、これで用が足りぬでもないが、網

元が苦境に立たされるのもう一寸いきつ

があつて金鷹島からの借金返済が出来ず、

沖網が担当に押えられるか、家屋敷を明け渡

すかの瀬戸際に立たされるシーンがある。

病気で倒れた父親を支えているのが息子ナ

栄治、後添いの妻のとめ、そして連れ子

子である。それに若い漁師の源吉、もう一人

は、男まさりの船大工の女房おりきである。

おりきは、臨月どころか、臨日の大きな腹

を抱えて働きまくる女傑。この役、プログラ

ムを見るに宮本佳子とあるが、見覚えのある

上原恵子に見えてならない。これがそつとど

すとどぼくの知つていゝのは、重治郎の中村

ジョーと二人ということになる。

劇の内容は、鯛漁一本槍の「アトル」とい

われる網元(中村ジョー)の危機に加えて、

若い漁師たちの動盪と造反、それが交錯しな

がら、無情な玄海灘の沖合いに向つて悲願の

叫びをあげるいゝとどりの漁師達の姿をま

しらつて展開する。

当初から結果は予想できる。そもそものと

ころ、鯛の大群が来ぬ限り、この芝居は成立

演という汗みどろの労働で観客に報いてい

ら、どこん性謙歌の一辺倒に墮している。熱

れたのであつたが、「鯛の海」では、どうや

とまあえて、俳優の技術の巧拙を越えて見ら

れる。そしてそれは、その通りになる。

法螺目が鳴り、歓声があがって、死の海は

甦える。アトルは大旗幟をひるかえし

て、狂喜乱舞の合唱である。

強慾な金貨しの西島(伊集院章)も郵便配

達(天野彰訓)も船大工の女房も、彼の船頭

はそれ相応なのであつたが、見るからに若い。

肌地をさらけ出して、通るセリフ、きこえる

セリフ、わかるセリフを薄身こめて、うちつ

けてくる。

この、人物の考證のアナトルなどはとば

問なしで二時間ほどビッシリと見せた上、代

作品の色合いはちがつてくる。

エリマクスな歯医者に変えていることでも、

である。この精神科医をナナちゃんの担当

の自画像を見ることは許されると思つ。「ゼ

ロの記録」についで、原爆や核という、大ナ

メに、ひたすらにとりくんでいる、この、め

ぐまれない、むしろどこか気取れた、労働者上

りの劇作家(作中の設定によるけれど)に、

父親思いのナナちゃんが、涙ぐましく立上

のが、この作品の思想であつたらうと思つ。

メルヘンというのは、それは余りにも悲

しい、幻想といつたには、余りにもリアルだ。

「ナナちゃん宇宙人」は明るくたのしい

芝居である筈がないし、あつてはならない。

重くて、せつない程の、作者の孤独な姿を、

そこに現してしまつたが、そこで沈黙してし

まつては、元も子もないではないかというの

が、銅鑼の選択だつたかもしれない。「ゼロ

の記録」の演出者でもあつた早川昭三氏の

かたちを奏えた友情と言えぬこともない。

譯々と書いていゝうちに、役者については

表中村ジョーの口上があり、なんとそのあと演目や大道具のオマケに、その役者をつく懸命まで処理されて、逆に、その役者をつくひよりに家庭生活や職場状況のオマケを添えてゆくのであるから、やたらに豪華が出る。むしろ、そのつけ足しているところがおもしろい。

登場人物が普通の状態で見えるのは、劇団総会の場だけである。

ところが、それが八噂の二人の稽古に入るところが、そのシーンでのプロンプターや裏方や嘘をつく子供の出てくる、この話が、「仙女たちのシンフォニー」と作品のテーマとどこでかわるのか、そんなことに関係なく、ただ稽古風景を見せているだけなのか、主役の京子がそれに不十分にしか参加できず、結局公演不能に陥入るといふ状況をみせるだけではないのか、その中のどれなのか、どれでないのか、よくわからない。

保育所の話も、若い智絵が保育をしているところではあつた。幾つもの役にも変つてみる。似たようなケースは世に下乃一座の「わんはうす・わんゆにねん」にもあつた。それは一向にかまわなないとして観客にとつて困るのは、悉く、持前のパッションや一所

「仙女たちのシンフォニー」(四紀念)

(10・4 三百人劇場)

チラの意図によると「神戸港に近いビルの一室。劇団ボート・ドラマは、一月公演入噂の二人へ向つて稽古中。主役の京子は子持ちで共稼ぎのため、参加が悪く、劇団の中は苛立ちがつのり、不満かたかまつてゆく。そして、ついに京子は役を投げ、公演は不能となる。働く女性の問題という現代のテーマに鋭くせまる書き下ろし作品」となっている。これだけ読むとスッキリと筋の通つた本に思えるけれど、実際の舞台は大へんである。登場人物は二人を載え、いづれも劇団ボート・ドラマのメンバーであるが、入団したばかりの十九歳の少女から五十歳に手のとどく

演出や大道具のオマケに、その役者をつく懸命まで処理されて、逆に、その役者をつひよりに家庭生活や職場状況のオマケを添えてゆくのであるから、やたらに豪華が出る。むしろ、そのつけ足しているところがおもしろい。

登場人物が普通の状態で見えるのは、劇団総会の場だけである。

ところが、それが八噂の二人の稽古に入るところが、そのシーンでのプロンプターや裏方や嘘をつく子供の出てくる、この話が、「仙女たちのシンフォニー」と作品のテーマとどこでかわるのか、そんなことに関係なく、ただ稽古風景を見せているだけなのか、主役の京子がそれに不十分にしか参加できず、結局公演不能に陥入るといふ状況をみせるだけではないのか、その中のどれなのか、どれでないのか、よくわからない。

保育所の話も、若い智絵が保育をしているところではあつた。幾つもの役にも変つてみる。似たようなケースは世に下乃一座の「わんはうす・わんゆにねん」にもあつた。それは一向にかまわなないとして観客にとつて困るのは、悉く、持前のパッションや一所

ビル会社の社員である夫との共稼ぎ生活のおつれや、八噂の二人でメリーの大役をもらったひ子が商會社のOLであったり、芝居のために二十三歳で独身の加代子と未婚の母になつたのぶえという妹の話なども出てくる。

どのエピソードもなかなかおもしろい。しかし、そのおもしろさの分だけ散散してゆく。おかしなもので、どう結末をつけるのだから、好意的な興味か出てくる。

フナエの見せ方は、みずその保育所活動でのスローガン、「幼・保の一元化反対」「福祉切捨て、監調反対」「措置10パーセントカット反対」「保育料値上げ阻止」を掲げた集会で、それに芝居を持ちこんで劇団財政の危機を救うという工作が美り、中国の寓話劇「仙女の錦」をたゞり見せる。芝居の自身は母親の生き方がもりこんであつて、「働く女性」の問題と結びつくわけである。華切れは、京子が、なかまの劇団員たちへ信頼にふみきつて、子ついで稽古に参加する決意をしたところを終るのである。

作・演出は桜井敏とあるが、ぼくに伝わつて来た消息では、これは集団創作であり、決意をしたところを終るのである。

信頼にふみきつて、子ついで稽古に参加する華切れは、京子が、なかまの劇団員たちへ「働く女性」の問題と結びつくわけである。自身は母親の生き方がもりこんであつて、話劇「仙女の錦」をたゞり見せる。芝居の危機を救うという工作が美り、中国の寓話劇「仙女の錦」をたゞり見せる。芝居のた集会で、それに芝居を持ちこんで劇団財政の危機を救うという工作が美り、中国の寓話劇「仙女の錦」をたゞり見せる。芝居の自身は母親の生き方がもりこんであつて、「働く女性」の問題と結びつくわけである。華切れは、京子が、なかまの劇団員たちへ信頼にふみきつて、子ついで稽古に参加する決意をしたところを終るのである。

「カチカチ山」(劇団潮流)

(10・11 三百人劇場)

くは女性劇団員からの要求が渦まき、あれもこれもとり入れて、四苦八苦の上のまどめ役が演出(岸本敏朗)だつたようである。これはしかし、今どき、ほのぼのとした、たのしい話だ。二十人を揃える登場人物にははつめたな生気があり、技量にも回突がない。ハジケるようなセリフの應酬で、スビエライな展開も見事だ。

劇団ボート・ドラマの演出者(江口慶一)の、しびれを切らして爆発するシーンや、挑発的な発言をする忠広(静岡一郎)、保育の智絵(延吉子)の園児への応待や保育所の集会であいきつするみずえ(上田珠代)、京子(安福むつみ)と春夫(中西哲)の夫婦喧嘩、保育所々長(白土房子・友田民子)のなれた演技などが印象に残つた。

(10・11 三百人劇場)

「カチカチ山」(劇団潮流)

大幸治に「お伽草紙」という仕事がある。がきてえるのである。

だから、この仇討話の主人公は、大幸に言わせれば、嬌慢な、小娘の鬼などではない。その小娘に惚れたばかりに、次々と陰惨な仕返しに見舞われ、悲運の生涯を終える狸が

主人公である。というより、そもそものところ、こんなひどい目に遭うことが許されていくのか、という狸の、ウツアが主題である。ところが、これは防壁障に潜んで、わが子に童話を話してきかせるといって、多分にフイクラショナルな本等の言葉に、のせられているのかもしれない。今は、それを荒々しく言おうと思えば言えるのだから、そんな風に言うてはしかなかった。

もちろん、狸を主役にするという構図(脚色・演出・藤本栄治)は外してはいない。出語りした作者の役(これも藤本栄治)もそのツボをはずしていないし、狸(山内勉)の熱心な仕振りもそれに適っている。

下座に大鼓と三味線を置いて、浄瑠璃で語り、時には人形振りを入れたり、大火傷の狸を御詠歌ではうむったり、泥舟で洗ひ断末魔では、波大鼓と河内音頭で囃したるといふ風に、趣向をこらしてあきさせない。

兎(宮崎由紀)の懸命な演技もいただけたし、コラス(高橋政一・小林進三・池下雅子・宮松美子)の仕分けもよく効いていたが、幕が降りて、どこか他愛なく、それで終わったという、切れの良さが、気になった。

(10・27 三百人劇場)

子ども達の明日は……

■ 劇評

(11)

夏は子どもの芝居のシーズンである。中部の各劇団は、一万人動員の年中行事となっている。はぐるまの親と子の劇場等々、大部分が子ども向けの企画に取り組んでいた。

“児童劇には児童劇独自の問題追求の積上がある。大人対象の劇団が片手間にやるべきではない”とか、“いい加減な企画をやられず、見や批判もよく聞かれるし、東芸議総会でも話題になったりしたが、“大人の芝居”にいついでも“混迷”があるのに子供の問題まで論じ切らず時間切れになることが多い。

私も子ども対象の舞台は好きだし、客席で元気な子ども達、舞台上で生き生きと暴れる若い役者諸君を見ていると前記の硬い意見もぞぞぞらしく感じられてしまうのである。

丸 子 礼 二

7月から9月迄の上演は以下の通り。

上野市民劇場 第11回親子劇場 6/30
 名張市青少年センター 7/22 上野市文化ホール アンデルセン原作 道井直次脚色

奥沢重久演出「はだかの王様」(再記)

劇団はぐるま 第70回公演 なつやすみ親子の劇場 No.14 7/20~22 岐阜市民会館 7/28 南濃町文化会館 てばやしひろし本 服部みつまさ演出「シャツクと豆の木」 全り清湯の山ゼミナールモデラ上演

ろう劇団いぶき・はぐるま合同公演 孤野町総合福祉会館ホール ふじたおきや作「さんしょう大夫」より てばやしひろし脚色演出「安寿と厨子王」

劇団名古屋 付属研究所第18期卒業公演 8/10・11 名演会館地下ホール 如月小春作 山岸裕孝演出「DOLL」

9/14・15 南図書館ホール 第5回天白

子ども劇場 9/7 名古屋平針小劇場 9/23 天白区役所講堂 栗木英章脚本 佐野秀明演出「旅立て孫悟空」

名古屋演集と劇団四日市はこの期間公演は

なく、劇団夜明け「陽気なハンス」と岡崎演

集「ゆきんと十二郎」は前号で紹介した。ま

た劇団がおは「ゆきと鬼んべ」を持って恒

例の員弁郡全小学校巡演にスタートしよう

(13)

「王様はハダカだ」：純真な子供の声で

決着がつかずおしやれ騒動、つきつきと新しい

きれいな衣装を要求し、一回落たらすてし

まっ。こんな王様に家来達も、「死刑じや」

と追求される仕立屋さん達も大崩り：徹夜

で作って倒れてしまった老仕立屋も代理の娘

が持参した衣裳がお気に入りなれば「死刑

じや」でとられてしまう。こんな所へつけ

てんだのが男女二人の旅芸人で「バカには見

えない最高級品です」と売り込む。実は何も

ないのに、家来達も「バカ」と思われるのが

怖くて真実を言えず、王様も「てりや何も見

はだまらぬ」と見えない衣装を着かざって、

● 奈白守備

校正テラがどいた日を抜くので前後、の仕事をおくめて、時間をかけて分析してみたい。「銅鑼」の「ナナちゃん」について、屈強のライバル劇団を訪れるチャンスにめぐまれた。

「未来」は「ナナちゃん」は宇宙人の公演で、作者の大橋さん、「銅鑼」の早川さ者を迎えての勉強会で、訳者の桜井郁子さんには一面識があるので、そのホスト役でのやり出されたのであった。

桜井さんはおもにトルストイの話をされた。この「馬の物語」の中に、どんな風にトルストイが投影しているかを話された。当然、ロゾフスキやこの芝居をホリショイ・ドラマ劇で演出したトリストイの語も出た。ソビエトに出かけて、その生身にお目にかかって来ての話だからおもしろい。大きなソビエトの男性に向きあった、小柄な桜井さんの姿が眩しく映る。「京浜」のみなさんは、この芝居を上演するの、とても相応しいと思うと、話をきたいのは、ナナちゃん(金沢百合子)としての父三吉(波田久夫)が、大橋さんの戯曲を読んで、先ずほくか描いたイメーシにピタッだったことである。

これら「未来」の夜の部を見る菊地佐玖子さんたちが居たためだっただかもしれない。まず、この「ナナちゃん」はあまり簡単なには喋れないという側面もあるの、それにはかまわない。ぼく自身の「観劇離感」での「ナナちゃん」は次号まわりのつもりであ

る。しかし待ちきれずに一言だけ言ってお

きたいのは、ナナちゃん(金沢百合子)と

その父三吉(波田久夫)が、大橋さんの戯

曲を読んで、先ずほくか描いたイメーシに

ピタッだったことである。

恒例のパレードにハダカで出かける。興派重バカか？いや、皆にさとられては大変。これは繁晴しい、見事だ。となつて行く大臣達の物、と一口に言つても、ジャックが登つて行く足がかりまで工夫され、これだけのものを演技も、もう一つメリハリをはききさせた方が面白かつたのではないか。

上野へ来るというも客席は空いていたのに、はさすがにスタッフを重視することを本年つづけて来たはるまの地力だなと感心した。

豆の木に比べて大悪党のカマキ夜、大男コルモラン（なみ悟朗）が意外に小さい。仕掛けた豆の木と違つてこちらは人間の俳優がやるのだから常人の何倍もの大きさを期待するのは無理というものだろうか、それにしても舞台上では一寸した違いでもかなり大きく見えて面白かつた。「ジャックは作っていないです」と言つて、ひょっとすると現代の子供達は真実を呼ぶのをためらつてしまつて、この作品ははなより以前に書かれたもので、登場人物や衣裳小道具類は「簡単、少数、が原則となっている。現在の子供劇場等では、逆にテラックス、金のかかつた、トリックの多い商業的なものが多いようである。それと競う必要もお金もないけれど、幕開きの玉座の衣裳通樂のあたりはセリフで説明するだけでなく、「これもダメ、あれもダメ」と言う所を台本をふくめて工夫が欲しかつた。それと「あれ、何も見えない、そうすると私は

代的になりもし、外れてもいる様に思う反面、宮殿のベットの龍がリモコンだったり、色々と楽しめる様につられていて、原作通りだったら子供っぽすぎてついでに子供達も充分楽しめると思う。ジャックの藍川シユキが、走ったり登ったりで意外と芝居の仕どころの少ない役をきちんと演じ切つていたのに好感がもてた。

(5) 名古屋の区役所の講堂はみんな舞台が狭い。そこで子供達の夢がふくらむような芝居は作りにくい、まして孫悟空もと来ては……、実は余り期待しないで客席に坐つていた。ところが幕が開くと猿達の群が……側帳、前転、後方回転と眠まるしく動く。中にはベテランの平沢加寿美さんの姿も見える。十人近い人物（？）立ち並ぶだけでも一杯になりそうなのに、飛んだり、ころけたり……うむむやるな、と感心。悟空（小野義明）とボス猿（藤平道弘）の立ち回りは更によく飛び、回転し、後で聞いたのだが、とにかく猛練習だつたそうである。新人達のエネルギーおそろべし、もっともボス猿の藤平君は閉幕後、倒れてしまつたそうであるが……

さんぞうとの出会い、頭にはめた金の輪の

しめつけによる降参、八坂、悟浄の弟子入り、と割にいい話がつく。悟浄の浅津和代の一才トボクたような持味が面白い。桃娘たちの色仕掛けにとろけてしまつ弟子達、猿ぎらず演技上からもドラマになることが多い。中部プロクでは子供のための専門にやっている劇団はなく、大体年一回くらい要望と劇団の条件に合っている所で企画が持たれて、にせさんぞうの方が待遇がいいので弟子達がハモンしたり、栗木英喜の脚本は最後のてんじく（チラシにはてんじくとなつていて、孫悟空役の小野義明がよく動いて、セリフも素直で、見ているとさわやかな感があった。このあたりの若い人々の伸びがあれば名々の明日は明るい。あと、舞台装置はめぐり式になつていて場面転換によつて一枚つづ変えるのだが、一寸アテアテ倒れでパツとしないか？というのが惜しい。

(6) 中部プロク各劇団の演目や日程をこの数回、十何回という公演が積上げられている。普及のため芝居が重要な位置を占めている。普及と入りがよく、地域のことのための各団体の連携も組まれていて、その点でも意義が大きい。

内容的にもあまり心理上難しい演技よりは単純明確な表現が要求され、若い演技者にかぎらず演技上からもドラマになることが多い。中部プロクでは子供のための専門にやっている劇団はなく、大体年一回くらい要望と劇団の条件に合っている所で企画が持たれて、にせさんぞうの方が待遇がいいので弟子達がハモンしたり、栗木英喜の脚本は最後のてんじく（チラシにはてんじくとなつていて、孫悟空役の小野義明がよく動いて、セリフも素直で、見ているとさわやかな感があった。このあたりの若い人々の伸びがあれば名々の明日は明るい。あと、舞台装置はめぐり式になつていて場面転換によつて一枚つづ変えるのだが、一寸アテアテ倒れでパツとしないか？というのが惜しい。

(6) 中部プロク各劇団の演目や日程をこの数回、十何回という公演が積上げられている。普及のため芝居が重要な位置を占めている。普及と入りがよく、地域のことのための各団体の連携も組まれていて、その点でも意義が大きい。

演技の涙か、本当の涙か ——「吹雪」(劇団山形)を観て

高橋 寛

(たいごん屋)

内容がわからないうちにセリフもあるか生き生きとしてじつによい。登志子が帰ってくるころは、もことハヤカワな感じがあった方がよい。東京の下宿、壁に大きな当時の東京を象徴するような写真とか絵をはるとか、もう少し警備気をたしたい。音響、汽車の音などよい。おとうさん役はもう少しふけてもよいのでは。ないか。一幕のラスト、出征する弟に「必ず、必ず帰ってくるんだよ」の場もよい。

二幕の歌会、若者の楽しい語らい、アドリアム入っているところが交流を楽しくしてよい。弟が戦死して、横山との結婚も父にゆるされない登志子が「なにもかもいやになつた。どこかへつれて行って」とすがる姿は、女医と女心にゆるさざるをえて、よい。

「一刻をあらそう病人です、手術するためこれからは晴れをします」雪景色、吹雪、フォアウォーのいう風の音、ゴロンク風と大戦争、医薬品の不足や弟の出征、暗い時代の中、登志子の希望は歌会で知り合った恋人横あしめ、地面をほうようとして、病人のそりをはてぶ一群……なぜか、このシーンを見てみるだけで胸にあついものがこみあげてくる。暮あき、診療所の装置がいにいにとくらわて、よい。下手のわらわき小屋も効果的。地元元農林課長が方言でしゃべり出すと、つわる想いが湧いてくる。そして、終幕、雪

あれは演技の涙だったのか、いや本当に泣き欲がひしひしとつたわってくるような舞台であつた。

「おしん」(NHKテレビ小説)のふるさとで知られる山形県西村郡大井沢地区で、自分のすべてを犠牲にして村人の医療に生涯をかけた志田周子という女医さんがモデルの話である。

昭和十年、登志子は故郷大井沢へ医師として三年間の約束で帰ってきた。約束の三年目、幼い弟妹を残しての母の急死、念願の東京行きを断念せざるを得なくなる。やがて戦争、医薬品の不足や弟の出征、暗い時代の

中、登志子の希望は歌会で知り合った恋人横あしめ、地面をほうようとして、病人のそりをはてぶ一群……なぜか、このシーンを見てみるだけで胸にあついものがこみあげてくる。暮あき、診療所の装置がいにいにとくらわて、よい。下手のわらわき小屋も効果的。地元元農林課長が方言でしゃべり出すと、つわる想いが湧いてくる。そして、終幕、雪

望の地元の創作劇に取りこんだ劇団員の意向、山形市民会館ホールで観た。二十周年に、相沢嘉久治・劇団山形共同作品を、十一月九日、劇団山形二十周年記念公演「吹雪」(二幕)となつた。

山をバックにスライド文字がいくつか写され、「七月十七日、食道癌のため永眠、五十一歳」で幕が下りた。

脚本が良かった。劇団も燃えた、客も入つた。よいことづくめの公演であつた。

劇団二十周年の底力をみせた。しかも、安部信子、佐藤陽子等の女優陣の奮闘、そして男では、金子与志春、後藤弘司などじつに味のある役者、松井光義、古林嘉弘、渋谷常義、角川博道等、中心メンバーの健闘で、このところの団員減少で苦しんでいる危惧をいっぺんにふきとばしてくれた。

「吹雪」に負けない強く大きな劇団にこれからもうくりあげていくよう期待したい。

○断想 「戦争と青春」

のがむつかしくなってきた。

「回転軸」の反抗はいささか理想的だし、学生たちのストライキの際の指導者、もと全協の労働者木原正平(井上鉄夫)のタンカはどこか大時代の感じがして見えています。昨年十月に見た劇団仲間の「汝等青少年学徒」も十年ほど前の作品である。それにもかかわらず、今、あらためて上演の意味をもつのは、戦後四十年、政治反動が露骨に、反民主、軍拡の正体を見せて居そうだが、なかなか居なかつた人物にみえる。しかしそれにもかかわらず、居たのである。しかしそれにもかかわらず、居たのである。中津川衛の表現に虚構を感じなかつたのは、そのためである。

戦争と青春、というテーマでは三者三様の舞台を提示したと思う。實が違つたので比較する必要はないが、その中で「青春の岩」についても多かれ少かれ、作者の体験をふまえているめんがあるのだ、或は貴重な最後のものになりつつあるという気がしないでもない。舞台の形象の上でも、軍隊を描くスタイルも、そのリアリティを検証する

せぬのかというさびしさも残つた。(報)

「全日本リリアム演劇会議」加盟劇団名簿

1985年12月1日現在

東 会 議

<北海道ブロック>

劇団さっぽろ

063

札幌市西区手稲宮ノ沢485-41

劇団新劇場

062

札幌市豊平区豊平4条12丁目3 楠川信行方

<奥羽ブロック>

劇団弘演

036

弘前市品川町1アザシ内

劇団文木

030

青森市本町1丁目6-14 ふじビル4F

劇団レオ

037

五所川原市松島町7-87 後藤方

黒石演劇研究会

036-03

黒石市乙徳兵衛町51 加賀谷方

劇団東風(やませ)

031

八戸市鮫町燕島町14桎谷方

劇団展案座

018-31

秋田県山本郡二ツ井町下野家後7-3 工藤方

<東北ブロック>

劇団山形

990

山形市東青田5丁目8-5

劇団たいてん座

997

鶴岡市本町3丁目19-11 高橋方

酒田演劇研究会

998

酒田市光ヶ丘4丁目5-18 上野方

<関東ブロック>

劇団ふくしま

960

福島市世木野未梨下14-3 嘉藤方

仙台小劇場

980

仙台市五橋1丁目5-13 平和友好会館2F

劇団さっぽ

307

結城市観音町643-1 平山方

劇団群馬中芸

371

前橋市昭和3-15-2

劇団埼玉

330

大宮市染谷1171-4

演劇集団おけら

310

水戸市栄町1-8-16 中嶋方

劇団協同

190

立川市曙町3-48-7 黒田方

演劇集団土の会

177

東京都練馬区大泉学園町7-15-30 吉田方

舞芸小劇場

176

東京都練馬区豊玉上2-3-24 今成方

青年劇場

160

東京都新宿区新宿2-9-20 間川ビル6F

演劇集団未踏

160

東京都新宿区新宿1-10-15 新御苑ビル

劇団銅鑼

171

東京都豊島区池袋4-1754

東京芸術座

177

東京都練馬区下石神井4-19-11

劇団展望

166

東京都杉並区阿佐谷南3-3-32

世仁下乃一座

176

東京都練馬区豊玉中3-5-2-304 岡安方

演劇集団石るつ

135

東京都江東区白河2-13-8 吉川複写工業内 境野方

京浜協同劇団

211

川崎市幸区古市場2-109

湘南アートシスター

251

藤沢市辻堂新町1-2-7-907 貞包方

<山静ブロック>

劇団やまなみ

400

甲府市青沼1-8-5 梅津方

劇団静芸

420

静岡市昭府町289-2

(0542) 73-0604

(0552) 33-9556

(0466) 33-6522

(044) 511-4951

(03) 642-6383

(03) 948-7338

(03) 393-2739

(03) 997-4341

(03) 986-4977

(03) 341-9350

(03) 352-7054

(03) 973-5998

(03) 924-6107

(0425) 24-0881

(0292) 24-7661

(0486) 84-3082

(0272) 32-0550

(02963) 2-8475

(0245) 57-5040

(0222) 64-2340

(0234) 33-0978

(0235) 24-1688

(0236) 32-4105

(0185) 73-5602

(0178) 33-1913

(01725) 2-4097

(01733) 5-8323

(0177) 77-4677

(0172) 35-4670

(011) 814-3480

(011) 663-6259

734	劇団月曜会	広島市南区字品御幸3-12-17-406 岩井里子	(082) 255-5173
719-11	岡山職場演劇集団	総社市富原480-3 岩城方	(08669) 2-4325
<中国ロック>			
664	劇団・市民劇場・やぎ	伊丹市千僧字船原20-9 坂上方	(0727) 81-6550
660	劇団螺線館	尼崎市杭瀬北新町3-47 尾尻コーポ4F	(06) 488-9215
650	神戸職場演劇連絡会	神戸市中央区下山手通9-9-7 西藤ビル2F	(078) 351-6969
652	劇団どろ	神戸市兵庫区大開通7-4-7 谷垣ビル4F	(078) 576-6488
650	劇団四紀会	神戸市中央区元町2-9-1 元町テラザ612	(078) 392-2421
<兵庫ロック>			
611	人形劇団京芸	宇治市白川鶴倉山35-20	(0774) 21-4080
606	人間座	京都市左京区下鴨東高木町11	(075) 721-4763
612	劇団京芸	京都市伏見区納所北城堀31-18	(075) 631-2609
<京都ロック>			
553	演劇集団わたち	大阪市福島区福島6-12-17 川村ビル4F	(06) 458-1455
578	劇団息吹	東大阪市中野244-14	(0729) 64-4441
559	人形劇団クラメル	大阪市住之江区南加賀谷町3-1-7	(06) 685-5601
546	劇団2月	大阪市東住吉区今川町1-10-12	(06) 714-9545
542	劇団大阪	大阪市南区谷町7-1-39-103	(06) 768-9957
551	劇団きづかわ	大阪市大正区泉尾4-2-7	(06) 553-7991
550	劇団未来	大阪市西区江之子島1-7-11 新うづぼビル4F	(06) 447-0301
557	劇団潮流	大阪市西成区松1丁目6-17 橋モータープール内	(06) 658-2315
545	関西芸術座	大阪市阿倍野区文ノ里4-18-6	(06) 621-2112
西 会 議			
<大阪ロック>			
641	演劇集団和歌山	和歌山市和歌浦南1-1-14	(0734) 45-4537
643	劇団いこら	和歌山県有田郡湯浅町湯浅1259-1 栗原方	(07376) 3-0322
<個人会員>			
176	岡田 和義	東京都練馬区羽沢2-12	(03) 991-1723
210	大橋 喜一	川崎市幸区小向仲野町3-2-406	(044) 533-3779
921	桜井 裕子	金沢市山科3丁目6-10 早川方	
924	こじ谷一朗	石川県松任市石同新町412-4 糺谷方	
508	劇団夜明け	中津川市北野丸山	(05736) 5-4937
500	劇団はぐるま	岐阜市西野町1	(0582) 65-1852
511	劇団すかお	秦名市森忠睦美丘1058	(0594) 31-4210
519-14	劇団上野市民劇場	上野市丸ノ内共同ビル3F	(0595) 23-5252
510	劇団四日市	四日市市北浜町9-10	(0593) 51-9426
456	劇団名古屋	名古屋市熱田区新尾頭町2-2-19	(052) 682-6014
451	劇団名古屋演集	名古屋市西区庄内通4-16-3	(052) 524-5975
468	劇団名芸	名古屋市天白町大字平針向田446	(052) 803-2922
444	岡崎演劇集団	岡崎市元欠町3-10-3	(0564) 21-5012
<中部ロック>			
430	劇団からっかせ	浜松市鶴江4-18-13 布施方	(0534) 53-9289

210	川崎市川崎区渡田4-11-3	秋坂 桃彦 (編集長)	<演劇会議>
211	川崎市幸区古市場9-21(または京浜協同劇団) 明石市東野町1-5-1009(大村 武)	西・事務局 熊本 一 東・事務局 坂谷 護 事務局次長 梶 武史	<事務局>
673	明石市東野町1-5-1009(大村 武)	事務局次長 梶 武史	
814	福岡市早良区有田2-10-4	猿渡 公一 (現代劇場)	
730	広島市中区住吉町6-14 山口ビル303	土屋 清 (劇団月曜会)	
615	京都市右京区椋原内垣外町25-1A403	藤沢 薫 (劇団京芸)	
606	京都市左京区上高野上荒時町1-1	仲 武司 (関西芸術座)	
211	川崎市幸区古市場2-109	中沢 研郎 (京浜協同劇団)	
184	小倉井市貫井南町5-12-13	後藤 陽吉 (青年劇場)	
463	名古屋市守山区大森中町田680 大森東住宅12-303	丸子 礼二 (劇団演集)	
500	岐阜市桜通4-16	てばやし・ひろし (劇団・はぐるま)	
810	福岡市中央区薬院1-6-5 たつむらホワイテイ薬院410	福岡現代劇場	
815	福岡市南区高宮1-4-12-505 松尾せつ子方	劇団生活舞台	
810	福岡市中央区薬院1-6-5 たつむらホワイテイ薬院410	福岡現代劇場	
812	福岡市博多区奈良屋町2-9 山五ビル2F	テアトル・ハカタ	
810	福岡市中央区春吉1-7-18	劇団道化	
815	福岡市南区高宮1-4-12-505 松尾せつ子方	劇団生活舞台	
810	福岡市中央区薬院1-6-5 たつむらホワイテイ薬院410	福岡現代劇場	
771-12	徳島県板野郡藍住町住吉乾 瑞穂団地 斉藤さとし方	劇団阿波っ子	<九州フロック>
790	松山市木屋町4-35-1 酒井(畑野)方	劇団てじか座	
745	徳山市都町1-13 周南文化センター内	劇団草の美	<四国フロック>
743	光市島田西領家赤道2478 兼清方	劇団もって	
753	山口市東山2-9-10 藤原方	演劇サークル・トラム	
755	宇部市松山町10-24 東洋針灸科内	劇団若者座	
(044) 333-0775	川崎市川崎区渡田4-11-3	秋坂 桃彦 (編集長)	<演劇会議>
(044) 544-3737	川崎市幸区古市場9-21(または京浜協同劇団) 明石市東野町1-5-1009(大村 武)	西・事務局 熊本 一 東・事務局 坂谷 護 事務局次長 梶 武史	<事務局>
(078) 911-1513	明石市東野町1-5-1009(大村 武)	事務局次長 梶 武史	
(092) 831-1696	福岡市早良区有田2-10-4	猿渡 公一 (現代劇場)	
(082) 244-0624	広島市中区住吉町6-14 山口ビル303	土屋 清 (劇団月曜会)	
(075) 391-5039	京都市右京区椋原内垣外町25-1A403	藤沢 薫 (劇団京芸)	
(075) 701-2570	京都市左京区上高野上荒時町1-1	仲 武司 (関西芸術座)	
(044) 511-4951	川崎市幸区古市場2-109	中沢 研郎 (京浜協同劇団)	
(0423) 81-1590	小倉井市貫井南町5-12-13	後藤 陽吉 (青年劇場)	
(052) 798-2865	名古屋市守山区大森中町田680 大森東住宅12-303	丸子 礼二 (劇団演集)	
(0582) 52-1640	岐阜市桜通4-16	てばやし・ひろし (劇団・はぐるま)	
(092) 271-5090	福岡市博多区奈良屋町2-9 山五ビル2F	テアトル・ハカタ	
(092) 731-0977	福岡市中央区春吉1-7-18	劇団道化	
(092) 531-1166	福岡市南区高宮1-4-12-505 松尾せつ子方	劇団生活舞台	
(092) 751-7982	福岡市中央区薬院1-6-5 たつむらホワイテイ薬院410	福岡現代劇場	
(0886) 92-8736	徳島県板野郡藍住町住吉乾 瑞穂団地 斉藤さとし方	劇団阿波っ子	<九州フロック>
(0899) 24-3415	松山市木屋町4-35-1 酒井(畑野)方	劇団てじか座	
(0834) 31-7642	徳山市都町1-13 周南文化センター内	劇団草の美	<四国フロック>
(0833) 77-0248	光市島田西領家赤道2478 兼清方	劇団もって	
(0839) 22-0393	山口市東山2-9-10 藤原方	演劇サークル・トラム	
(0836) 21-7468	宇部市松山町10-24 東洋針灸科内	劇団若者座	

付録・〈加盟外の劇団〉

「演劇協議」の番号名簿から適宜抽出しました。

980	仙台市1番丁2-5-5 第2中央ビル4F	(0222) 66-3685
120	東京都足立区東和5-12-7-103 石塚方	(03) 629-3286
133	東京都江戸川区北小岩7-3-20 吉岡方	(03) 659-8704
241	横浜市旭区川島町1927-9 河住方	(045) 373-4571
960	福島市岡部字内川原115 羽田方	(0245) 34-1345
421	静岡市安倍口団地5-38-407 泉地方	(0245) 34-1345
915	武生市上大田町10-2 サキサカマシヨン302 橋本方	(0778) 24-0571
328	栃木市片柳町1-22-30 喫茶じょりんば内	(0282) 23-4010
424	清水市三保292-10 前田啓造方	
540	大阪市東区大手前元町 大阪府職員第2書記局気付	
660	尼ヶ崎市昭和南通9-257	(06) 412-1371
683	米子市昭和町23-2 宮倉方	(0859) 33-9302
078-11	旭川市東旭町上兵村133-4 菅野方	
071-13	旭川市末広4条8-5013-12 高梨方	(0166) 57-3836
085	釧路市貝塚1-6-19 加藤方	(0154) 42-8009
090	北見市幸町8-3-4 扇谷方	(0157) 24-3357
047-02	小樽市鏡函町2-47-16 鹿角方	(0134) 62-3254
068-21	三笠市幌内住吉町9 加藤方	(01267) 2-3044
085	釧路市米町3-1-18 板野方	(0154) 41-7920
062	札幌市豊平区平岸4条12-8-4 秋元方	(011) 811-9036

大 一 号 後 部

◇絵会・ゼミナールの特集号ということで、そのほかの原稿は多少手控えたのですが、それが裏目に出たようです。あの、熱気のもった「湯の山ゼミ」も、やはり誌上での再現はむづかしいところがわかりました。むしろ、各劇団が、持ち帰ってからの作業、たとえば、劇団はぐるまの座内紙での「ゼミ特集」、劇団弘演の竹中正さんの個人レポート、劇団名古屋の「ホットな、ゼミ参加感想集などの方が、鮮やかに写し出しています。三劇団には脱帽です。

◇それにしても、これはと考えた人に、「安寿と厨王主」の感想や分科会の印象など、期待をこめてお願いしたのでしたが、お忙しい人とは知らず、ご指名に辻褄さがあつたのでしょうか、梨の際でした。そのかわり、劇団いぶきの河合依子さん、劇団未来の古川洋子さんが、誠実にこたえて下さつたのには助けられました。

◇十月のほぼ一ヶ月間を使用して開催された、東京、三百人劇場での、「地域劇団東京演劇祭」の参加七劇団のうちの四劇団が、全りの加盟劇団でした。全り演として、この企画に対処するためのゆとりがなく、四劇団個々の才覚でまかなわれましたが、折角の、西側からの上京公演なのに、迎えた観客数の少なさは、人知れず胸が痛まりました。この行事が年次のに定着してゆくものとしたら、全り演としても、組織的に、対応、検討する必要がありそうです。次号には、参加劇団からの、卒直な報告を期待します。

◇いま、加盟劇団の中にも活動休止や解体状況のものがあったり、また組織老化にともなう座員数の固定化や減少、或は「演劇会議」

の、若い読者に不向きな誌面などのマイナス要因で、部数の低落がすすんでいます。絵会で、その克服と増紙への運動が話し合われましたが、それには先ず、足もとの、未納誌代の払戻が先決です。落伍者のない隊列を組んで進みましょう。

◇十一月・十二月は東・西とも上演の自白押し。東の「東京物く者」の演劇祭、西の「大阪新劇フェスティバル」。いずれも次号送りになります。また、来年一月の、岐阜での、第三回、全り演「演劇フェスティバル」についても、今のところ具体的な予告は出来ませぬ。

西会議からは、月曜会が「ネームリング」(作・岡安伸治)、四紀会が「仙女たちのシンフォニー」(作・桜井敏)が決つたようです。東は……。

(も)

演劇協議 六一号 一九八五年 十一月一日発行

定価 五〇〇円 (送料二〇〇円)

編集委員 萩坂桃彦・こばやしひろし

丸子礼二・仲 武司・藤沢 薫

森本景文・栗原 省

演劇協議 発行所

〒 川崎市川崎区渡田四一―一三

はぎ書房内

電話 〇四四 (333) 〇七五

川崎信用金庫小田支店 一三三二七

誌代振込は または郵便振替 横浜 〇・一七二二七